

---

---

**芦屋市 男女共同参画に関する職員意識調査  
調査結果報告書**

---

---

**平成29(2017)年3月**

**芦 屋 市**



# ～ 目 次 ～

<b>I</b>	<b>調査の概要</b>	<b>1</b>
<b>II</b>	<b>回答者の属性</b>	<b>4</b>
1	性別	4
2	年齢別構成	4
3	職位別構成	5
4	未既婚	7
(1)	未既婚	7
(2)	配偶者・パートナーの職業	8
5	子どもの状況	9
(1)	子どもの有無	9
(2)	末子の就学状況	10
6	同居家族構成	11
<b>III</b>	<b>調査結果</b>	<b>12</b>
【1】	男女平等意識について	12
1	男女の平等意識	12
【2】	結婚・家庭生活について	17
1	結婚・家庭生活に関する考え	17
2	家庭内の仕事の分担について	21
(1)	理想とする分担	21
(2)	現実の分担	22
3	希望する介護者	32
4	家族介護についての考え	35
5	男性が家事や子育て等を行うイメージについて	37
6	男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なこと	39
【3】	子どもの教育について	41
1	子育てについての考え方	41
2	子どもの性別による教育機会の希望	45
3	子どもの性別による生き方の重要度	48

【4】	職業生活について	53
1	女性が職業をもつことについて	53
2	女性が働き続けるために必要なこと	56
3	離職した女性の社会復帰について	59
4	女性職員の職域拡大・登用推進に必要なこと	61
5	女性管理職の割合について	64
6	就労状況の男女差について	67
7	役職への昇任意向・昇任を望まない理由	73
	(1) 役職への昇任の意向	73
	(2) 役職への昇任を望まない理由	76
8	育児休業・介護休業の利用状況	79
	(1) 育児休業の利用状況	79
	(2) 介護休業の利用状況	80
	(3) 育児休業・介護休業の利用に消極的な理由	82
【5】	配偶者や交際相手からの暴力等について	84
1	配偶者からのドメスティック・バイオレンス	84
	(1) 過去5年間における配偶者の有無	84
	(2) 配偶者からのDV経験について	85
	(3) 配偶者からのDVの相談相手	88
	(4) 配偶者からのDVについて相談しなかった理由	90
2	交際相手からのドメスティック・バイオレンス	92
	(1) 過去5年間における交際相手の有無	92
	(2) 交際相手からのDV経験について	92
3	セクシュアル・ハラスメントについて	95
	(1) 過去5年間におけるセクシュアル・ハラスメントの有無	95
	(2) セクシュアル・ハラスメントへの対処方法	97
【6】	男女共同参画の取組について	98
1	男女共同参画社会に向けた取組の認知状況	98
2	男女共同参画関連用語の認知状況	101
3	男女共同参画推進にとって重要なこと	103

# I 調査の概要

## 【調査の目的】

「第3次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」と「芦屋市配偶者等からの暴力対策基本計画」の見直しに当たって、芦屋市職員の男女共同参画に関する意識や意見等を把握し、「芦屋市女性活躍推進計画」を含む今後の計画づくりのための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

## 【調査対象】

市職員（特別職を除く。）

## 【調査方法】

調査票による本人記入方式

各課長あてに配付・個人が庁内便にて提出（回収）

## 【調査期間】

平成28（2016）年8月18日～8月31日

## 【回収結果】

	配付数	有効回収数	有効回収率
全体	1,590件	1,378件	86.7%
女性	1,000件	887件	88.7%
男性	590件	475件	80.5%

※有効回収数の全体には、無回答16件が含まれています。

※性別の選択肢は、「1.女性」「2.男性」「3.( )」としましたが、3の回答は0人。

## 【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、回答比率の合計は100%にならない場合があります。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした(複数回答)設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数(標本数)です。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数\*を「n」で表記しています。
- (4) 図表中における年齢層別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者(例えば、年齢層別でクロス集計する場合における年齢の無回答者)を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合があります。
- (5) 図中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値(例:0.0%, 0.1%など)は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合があります。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合があります。
- (6) 図表中、設問によっては、回答割合を考慮した上で「わからない」と「無回答」を合算して表記している場合があります。
- (7) 表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示しています。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていません。また「無回答」は表記から省略しています。
- (8) 設問によっては、本市で過去に実施した調査(平成23年10月~11月実施)との比較を行っています(図表等では「前回調査」と表記)。なお、比較した設問によっては選択肢が一致しない場合がありますので、その選択肢については比較を行っていません。
- (9) その他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載しました。

※(例)問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における「男性」や「30歳代」…など、限定された回答者数

**【前回調査の概要】**

## ①調査目的

平成 19 年度策定の「第 2 次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン（後期計画）」の見直しにあたり，市職員の男女共同参画に関する意識と実態を把握し，次期計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

## ②調査対象

市職員（特別職・嘱託職員・臨時的任用職員を除く。）

## ③調査期間

平成 23（2011）年 10 月 20 日～平成 23 年 11 月 4 日

## ④調査方法

調査票による本人記入方式

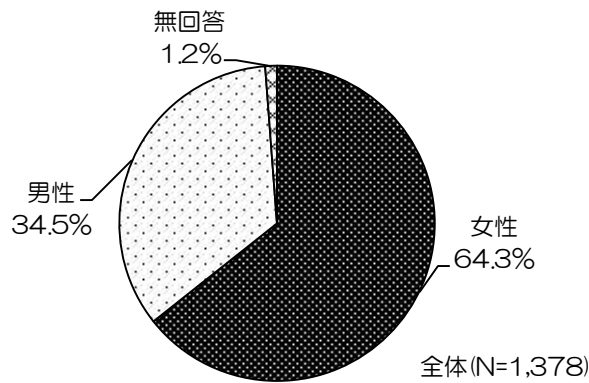
## ⑤回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
全 体	1,044 件	646 件	61.9%
女 性	469 件	274 件	58.4%
男 性	575 件	372 件	64.7%

## II 回答者の属性

### 1 性別

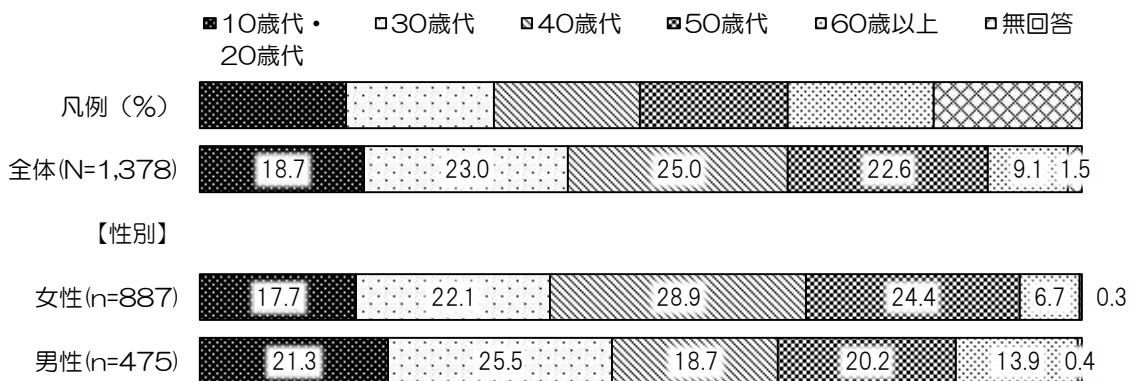
性別構成比は、「女性」64.3%、「男性」34.5%で、女性の割合が高くなっています。



### 2 年齢別構成

年齢別構成は、「40 歳代」が 25.0%と最も高く、次いで「30 歳代」(23.0%)と続き、40 歳代以下で合計 66.7%を占めます。その他、50 歳代が 22.6%、60 歳以上が 9.1%となっています。

性別では、男性に比べて女性で 40~50 歳代が高く、男性は 60 歳以上がやや高くなっています。

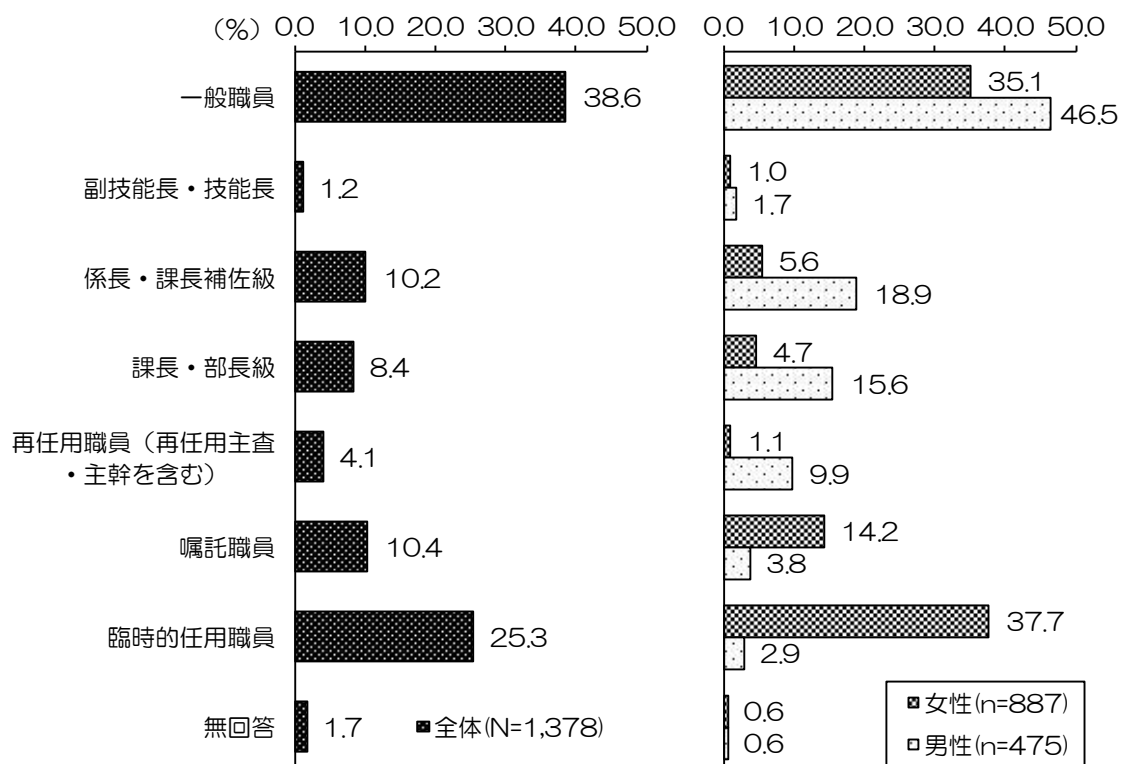




### 3 職位別構成

職位別構成については、「一般職員」が 38.6%と最も高く、次いで「臨時的任用職員」(25.3%)、「嘱託職員」(10.4%)、「係長・課長補佐級」(10.2%)、「課長・部長級」(8.4%)の順となっています。

性別でみると、男性に比べて女性で特に「臨時的任用職員」が高くなっています。その他、女性で「嘱託職員」、男性で「係長・課長補佐級」「課長・部長級」がそれぞれ高くなっています。



性・年齢別では、女性のすべての年齢層で「臨時的任用職員」が高く、特に女性60歳以上では47.5%となっています。また、女性60歳以上は「嘱託職員」も高く、男性60歳以上は「再任用職員（再任用主査・主幹を含む）」が高くなっています。さらに、男性40歳代で「係長・課長補佐級」、男性50歳代で「課長・部長級」が女性の同年代と比べてそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	一般職員	副技能長・技能長	係長・課長補佐級	課長・部長級	再任用職員(再任用主査・主幹を含む)	嘱託職員	臨時的任用職員
全体	1,378	38.6	1.2	10.2	8.4	4.1	10.4	25.3
【性・年齢別】								
女性	29歳以下	157	68.2	0.0	0.0	0.0	2.5	28.0
	30歳代	196	46.4	0.0	6.6	0.0	10.2	36.2
	40歳代	256	28.5	1.2	8.6	5.1	16.0	40.6
	50歳代	216	17.6	2.8	6.9	13.4	19.4	39.4
	60歳以上	59	3.4	0.0	0.0	0.0	16.9	32.2
男性	29歳以下	101	97.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	30歳代	121	63.6	0.0	29.8	1.7	2.5	2.5
	40歳代	89	30.3	1.1	36.0	28.1	3.4	1.1
	50歳代	96	17.7	6.3	21.9	45.8	1.0	3.1
	60歳以上	66	3.0	1.5	1.5	4.5	68.2	16.7

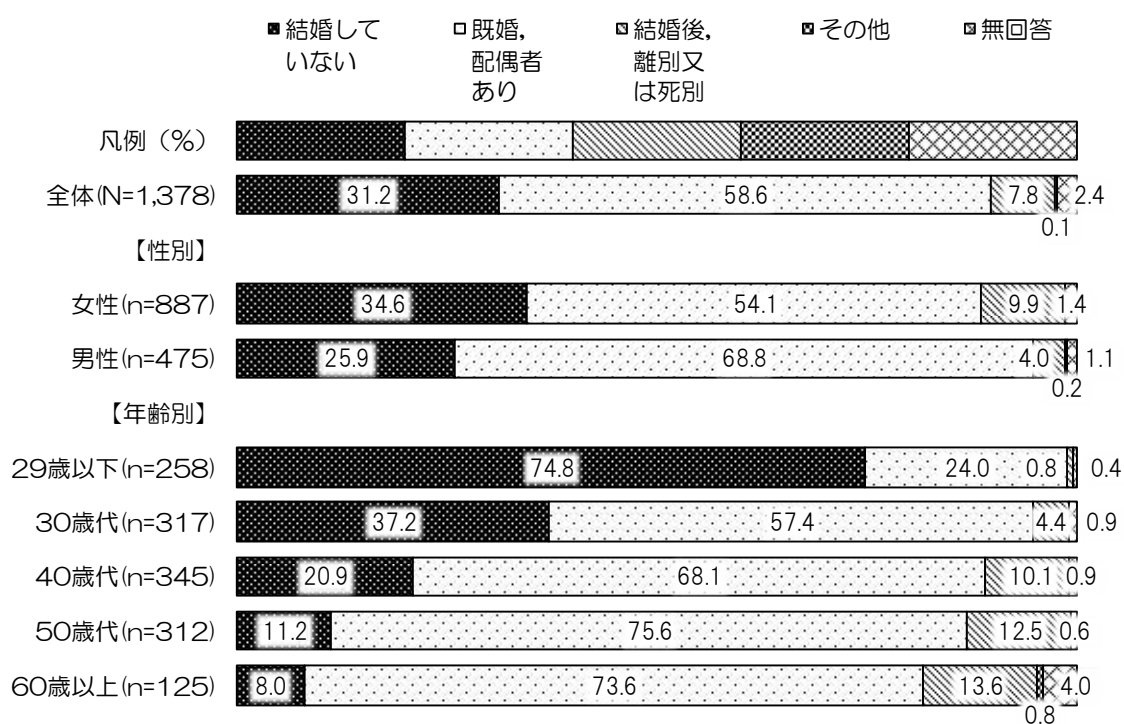
## 4 未既婚

### (1) 未既婚

未既婚については、「結婚していない」が31.2%、「既婚，配偶者あり」が58.6%、「結婚後，離別又は死別」が7.8%となっています。

性別では，男性に比べて女性で「結婚していない」が高くなっています。

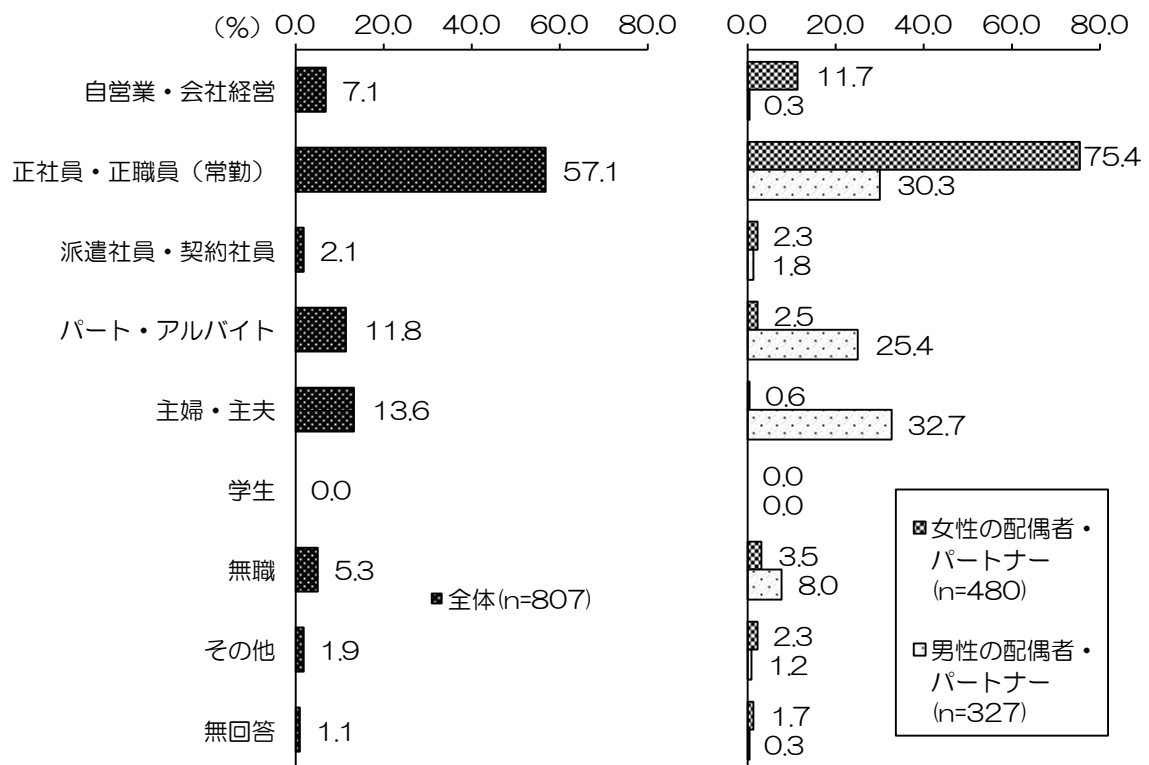
年齢別では，若い年齢層ほど「結婚していない」が高くなる傾向にあり，29歳以下の未婚率は7割以上を占めます。



## (2) 配偶者・パートナーの職業

配偶者・パートナーの職業については、「正社員・正職員（常勤）」が 57.1%と最も高く、次いで、「主婦・主夫」（13.6%）、「パート・アルバイト」（11.8%）の順となっています。また、「無職」「主婦・主夫」「無回答」を除く合計値（共働き率）は 80.0%となっています。

性別では、女性の配偶者・パートナーは「正社員・正職員（常勤）」「自営業・会社経営」、男性の配偶者・パートナーは「主婦・主夫」「正社員・正職員（常勤）」「パート・アルバイト」の順に高くなっています。

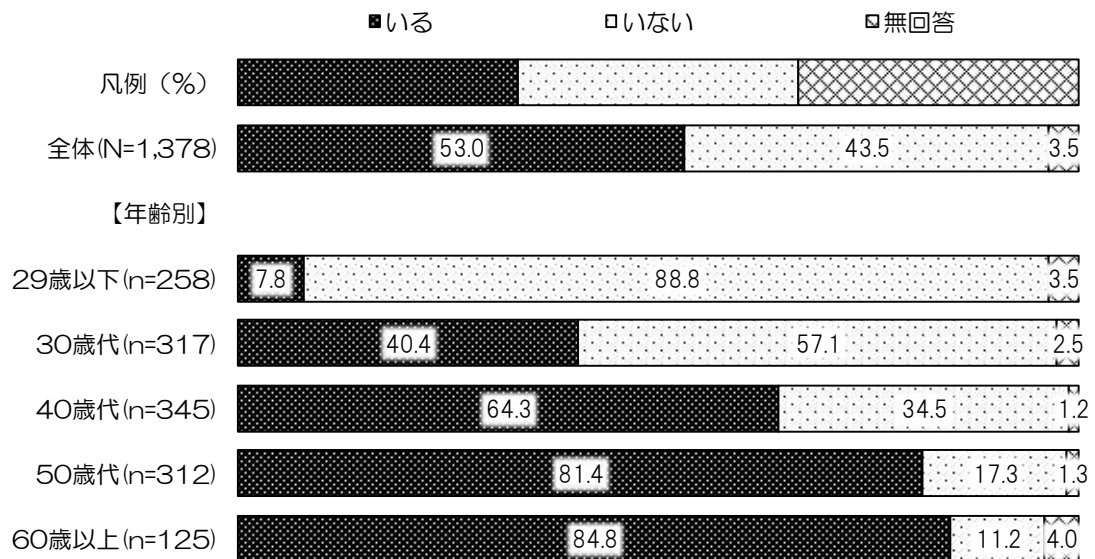


## 5 子どもの状況

### (1) 子どもの有無

子どもの有無については、「いる」が53.0%、「いない」が43.5%となっています。

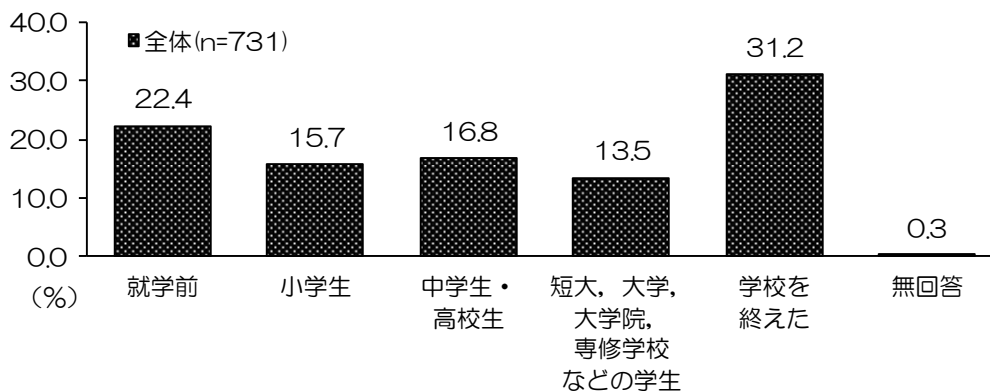
年齢別では、年齢が上がるほど「いる」が高くなっています。一方、29歳以下で9割近く、30歳代の過半数が「いない」と回答しています。



## (2) 末子の就学状況

末子の就学状況については、「学校を終えた」が31.2%と最も高く、次いで「就学前」(22.4%)、「中学生・高校生」(16.8%)、「小学生」(15.7%)、「短大，大学，大学院，専修学校などの学生」(13.5%)の順となっています。

年齢別では，30歳代以下で「就学前」，40歳代で「中学生・高校生」，50歳代以上で「学校を終えた」がそれぞれ高くなっています。



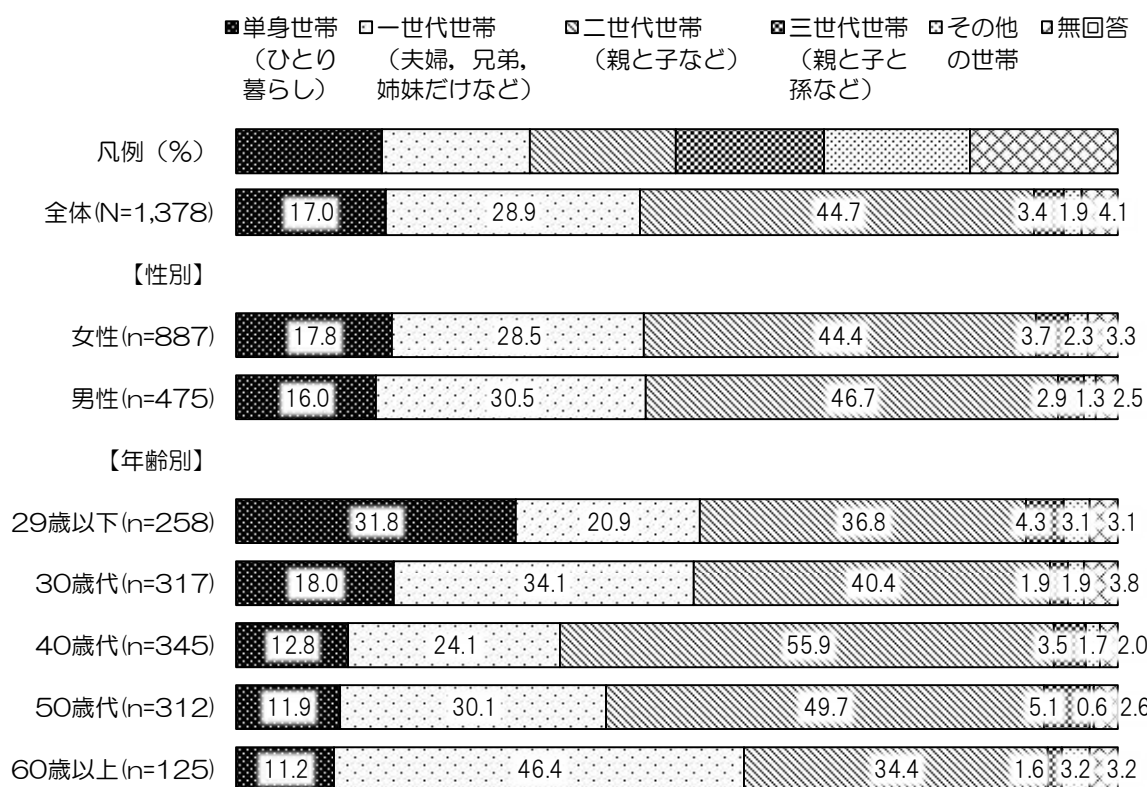
単位 (%)	サンプル数 (件)	就学前	小学生	中学生・高校生	短大，大学，大学院，専修学校などの学生	学校を終えた
全体	731	22.4	15.7	16.8	13.5	31.2
【年齢別】						
29歳以下	20	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	128	74.2	25.8	0.0	0.0	0.0
40歳代	222	22.5	31.5	34.2	8.1	3.2
50歳代	254	0.0	3.5	18.5	28.0	49.6
60歳以上	106	0.0	0.9	0.0	9.4	89.6

## 6 同居家族構成

同居世帯の構成は、「二世帯世帯（親と子など）」が 44.7%と最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦，兄弟，姉妹だけなど）」(28.9%)，「単身世帯（ひとり暮らし）」(17.0%)の順となっています。

性別による差は目立ちません。

年齢別では，若い年齢層ほど「単身世帯（ひとり暮らし）」が高くなっています。また，40～50 歳代で「二世帯世帯（親と子など）」，60 歳以上で「一世帯世帯（夫婦，兄弟，姉妹だけなど）」がそれぞれ高くなっています。



# Ⅲ 調査結果

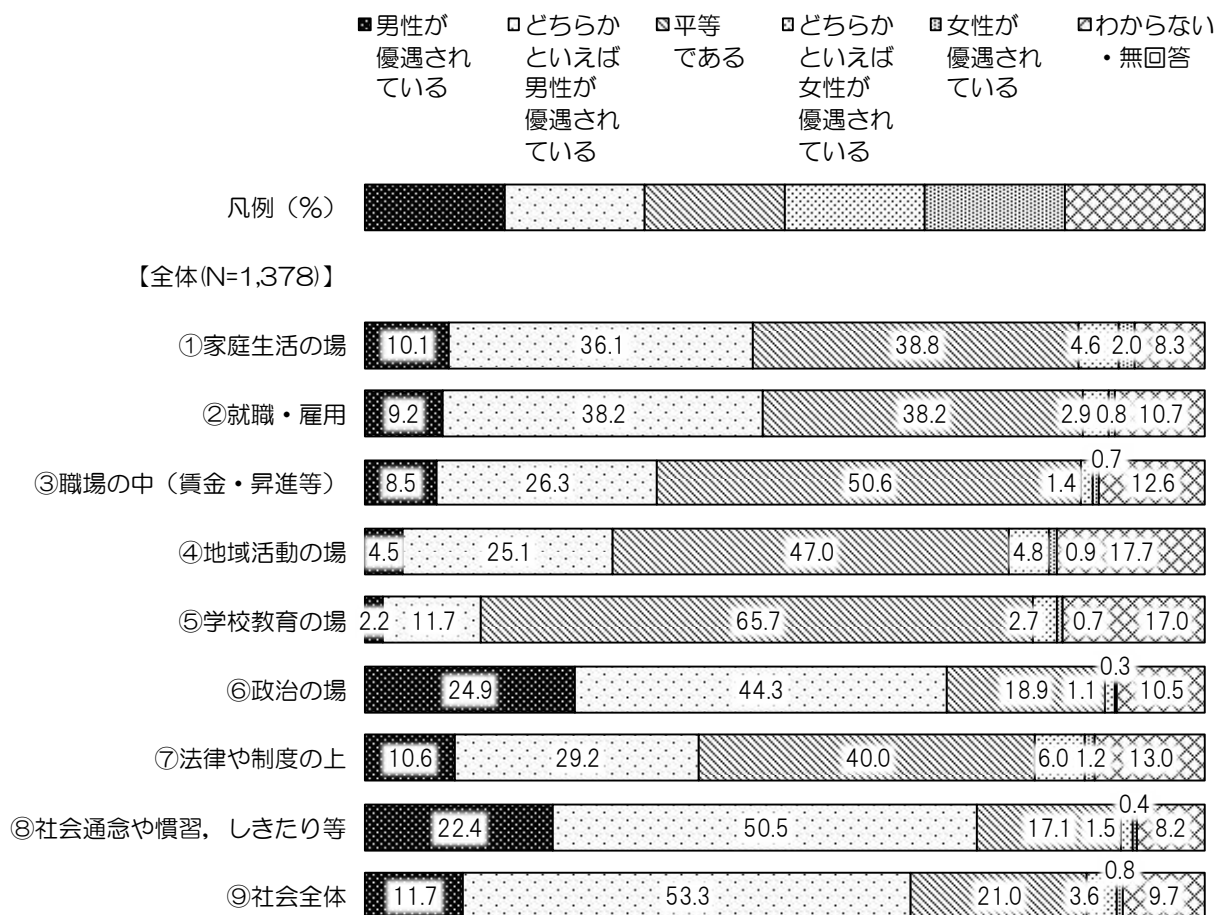
## 【1】男女平等意識について

### 1 男女の平等意識

問7. 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。次の各項目についてあなたのお考えに最も近いものをお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

男女の平等意識に関するすべての分野において、『男性優遇\*』意識が『女性優遇\*』意識を上回っています。『男性優遇』意識が高い順に、「⑧社会通念や慣習、しきたり等」(72.9%), 「⑥政治の場」(69.2%), 「⑨社会全体」(65.0%) となっています。

一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「⑤学校教育の場」(65.7%), 「③職場の中(賃金・昇進等)」(50.6%), 「④地域活動の場」(47.0%) などがあげられます。

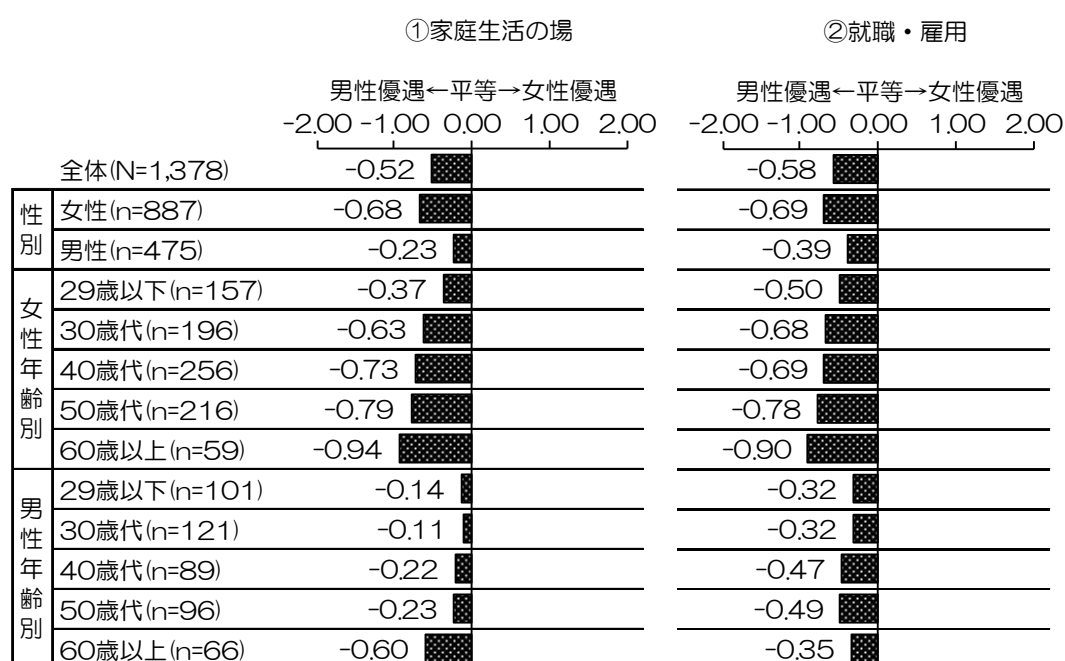


\*「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性優遇』, 「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせて『女性優遇』としています。



加重平均値\*による属性別傾向をみると、性別では、すべての分野で女性の『男性優遇』意識が男性より高くなっており、特に「⑥政治の場」「⑦法律や制度の上」でその差が大きくなっています。一方、男女とも「⑤学校教育の場」についてはおおむね『平等』意識となっています。

性・年齢別でみると、すべての分野で女性は年齢が上がるほど『男性優遇』意識がおおむね高くなる傾向にあり、特に女性60歳以上ではすべての分野において他の層よりも高くなっています。

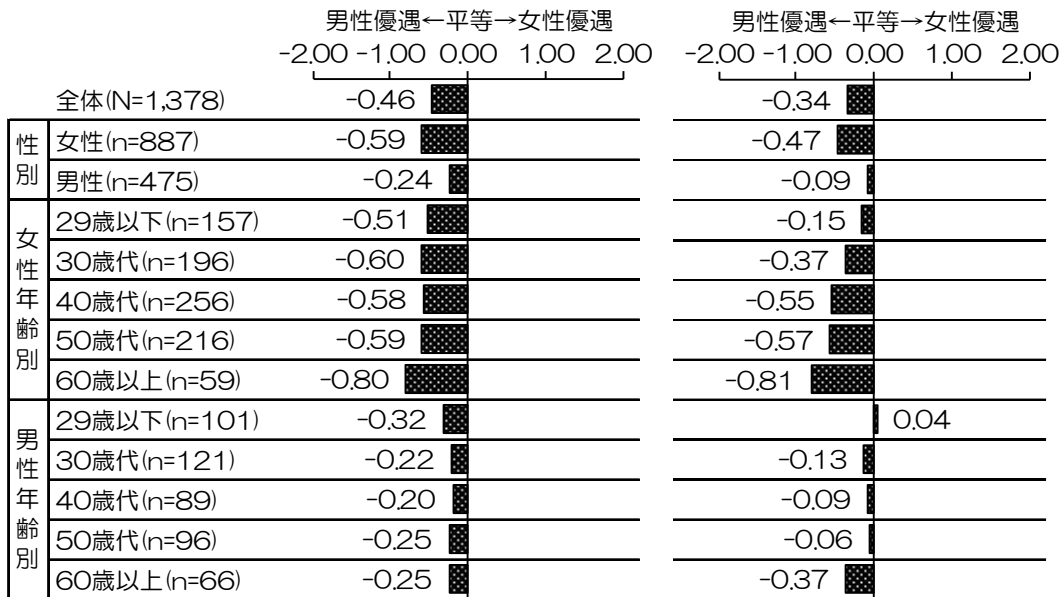


※加重平均値による属性別傾向

加重平均値とは、「男性が優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性が優遇されている」に-1点、「平等である」に0点、「どちらかといえば女性が優遇されている」に+1点、「女性が優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標です。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではありません。

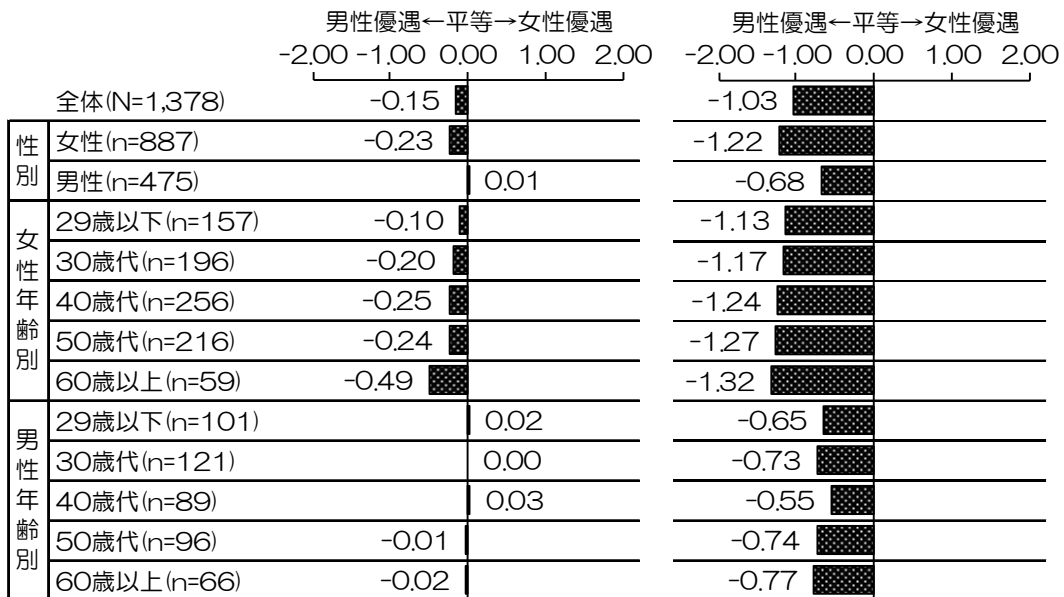
③職場の中  
(賃金・昇進等)

④地域活動の場

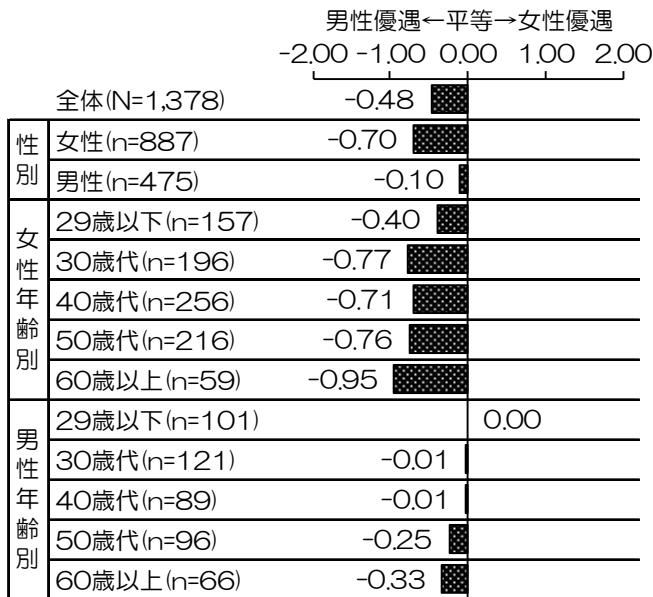


⑤学校教育の場

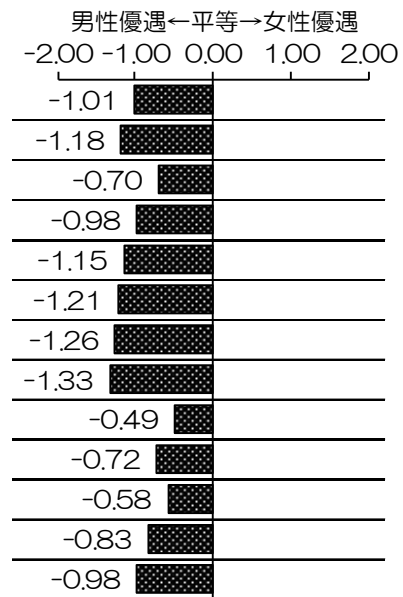
⑥政治の場



⑦法律や制度の上



⑧社会通念や慣習, しきたり等

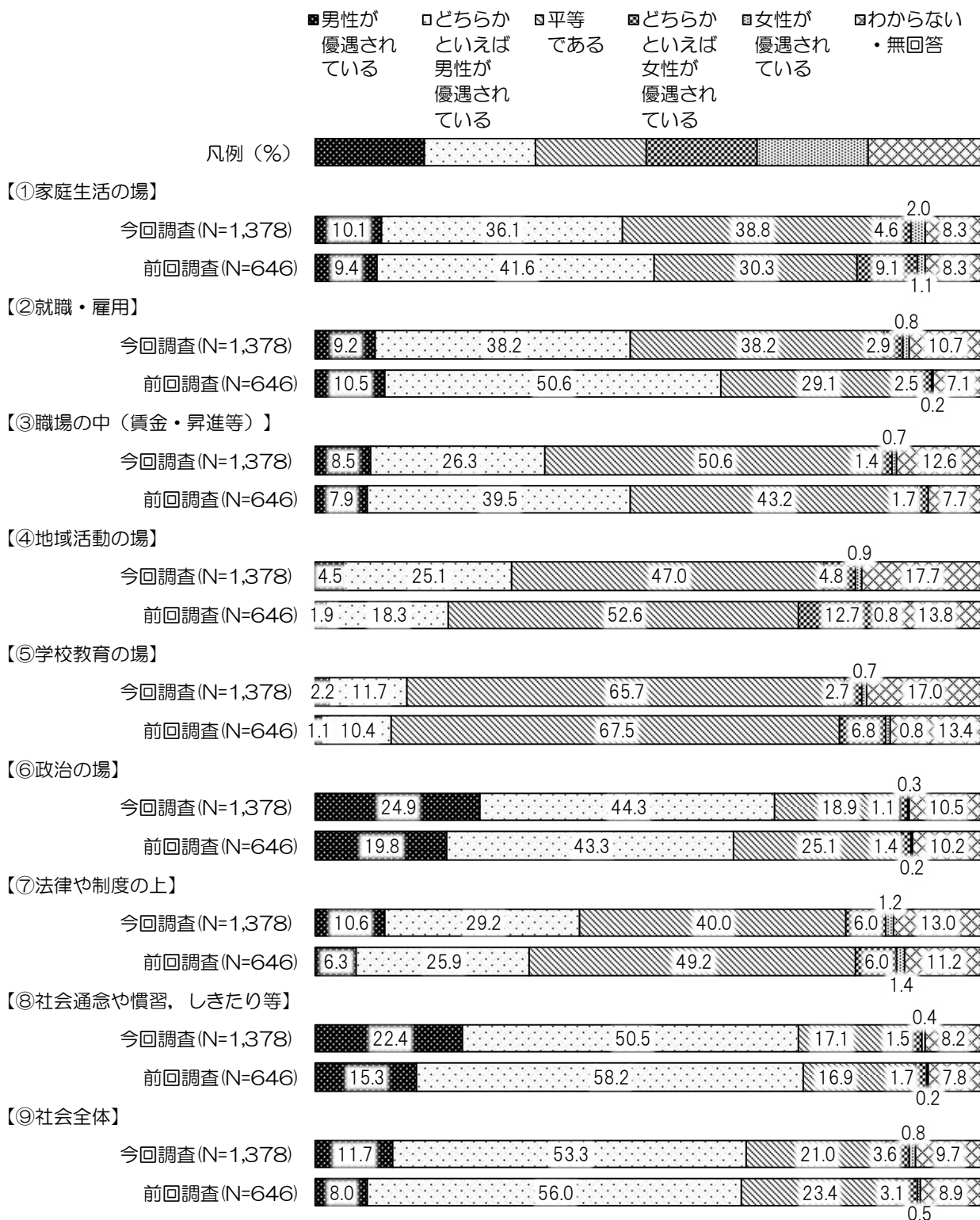


⑨社会全体



## 参考／前回調査との比較

「①家庭生活の場」、「②就職・雇用」、「③職場の中（賃金・昇進等）」については前回調査よりも『男性優遇』の割合が低くなっていますが、「⑨社会全体」については大きな変化はみられません。



## 【2】結婚・家庭生活について

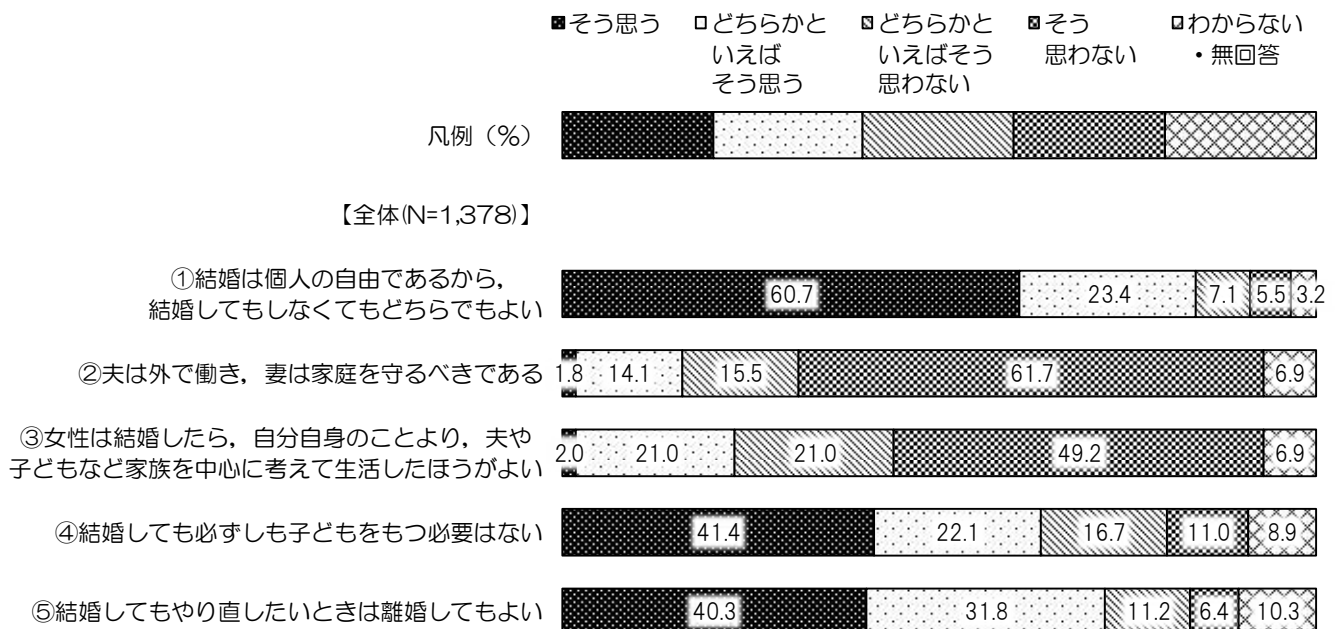
### 1 結婚・家庭生活に関する考え

問8. 結婚・家庭生活について、あなたのお考えをお聞かせください。

(○はそれぞれ1つずつ)

結婚・家庭生活に関する考えについて、『賛成意向<sup>※</sup>』の割合が高い順に「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(84.1%)、「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」(72.1%)、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」(63.5%)となっています。

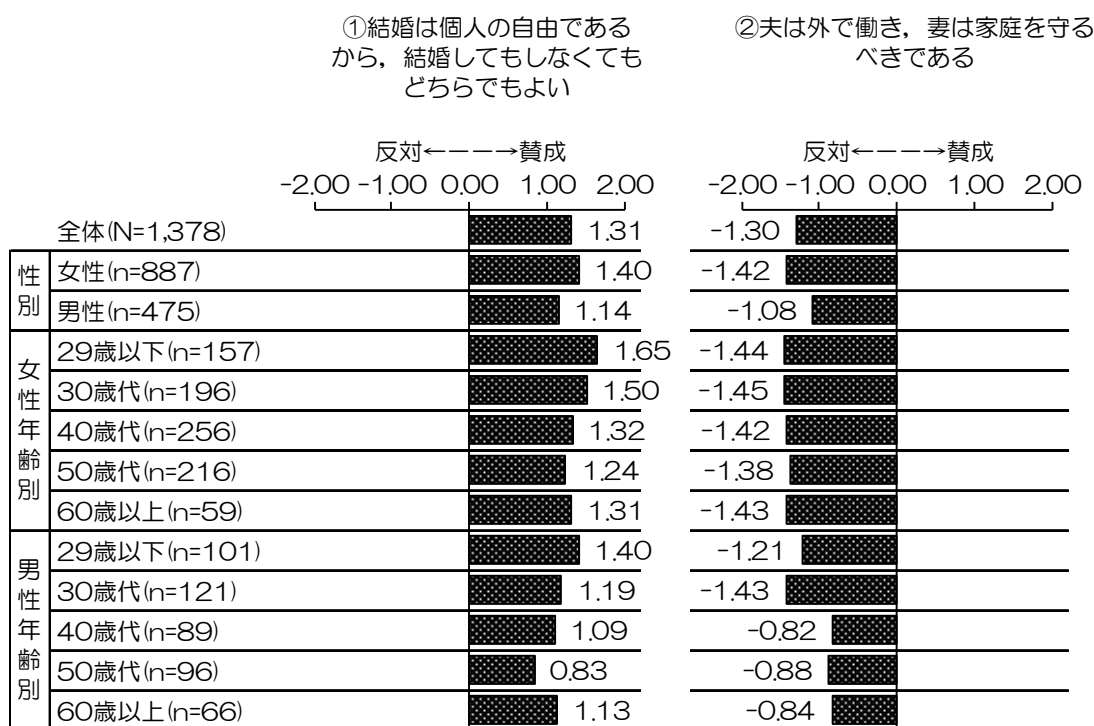
逆に『反対意向<sup>※</sup>』の割合が高い順では、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」(77.2%)、「③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい」(70.2%)となっています。



※「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて『賛成意向』, 「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせて『反対意向』としています。

加重平均値\*による属性別傾向をみると、性別では、男性に比べて女性で「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の『反対意向』が高く、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」の『賛成意向』の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」は女性の若い年齢層ほど『賛成意向』の割合が高くなる傾向の一方で、男性は年齢が上がるほど『賛成意向』の割合が低くなる傾向となっています。また、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」は男性40歳代以上で『反対意向』の割合が他の層に比べて低くなっています。



※加重平均値による属性別傾向

加重平均値とは、「そう思わない」に-2点、「どちらかといえばそう思わない」に-1点、「どちらかといえばそう思う」に+1点、「そう思う」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど反対、+2点に近いほど賛成を示す指標です。

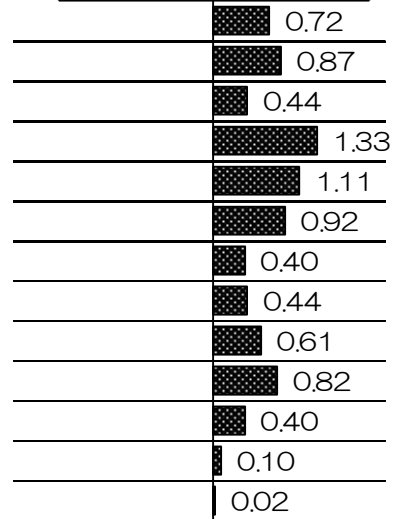
③女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活したほうがよい

反対 ← --- → 賛成  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

反対 ← --- → 賛成  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



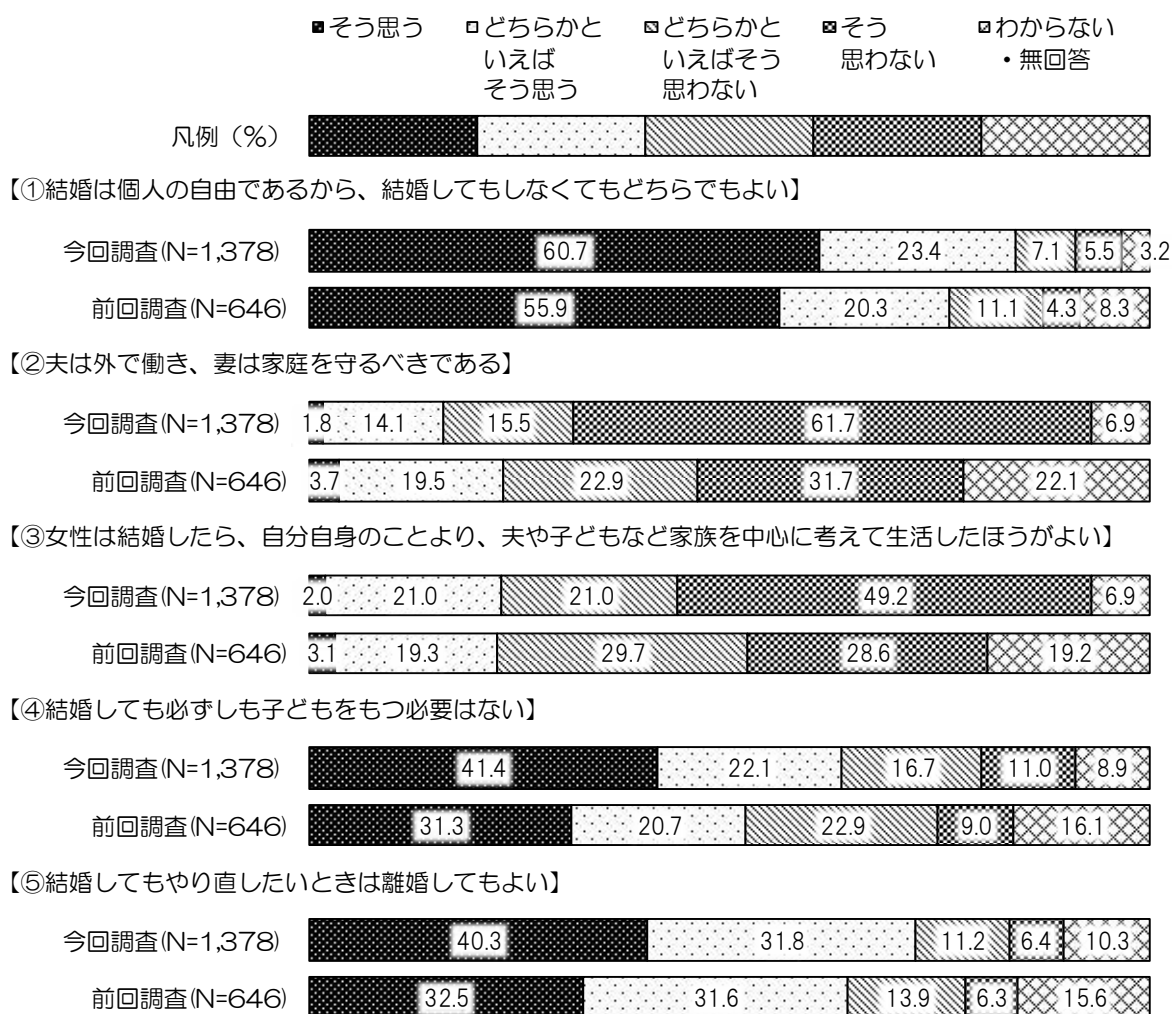
⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい

反対 ← --- → 賛成  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00



## 参考／前回調査との比較

前回調査よりも、「①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」、「④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない」、「⑤結婚してもやり直したいときは離婚してもよい」の『賛成意向』の割合は高くなっている一方で、「②夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」については『賛成意向』の割合が7.3ポイント低くなっています。



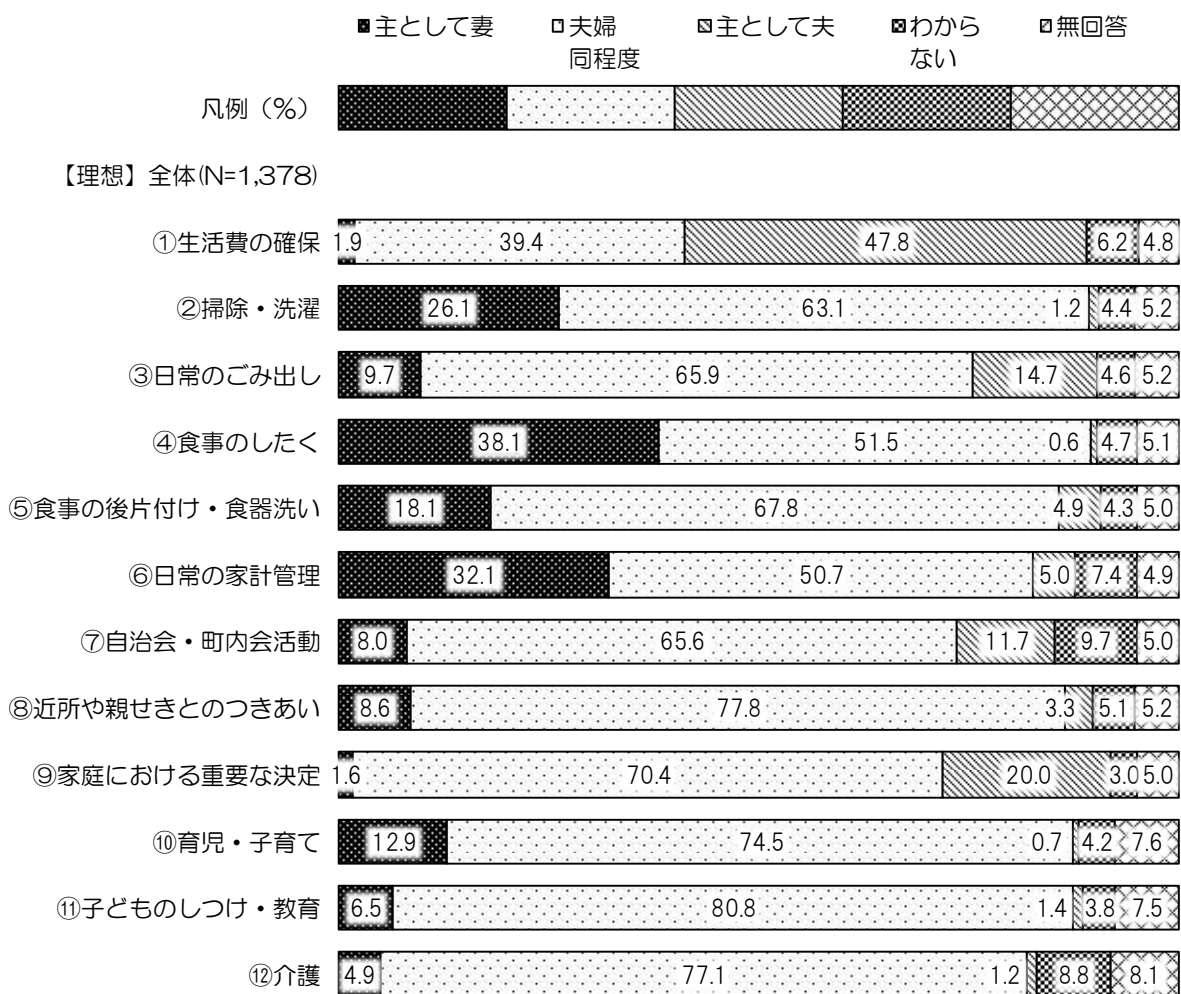


## 2 家庭内の仕事の分担について

問9. 次にあげる家庭でのことがらに関する夫婦の分担について、おたずねします。  
(A, Bとも〇はそれぞれ1つずつ)

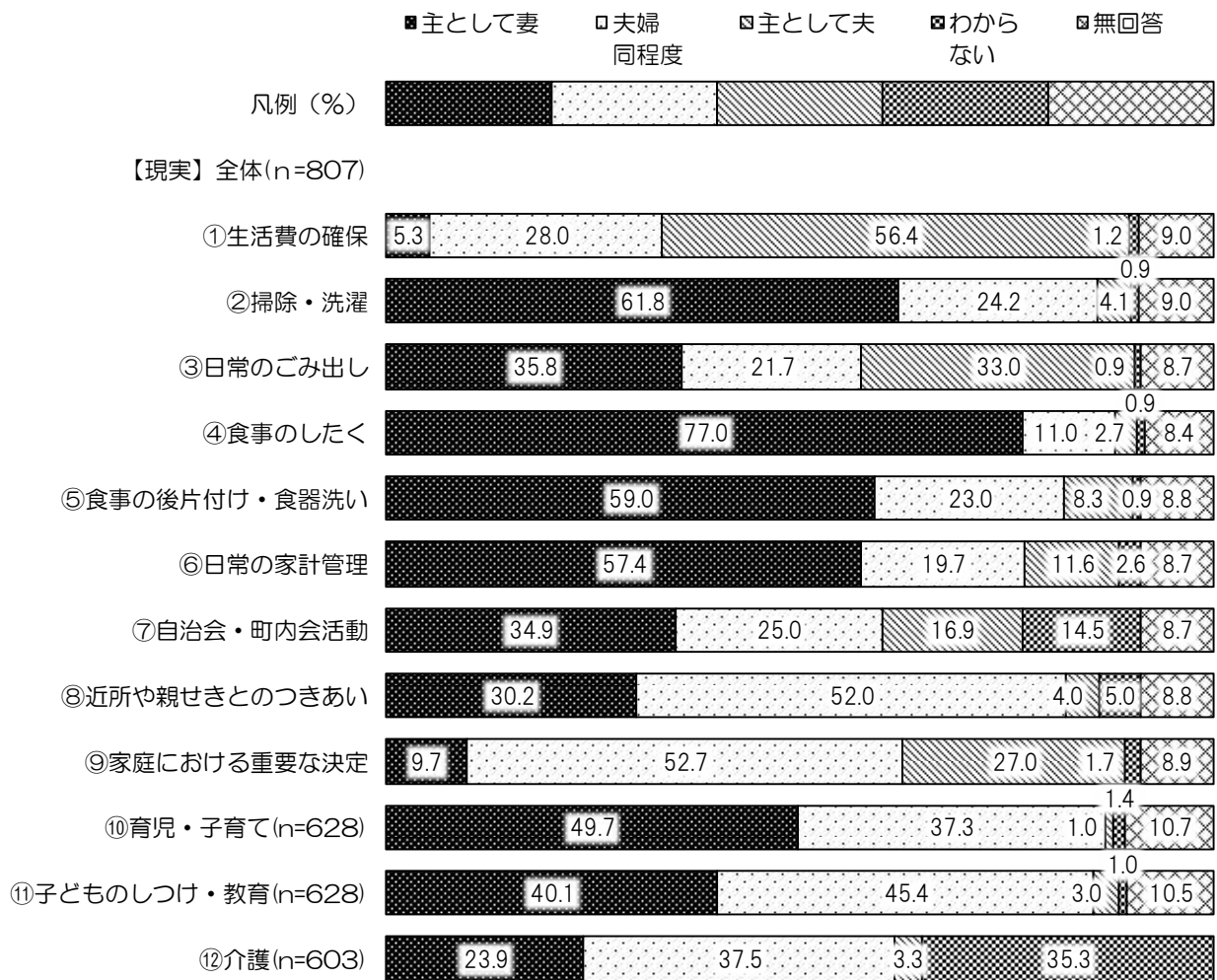
### (1) 理想とする分担

理想とする分担について、「④食事のしたく」「⑥日常の家計管理」は「主として妻」、「①生活費の確保」は「主として夫」の割合がそれぞれ高くなっています。また、「⑧近所や親せきとのつきあい」「⑨家庭における重要な決定」「⑩育児・子育て」「⑪子どものしつけ・教育」「⑫介護」などは「夫婦同程度」の割合が高くなっています。



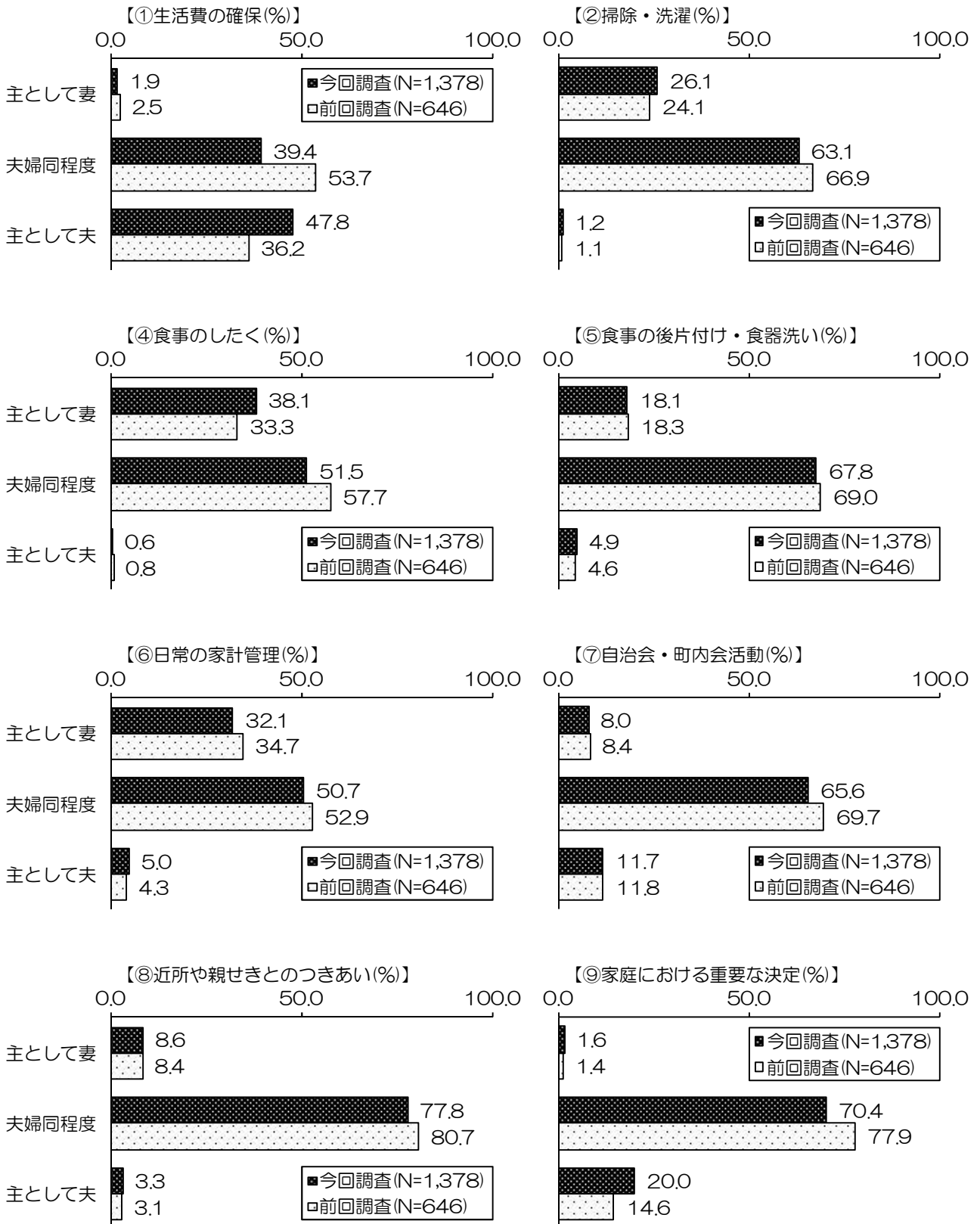
## (2) 現実の分担

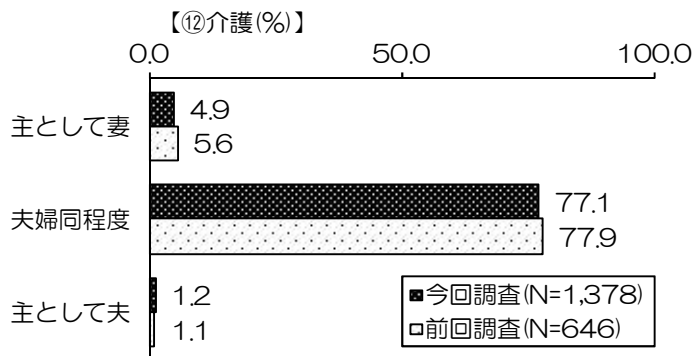
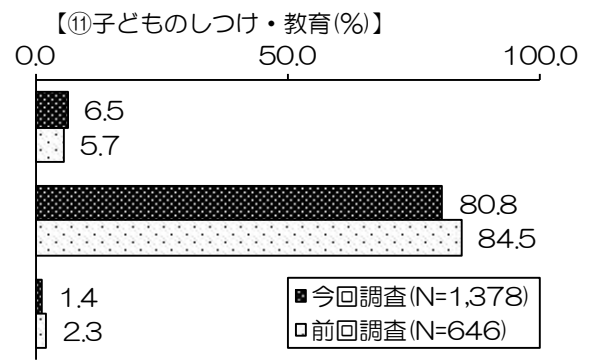
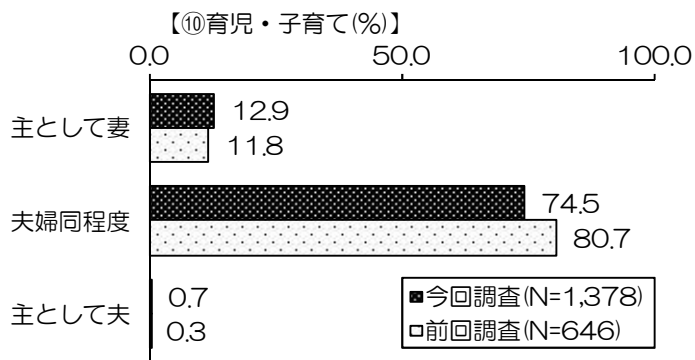
現実の分担について、「②掃除・洗濯」「④食事のしたく」「⑤食事の後片付け・食器洗い」「⑥日常の家計管理」「⑩育児・子育て」は「主として妻」,「①生活費の確保」は「主として夫」の割合が高くなっています。また、「⑧近所や親せきとのつきあい」「⑨家庭における重要な決定」は「夫婦同程度」の割合が高くなっています。



参考／前回調査との比較（理想）

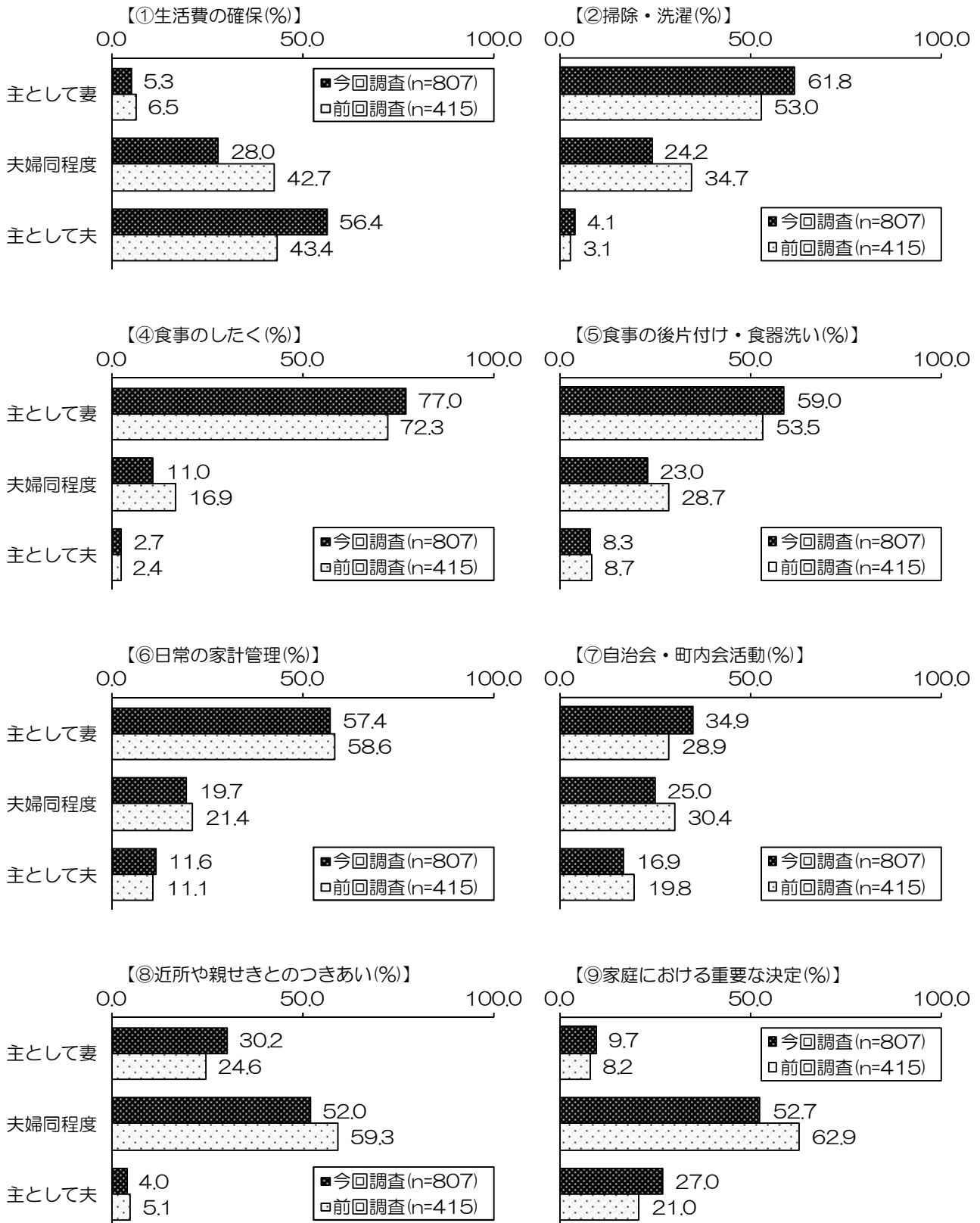
「①生活費の確保」については前回調査よりも「夫婦同程度」の割合が14.3ポイント低くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。

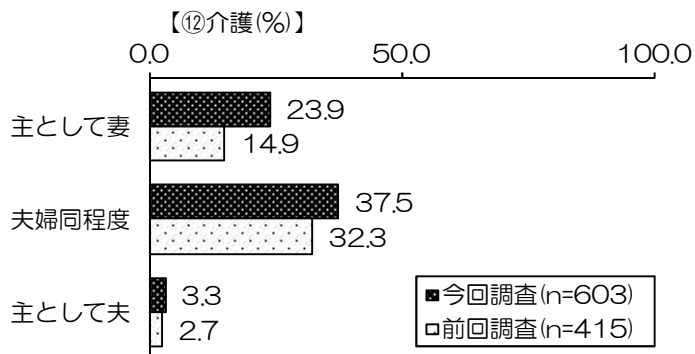
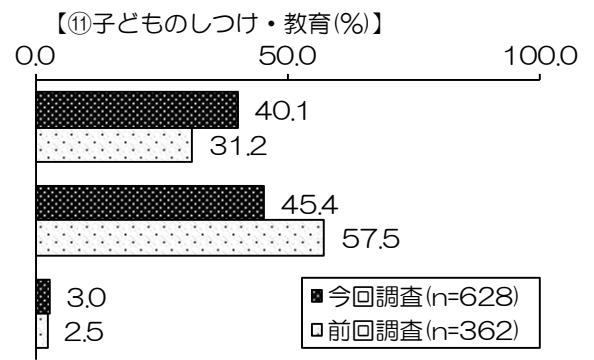
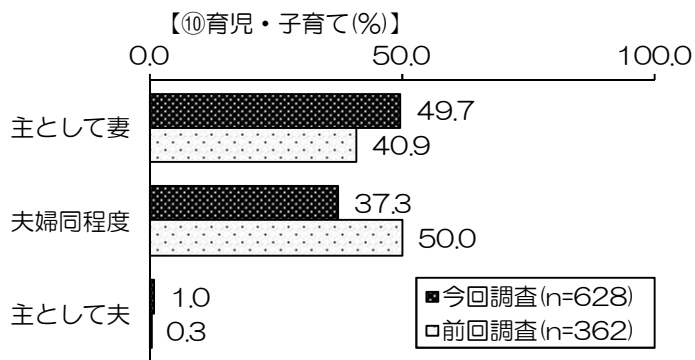




## 参考／前回調査との比較（現実）

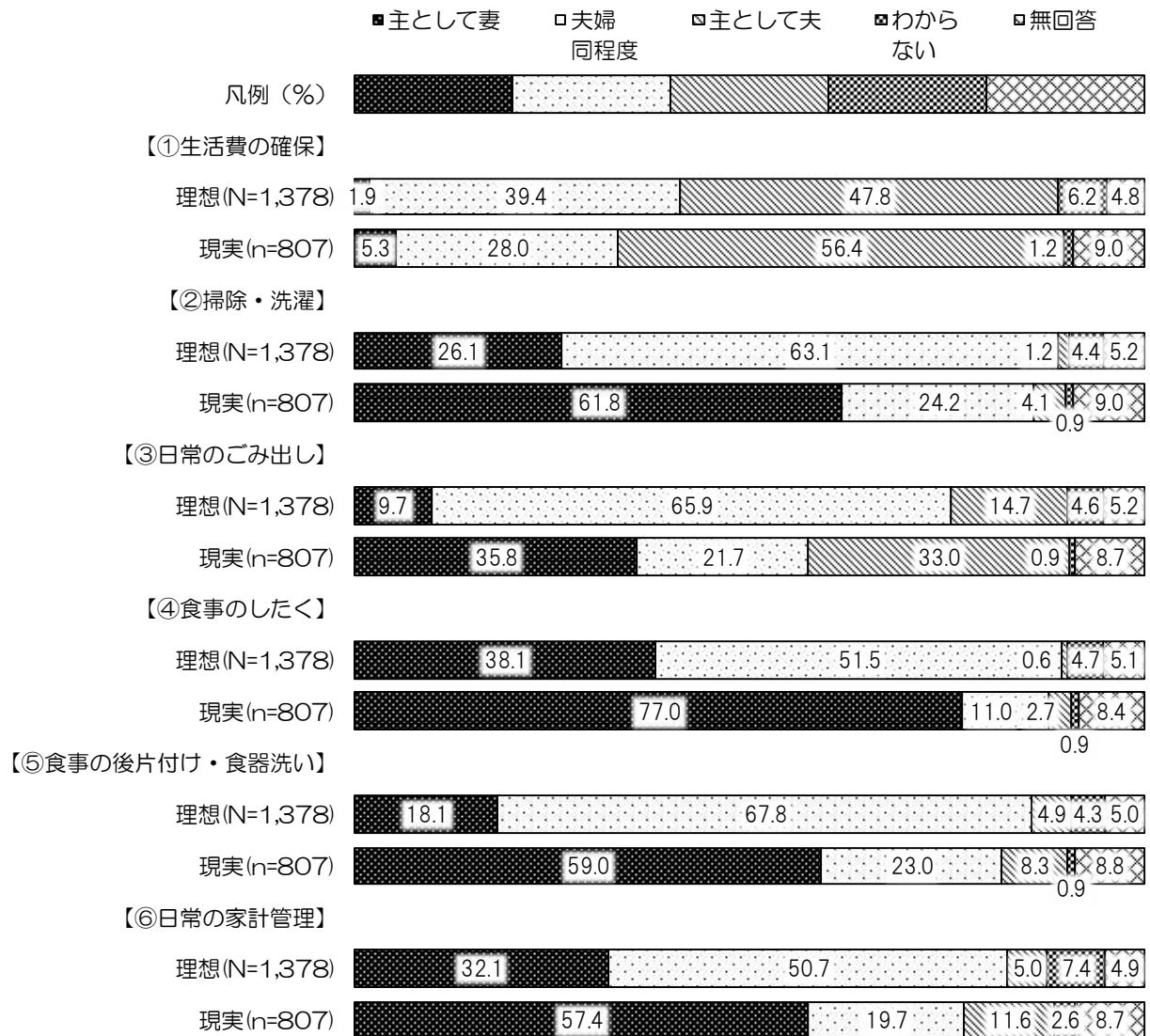
「①生活費の確保」については前回調査よりも「夫婦同程度」の割合が14.7ポイント低くなっている一方で、「主として夫」の割合が13.0ポイント高くなっています。また、「②掃除・洗濯」、「⑩育児・子育て」、「⑫介護」については「主として妻」の割合がわずかながら高くなっています。

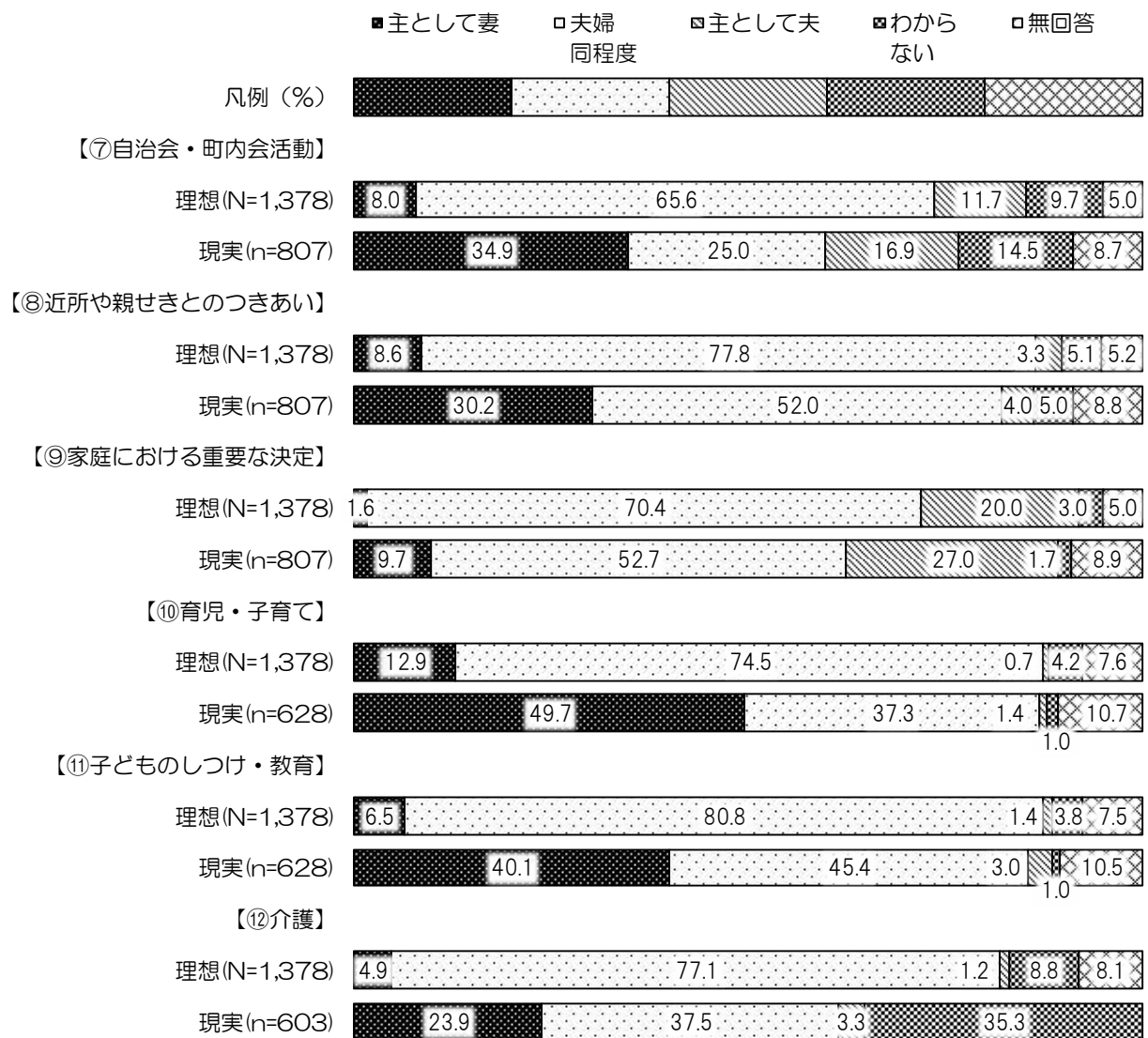




理想と現実を比較してみると、理想に比べて現実には、「②掃除・洗濯」「④食事のしたく」「⑤食事の後片付け・食器洗い」といった家事全般、「⑥日常の家計管理」「⑩育児・子育て」など家庭内の多くの仕事を「主として妻」が担っています。

◆理想と現実の比較◆

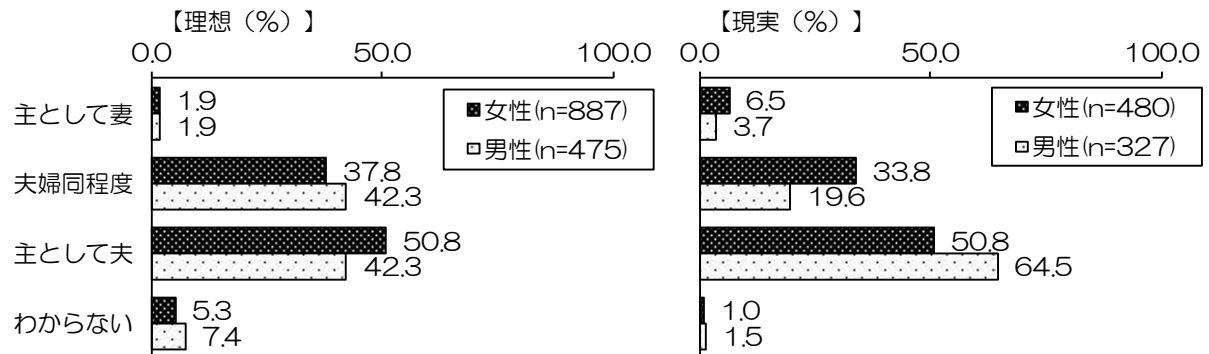




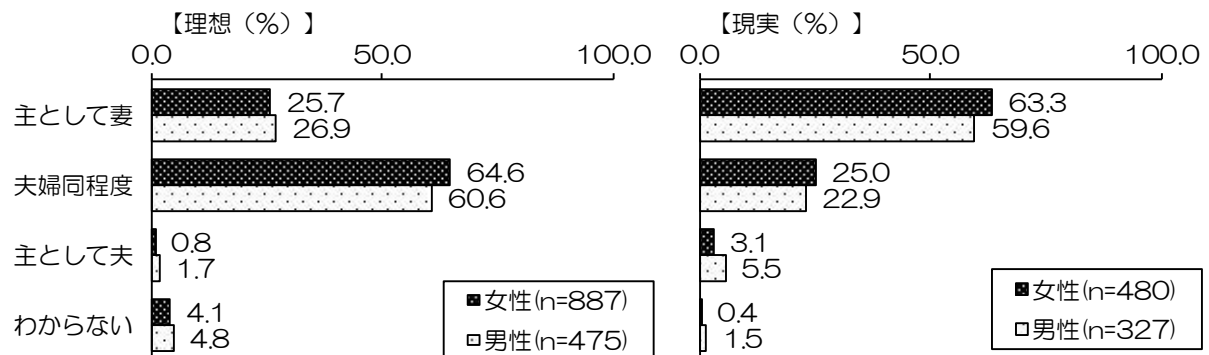


◆理想と現実の比較(性別)◆

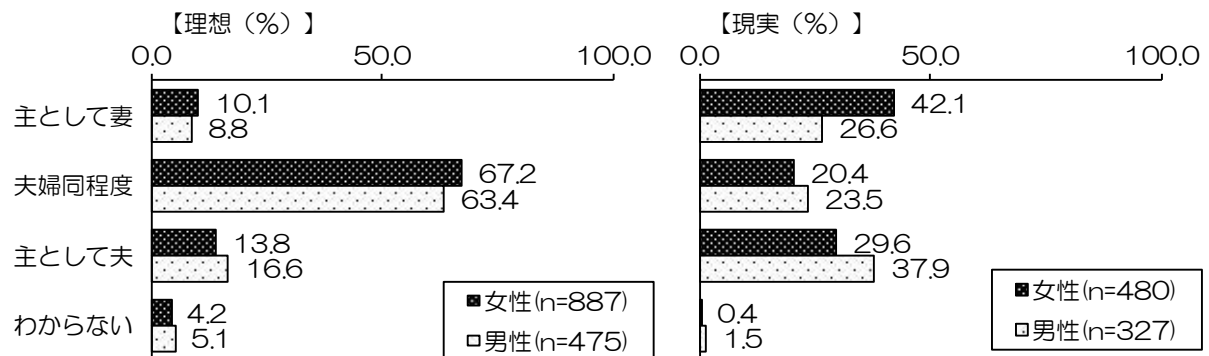
①生活費の確保



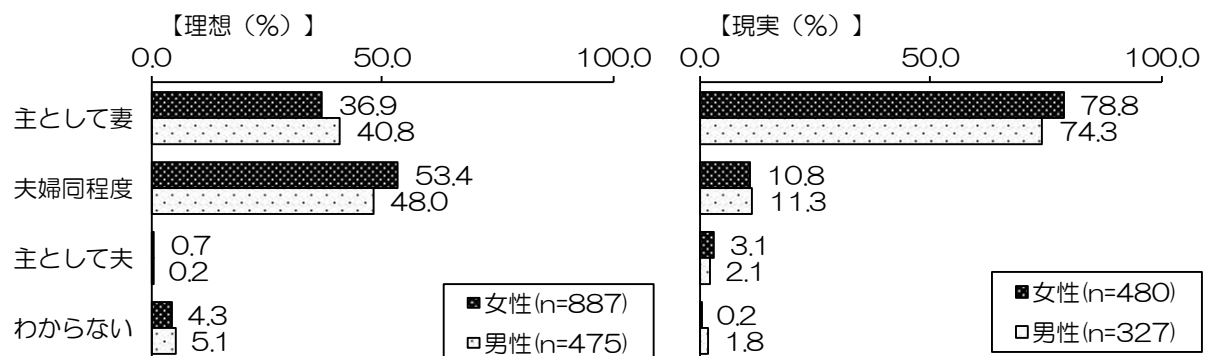
②掃除・洗濯



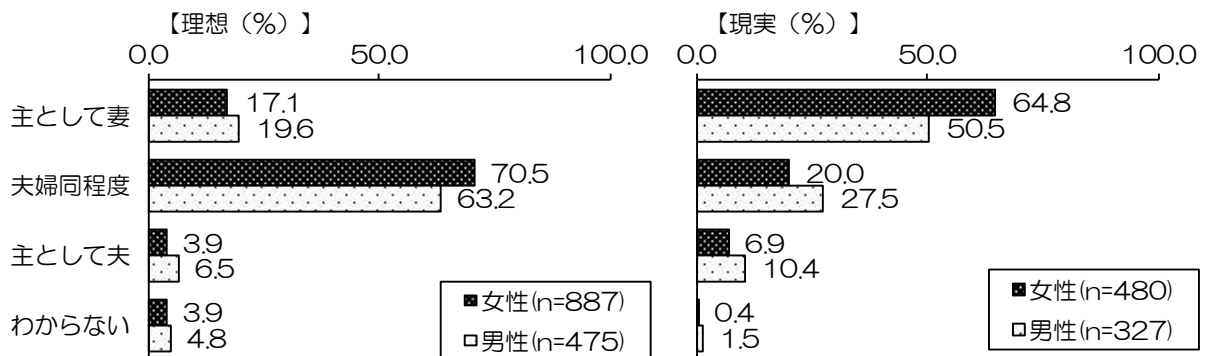
③日常のごみ出し



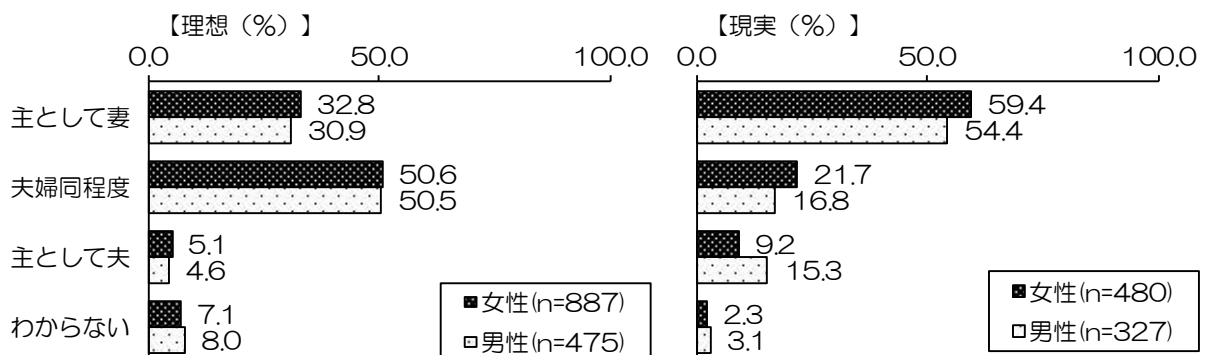
④食事のしたく



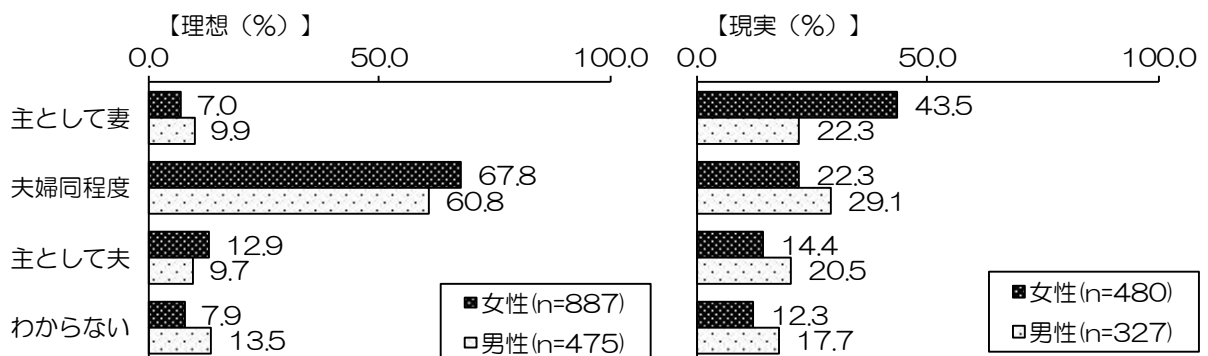
⑤ 食事の後片付け・食器洗い



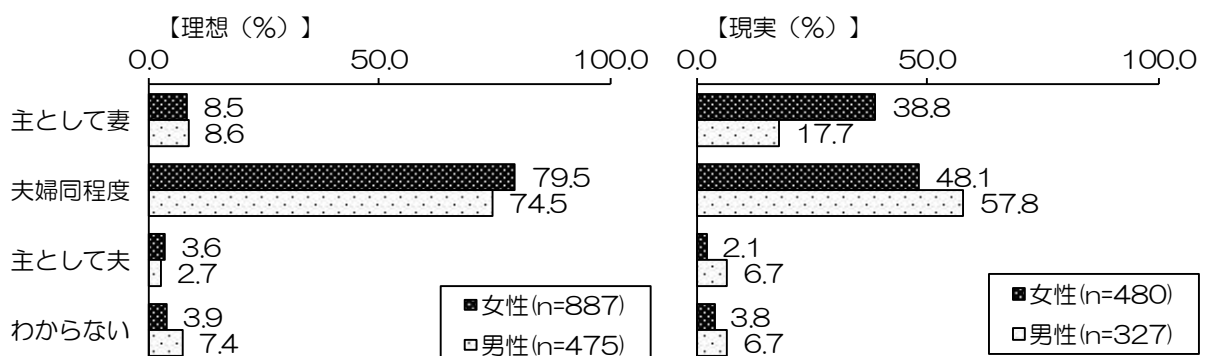
⑥ 日常の家計管理



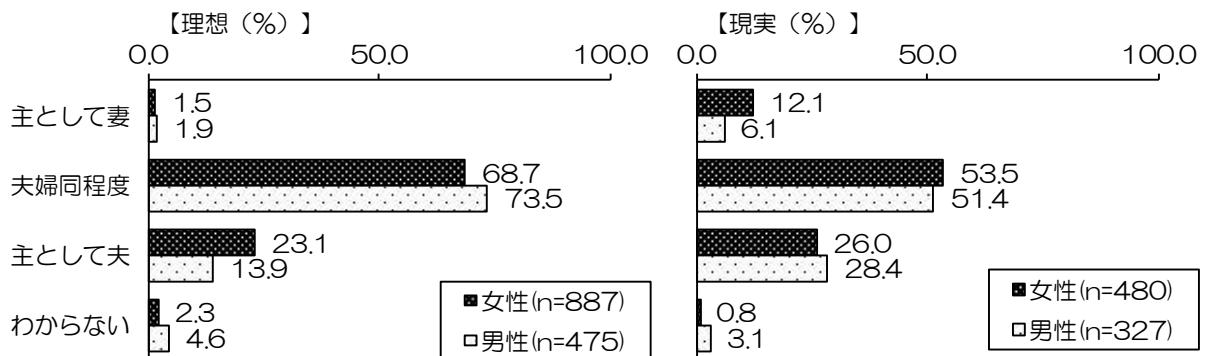
⑦ 自治会・町内会活動



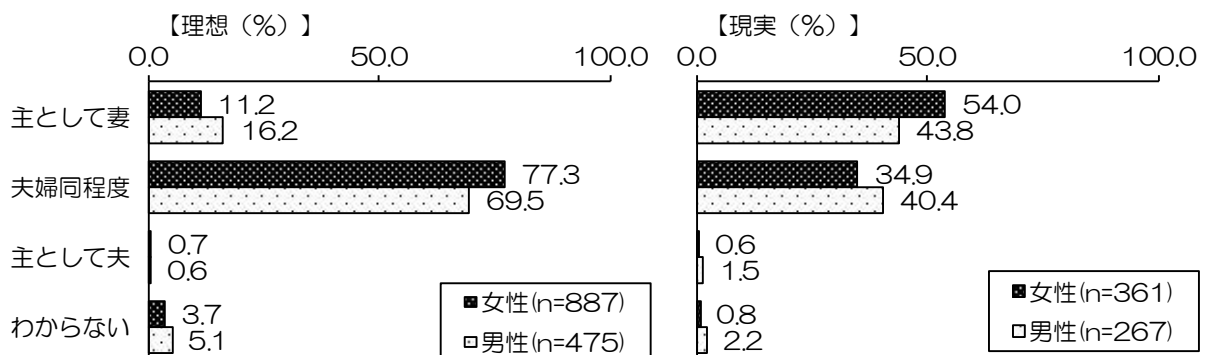
⑧ 近所や親せきとのつきあい



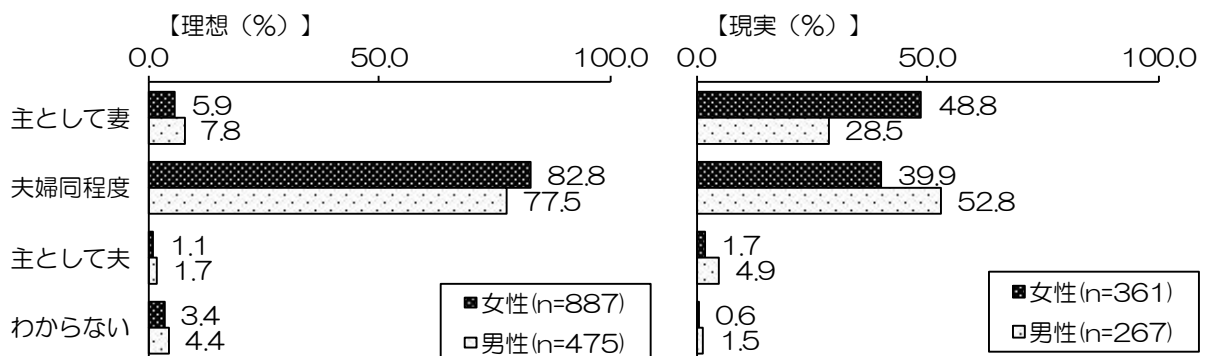
⑨ 家庭における重要な決定



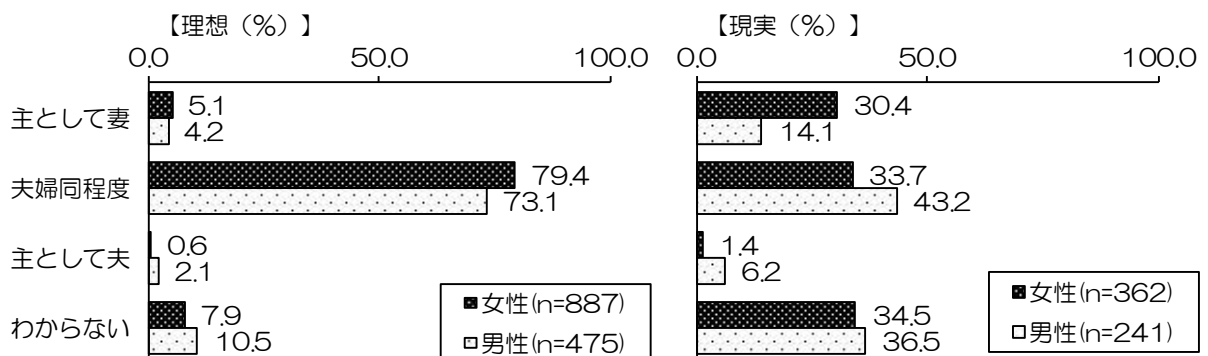
⑩ 育児・子育て



⑪ 子どものしつけ・教育



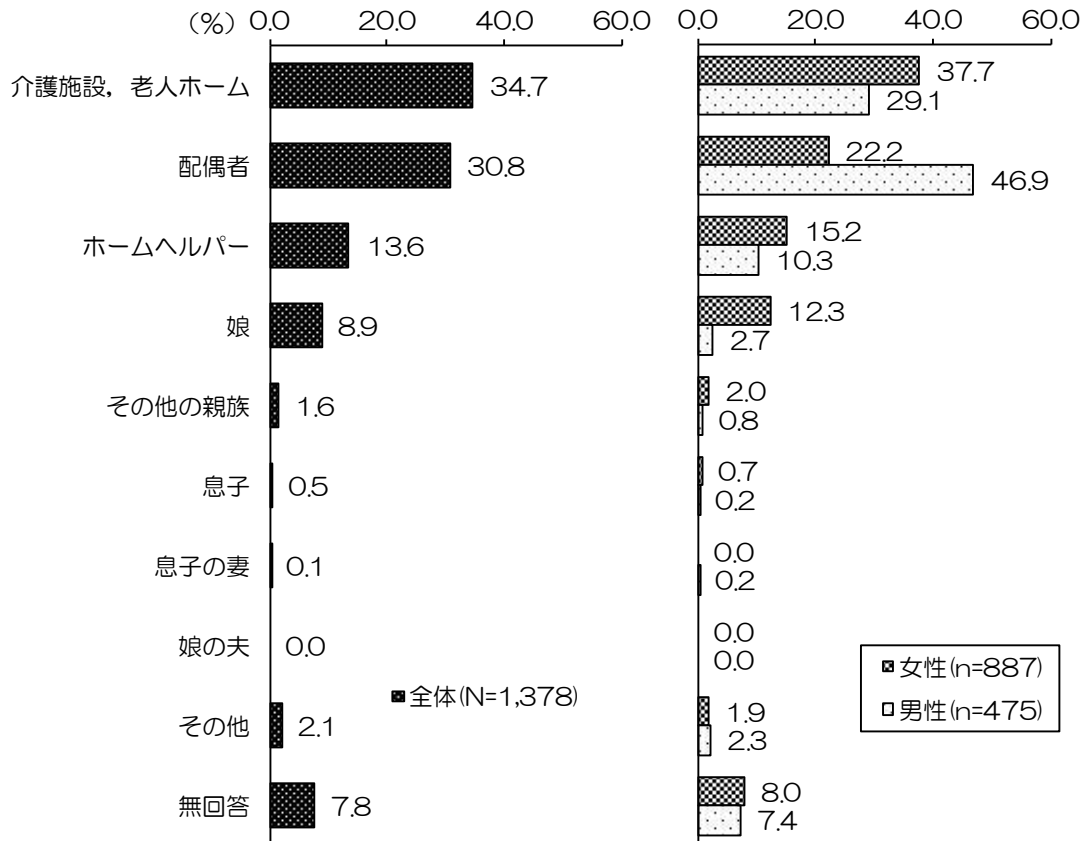
⑫ 介護



### 3 希望する介護者

問 10. あなたは、介護が必要になった場合、（現在、介護が必要な場合）だれに介護をしてもらいたいですか。（〇は1つ）

希望する介護者としては、「介護施設、老人ホーム」の割合が34.7%と最も高く、次いで「配偶者」（30.8%）、「ホームヘルパー」（13.6%）、「娘」（8.9%）となっています。性別では、女性に比べて男性で「配偶者」の割合が高くなっています。



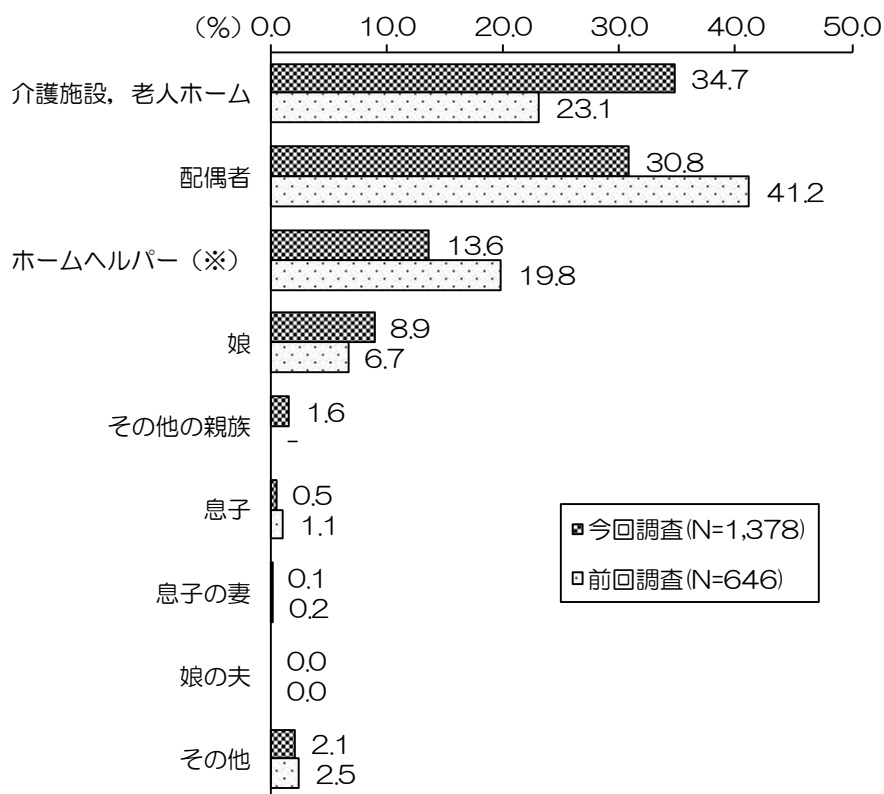
性・年齢別では、男性はすべての年齢層で「配偶者」の割合が高く、特に男性 60 歳以上では過半数を占めます。

家族構成別では、一世代世帯で「配偶者」の割合が他の層に比べて高くなっています。

単位 (%)		サンプル数 (件)	介護施設・老人ホーム	配偶者	ホームヘルパー	娘	その他の親族	息子	息子の妻	娘の夫	その他
全体		1,378	34.7	30.8	13.6	8.9	1.6	0.5	0.1	0.0	2.1
【性・年齢別】											
女性	29歳以下	157	28.0	31.2	15.9	13.4	2.5	1.9	0.0	0.0	0.0
	30歳代	196	34.2	28.1	9.7	12.8	1.0	0.0	0.0	0.0	4.1
	40歳代	256	41.4	18.8	18.0	11.3	2.3	0.4	0.0	0.0	1.2
	50歳代	216	43.5	14.8	15.7	11.1	1.4	0.9	0.0	0.0	2.3
	60歳以上	59	35.6	22.0	18.6	16.9	5.1	0.0	0.0	0.0	1.7
男性	29歳以下	101	32.7	48.5	11.9	3.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0
	30歳代	121	29.8	45.5	6.6	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	4.1
	40歳代	89	22.5	43.8	12.4	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4
	50歳代	96	30.2	44.8	10.4	4.2	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1
	60歳以上	66	28.8	54.5	12.1	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
【家族構成別】											
単身世帯		234	38.0	21.8	16.2	8.5	2.6	1.3	0.0	0.0	1.3
一世代世帯		398	31.2	41.5	12.3	6.0	0.8	0.3	0.3	0.0	1.3
二世代世帯		616	35.9	28.1	13.1	10.9	1.6	0.5	0.0	0.0	2.8
三世代世帯		47	31.9	25.5	19.1	14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他の世帯		26	38.5	30.8	15.4	3.8	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8

### 参考／前回調査との比較

「介護施設，老人ホーム」については，前回調査よりも 11.6 ポイント高くなっている一方で，「配偶者」については 10.4 ポイント低くなっています。



※前回調査では「介護を仕事とする女性(ヘルパーなど)」

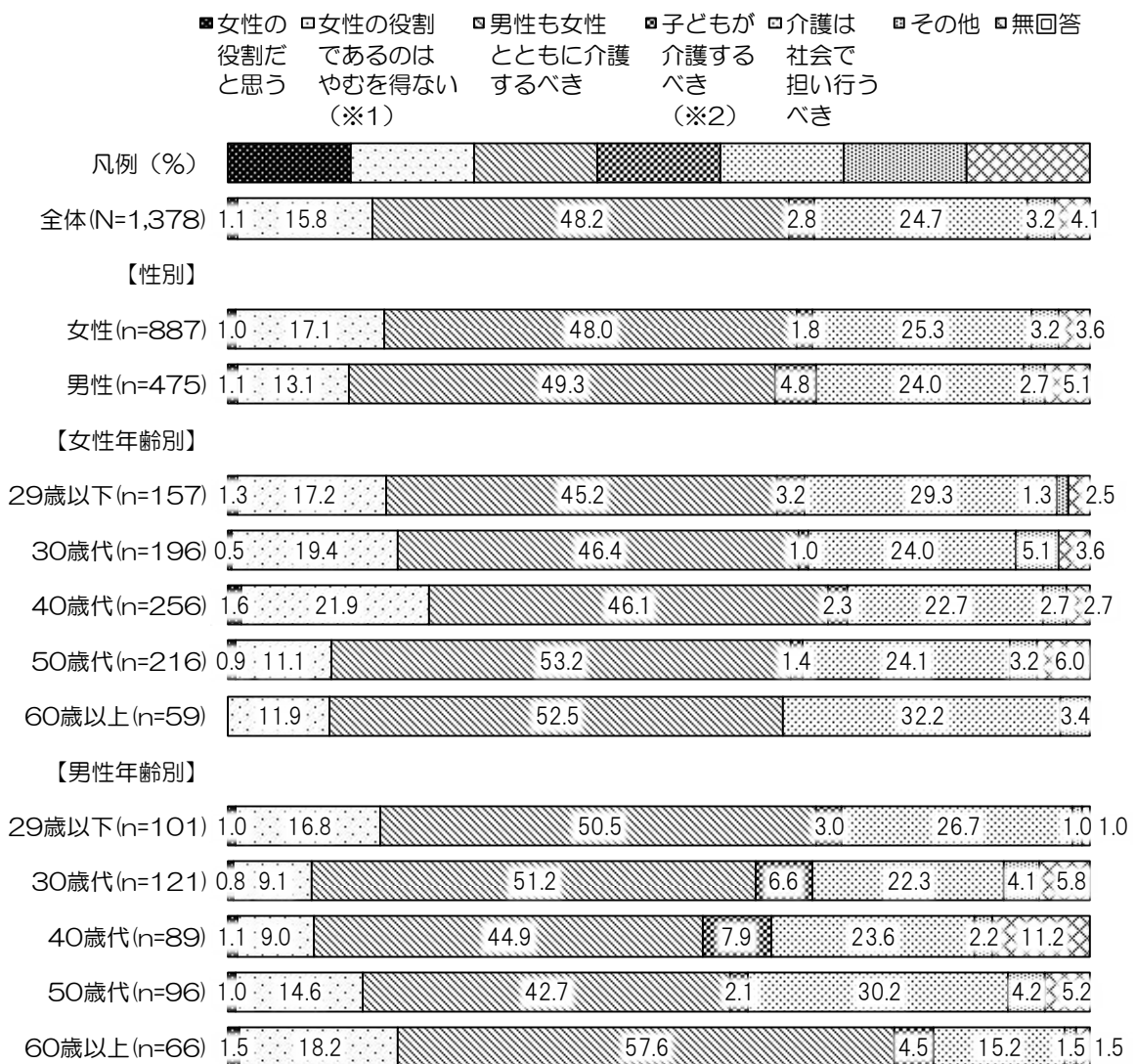
#### 4 家族介護についての考え

問 11. あなたは、家族の介護について、どのように考えますか。(〇は1つ)

家族介護についての考えは、「男性も女性とともに介護すべき」の割合が48.2%と最も高く、次いで「介護は社会で担い行うべき」(24.7%)、「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」(15.8%)の順となっています。

性別による差は目立ちません。

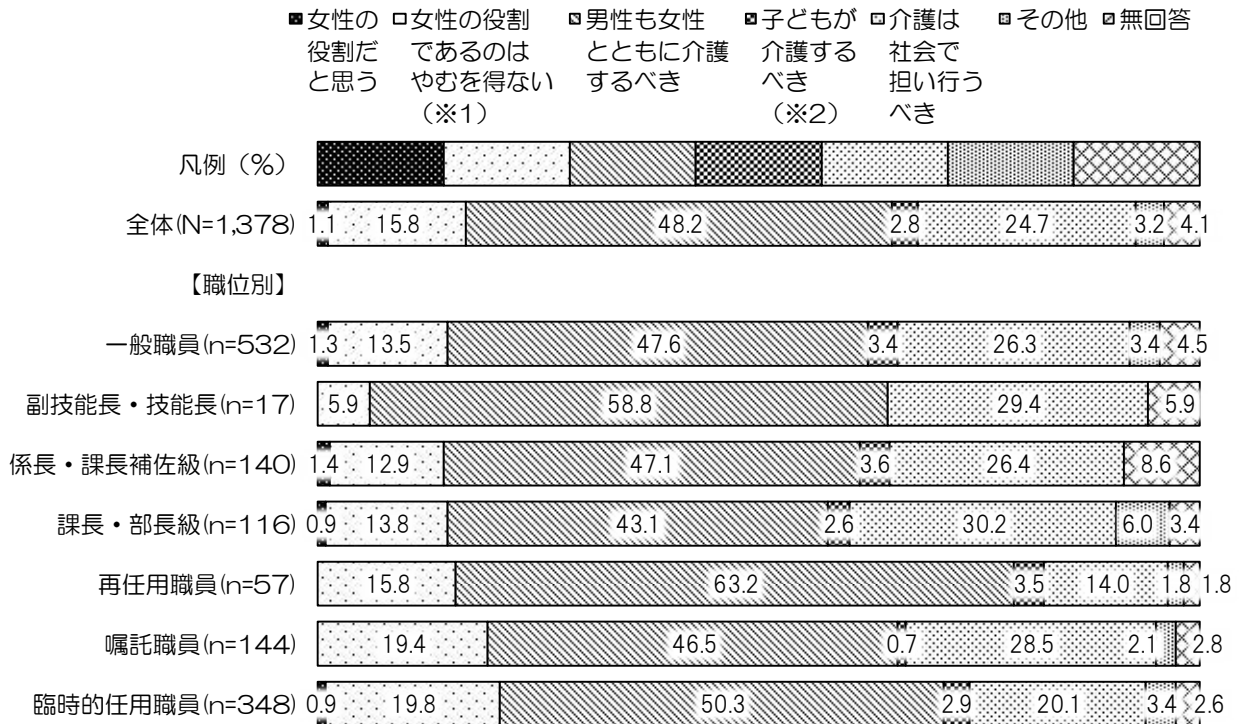
性・年齢別では、男性60歳以上で「男性も女性とともに介護すべき」の割合が他の層に比べて高くなっています。



※1 女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない

※2 性別にかかわらず子どもが介護すべき

職位別では、副技能長・技能長で「女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない」の割合が他の職位に比べて低く、再任用職員で「男性も女性とともに介護すべき」が高くなっています。



※1 女性の役割となりがちである現状に問題はあるが、実際にはやむを得ない

※2 性別にかかわらず子どもが介護すべき

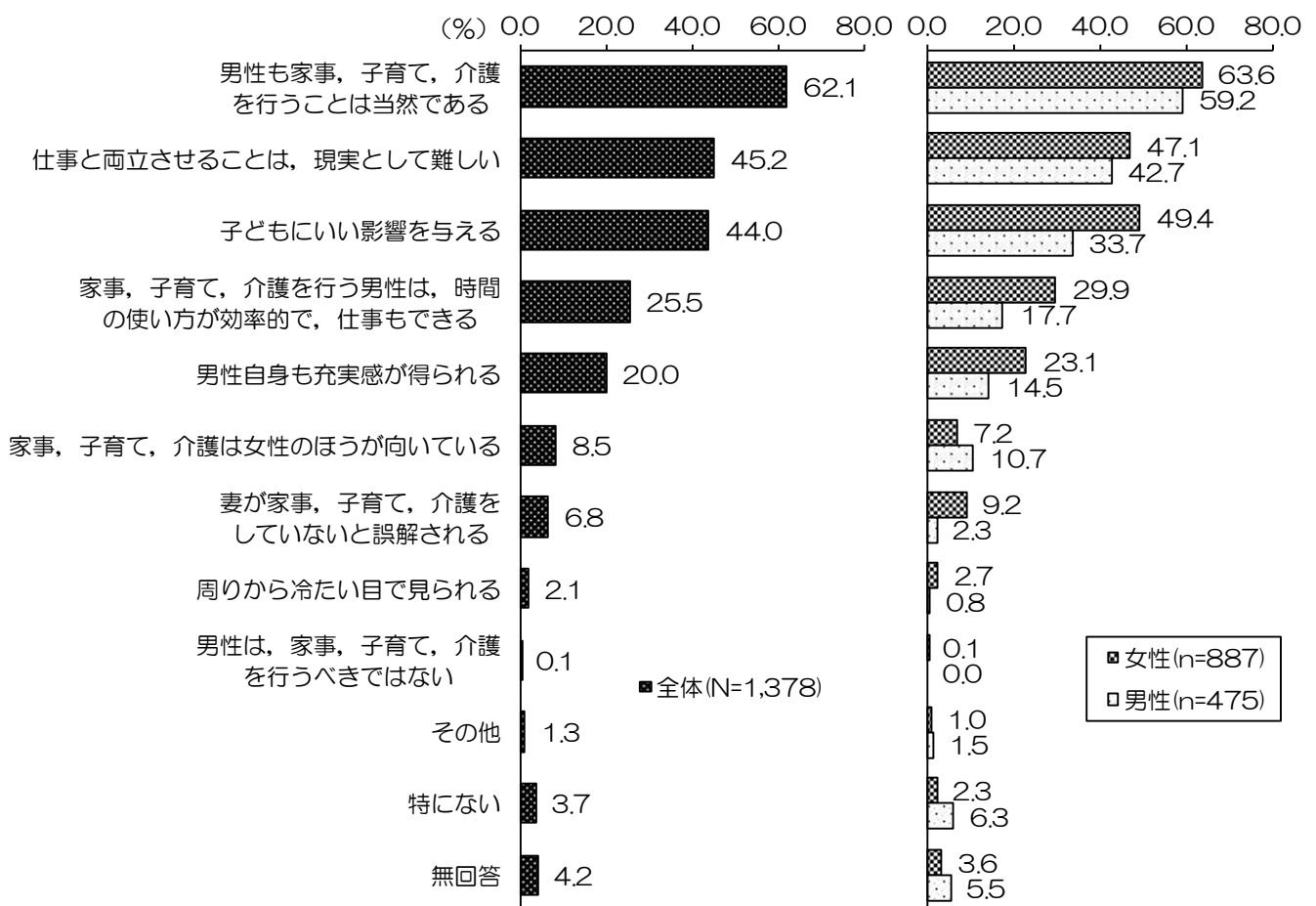


## 5 男性が家事や子育て等を行うイメージについて

問 12. あなたは、男性が家事、子育て、介護を行うことについて、どのようなイメージをおもちですか。（〇はいくつでも）

男性が家事や子育て等を行うイメージについては、「男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「仕事と両立させることは、現実として難しい」（45.2%）、「子どもにいい影響を与える」（44.0%）の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「子どもにいい影響を与える」「家事、子育て、介護を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」の割合が高くなっています。



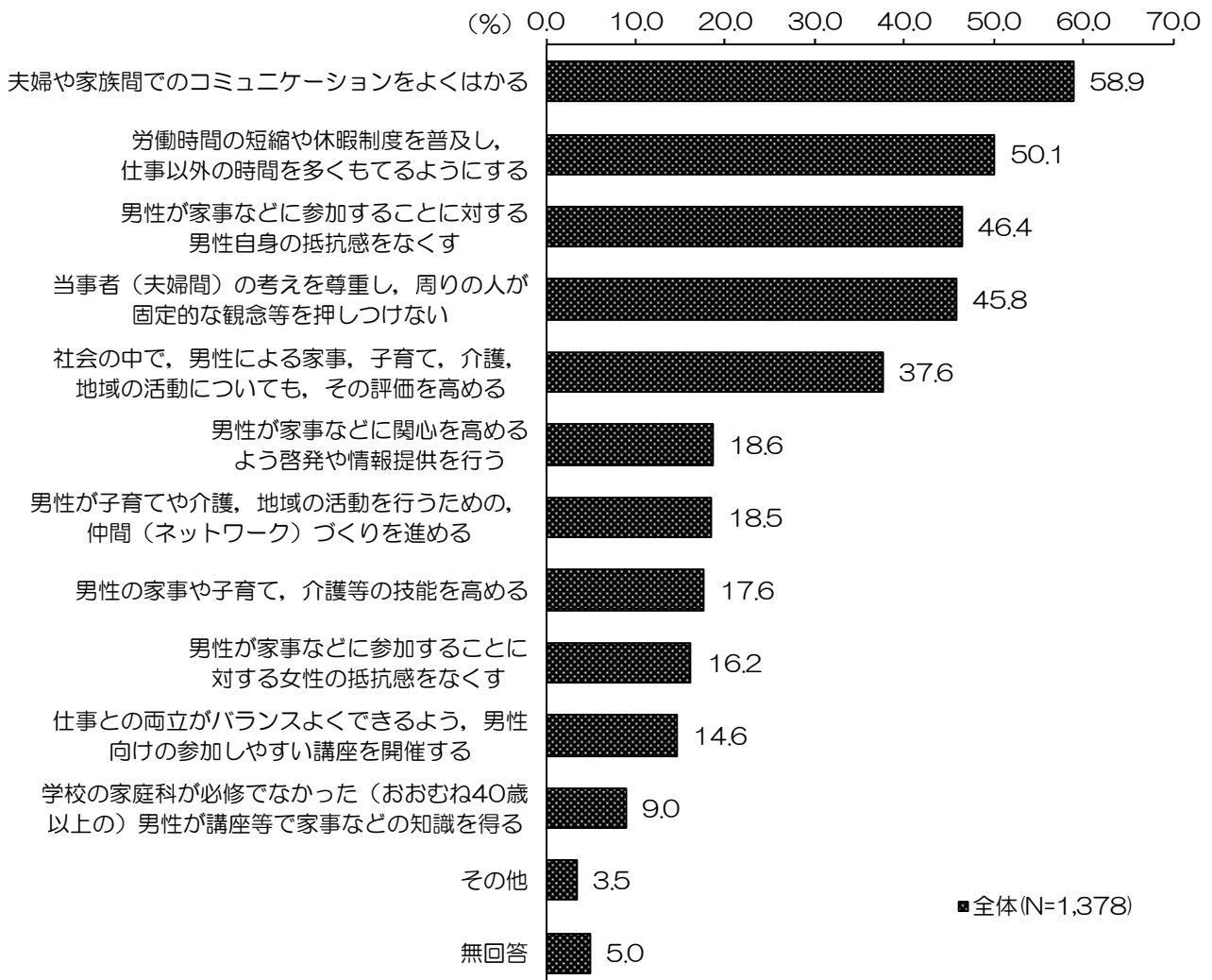
性・年齢別では、女性は年齢が上がるほど「男性も家事、子育て、介護を行うことは当然である」「子どもにいい影響を与える」「男性自身も充実感が得られる」がおおむね高い割合になる傾向にあります。一方、男性60歳以上で「家事、子育て、介護は女性のほうが向いている」が他の層に比べて高い割合になっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	男性も家事を行うことは、当然である、介護	現実として難しいことは、	子どもにいい影響を与える	率的には、仕事もできる	家事は、子育て、介護を行う効る	男性自身も充実感が得られる	家事が向いて、介護は女性	妻が家事、子育て、介護をし、誤解される	周りから冷たい目で見られる	男性は、家事で、子育て、介護を行うべきではない、介	その他	特にな
全体	1,378	62.1	45.2	44.0	25.5	20.0	8.5	6.8	2.1	0.1	1.3	3.7	
【性・年齢別】													
女性	29歳以下	157	54.8	43.9	45.9	27.4	18.5	8.3	12.1	3.8	0.0	0.6	5.7
	30歳代	196	61.2	41.3	50.0	34.7	21.9	8.2	13.8	5.1	0.0	1.0	2.0
	40歳代	256	63.3	53.5	48.4	29.7	23.0	7.4	7.0	1.6	0.0	1.2	1.2
	50歳代	216	69.4	48.1	49.5	27.8	24.5	5.6	7.4	1.4	0.5	1.4	0.9
	60歳以上	59	76.3	44.1	62.7	30.5	35.6	5.1	3.4	1.7	0.0	0.0	3.4
男性	29歳以下	101	51.5	38.6	38.6	25.7	11.9	7.9	4.0	1.0	0.0	0.0	8.9
	30歳代	121	65.3	36.4	38.8	17.4	16.5	6.6	3.3	0.8	0.0	2.5	5.0
	40歳代	89	53.9	41.6	23.6	14.6	14.6	7.9	1.1	1.1	0.0	1.1	6.7
	50歳代	96	59.4	52.1	29.2	16.7	16.7	13.5	1.0	1.0	0.0	3.1	6.3
	60歳以上	66	65.2	48.5	36.4	12.1	12.1	21.2	1.5	0.0	0.0	0.0	4.5

## 6 男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なこと

問 13. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域の活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

男性が積極的に家事や子育て等を行うために必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多くもてるようにする」(50.1%)、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」(46.4%)、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」(45.8%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める」(37.6%)の順となっています。



性別では、女性で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域の活動についても、その評価を高める」の割合が高く、男性に比べて多岐にわたっています。

性・年齢別で高いのは、女性の30歳代と50歳代で「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、周りの人が固定的な観念等を押しつけない」、女性60歳以上で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」となっています。また、女性は年齢が上がるほど「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」「仕事との両立がバランスよくできるよう、男性向けの参加しやすい講座を開催する」「学校の家庭科が必修でなかった（おおむね40歳以上の）男性が講座等で家事などの知識を得る」がおおむね高くなる傾向にあります。

単位 (%)	サンプル数 (件)	シヨ ンや 家族 間 の コ ミ ュ ニ ケ ー 	よ し 働 う、 働 に 仕 時 間 の 外 短 縮 や 休 間 を 多 制 度 も 普 及 す る	対 男 性 が 家 事 な ど に 参 加 す る こ と に す る	押 し つ け り の 人 が 固 定 的 な 観 念 等 を	当 事 者 （ 夫 婦 間 ） の 考 え を 尊 重	も 育 て 、 そ の 評 価 を 地 域 の 活 動 に 家 事 つ い て	社 会 中 で 、 男 性 に よ る 活 動 に 関 心 を 高 め る	う 啓 性 が 家 事 な ど に 関 心 を 高 め る	ク を 行 う た め の 進 め る	男 性 の 家 事 や 子 育 て 、 介 護 等 の 技 能 を 高 め る	対 男 性 が 家 事 な ど に 参 加 す る こ と に す る	講 座 を 開 催 す る	講 座 等 で の 両 立 が バ ラ ン ス よ く で き る	（ お お む ね 4 0 歳 以 上 の ） 男 性 が 講 座 等 で 家 事 な ど の 知 識 を 得 る	そ の 他
全体	1,378	58.9	50.1	46.4	45.8	37.6	18.6	18.5	17.6	16.2	14.6	9.0	3.5			
【性別】																
女性	887	65.1	49.9	55.6	51.0	43.5	22.9	22.8	19.8	20.2	15.9	11.7	2.5			
男性	475	47.2	50.1	29.7	35.4	26.5	10.1	10.3	13.7	8.8	12.0	3.8	5.1			
【性・年齢別】																
女性	29歳以下	157	68.2	56.1	54.8	49.0	46.5	20.4	21.7	12.7	14.6	12.1	5.7	1.9		
	30歳代	196	67.3	49.5	56.1	54.6	45.9	26.0	24.0	23.0	14.8	16.8	8.2	1.5		
	40歳代	256	62.1	46.5	52.0	48.0	39.8	18.0	18.4	15.2	20.3	12.9	12.5	3.5		
	50歳代	216	60.2	49.1	56.9	55.1	42.6	23.6	25.9	25.5	26.4	19.0	14.8	3.2		
	60歳以上	59	79.7	55.9	67.8	40.7	49.2	37.3	30.5	25.4	30.5	25.4	25.4	0.0		
男性	29歳以下	101	49.5	52.5	37.6	33.7	21.8	9.9	16.8	11.9	10.9	17.8	4.0	1.0		
	30歳代	121	51.2	51.2	33.9	42.1	34.7	14.0	11.6	15.7	9.1	10.7	3.3	6.6		
	40歳代	89	27.0	49.4	15.7	19.1	28.1	6.7	3.4	7.9	7.9	12.4	3.4	10.1		
	50歳代	96	54.2	51.0	27.1	38.5	22.9	11.5	10.4	15.6	7.3	10.4	3.1	4.2		
	60歳以上	66	54.5	43.9	33.3	43.9	21.2	6.1	7.6	18.2	9.1	6.1	6.1	3.0		

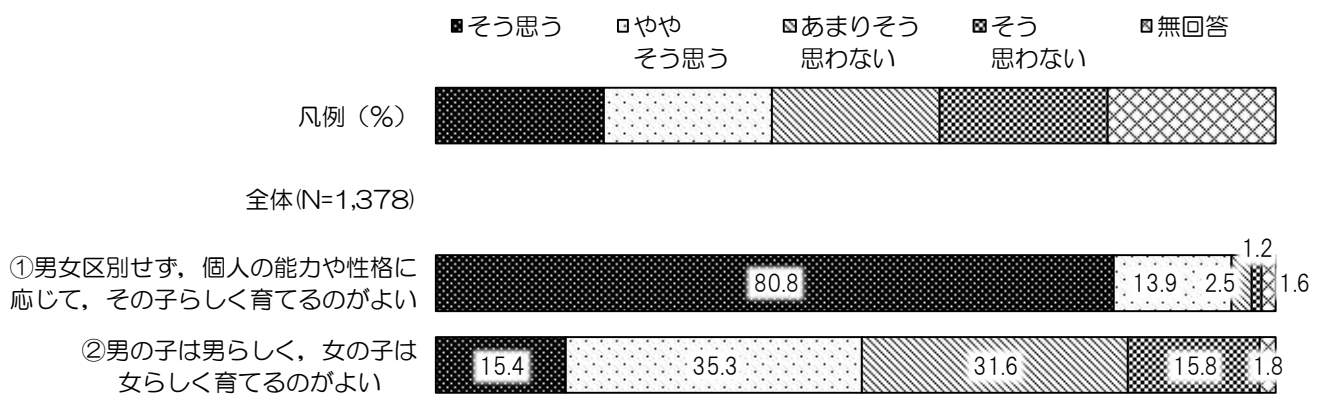
### 【3】子どもの教育について

#### 1 子育てについての考え方

問 14. もしあなたに子どもがいたら、子育てについての次のような考え方をどう思いますか。（①、②ともに〇は1つ）

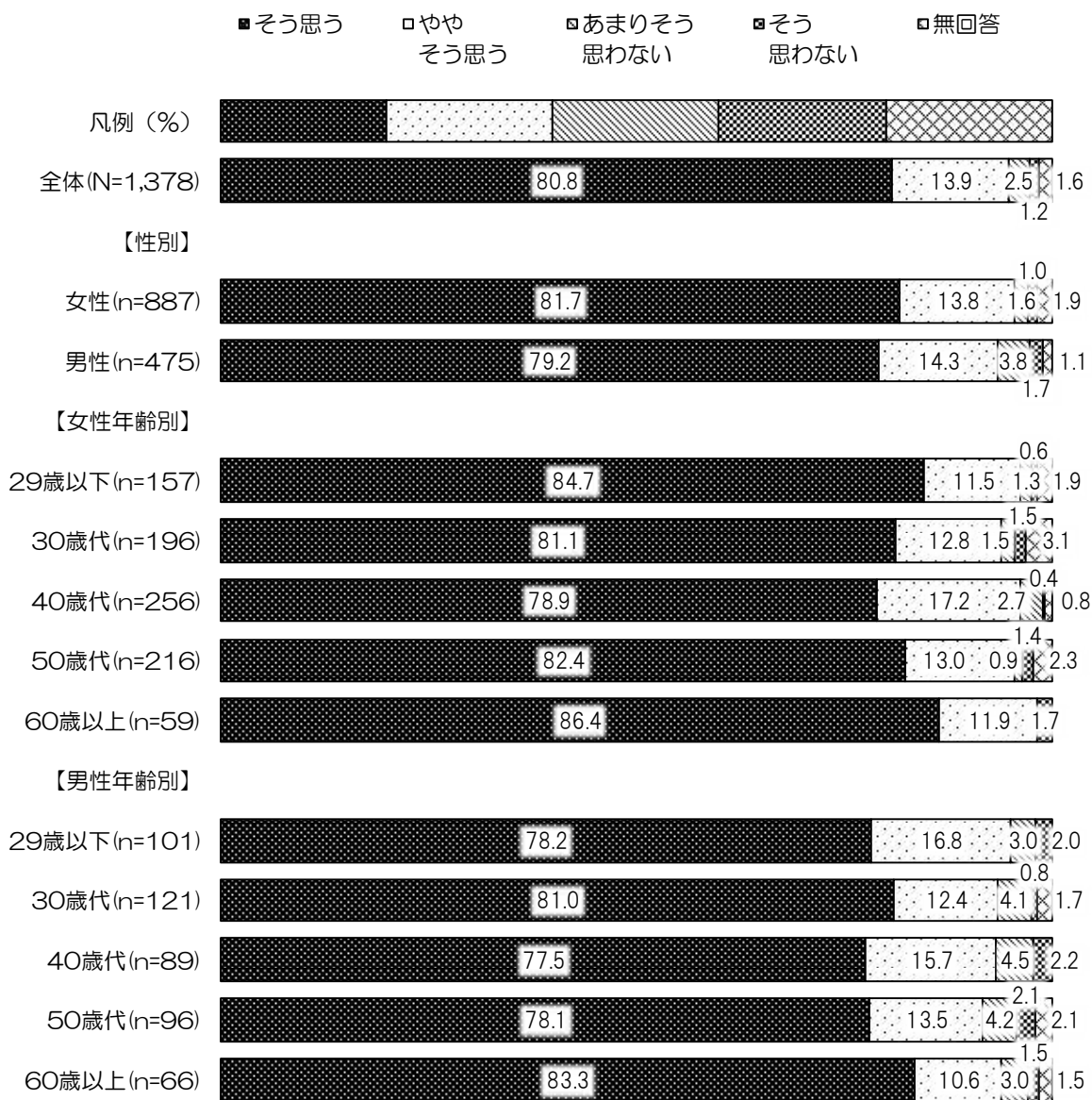
子育てについての考え方は、「①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」は、8割（80.8%）が「そう思う」と回答しており、「ややそう思う」（13.9%）を合わせると肯定派は9割以上（94.7%）を占めます。

「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」は、「ややそう思う」が35.3%と最も高く、「そう思う」（15.4%）を合わせると肯定派は約半数（50.7%）を占めます。一方、「あまりそう思わない」（31.6%）と「そう思わない」（15.8%）を合計した否定派は47.4%となっており、肯定派と否定派がほぼ拮抗しています。



「①男女区別せず，個人の能力や性格に応じて，その子らしく育てるのがよい」については，性別でも，性・年齢別でも，おおむね肯定派が大半を占めます。

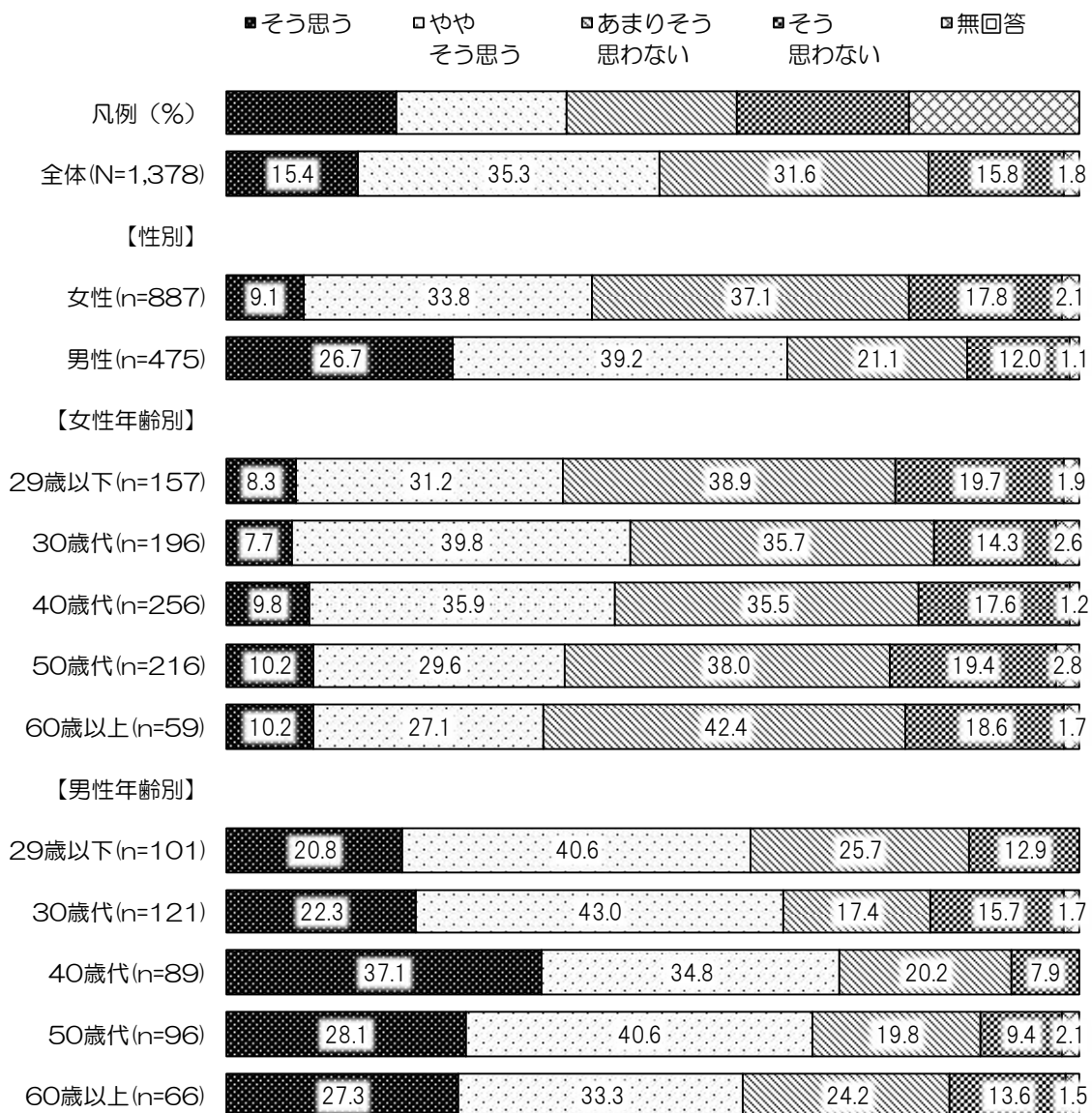
①男女区別せず，個人の能力や性格に応じて，その子らしく育てるのがよい(属性別)



「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」について性別で見ると、男性で「そう思う」の割合が高く、肯定派が65.9%となっています。また、男性に比べて女性は「あまりそう思わない」の割合が高いものの、肯定派と否定派の割合は拮抗しています。

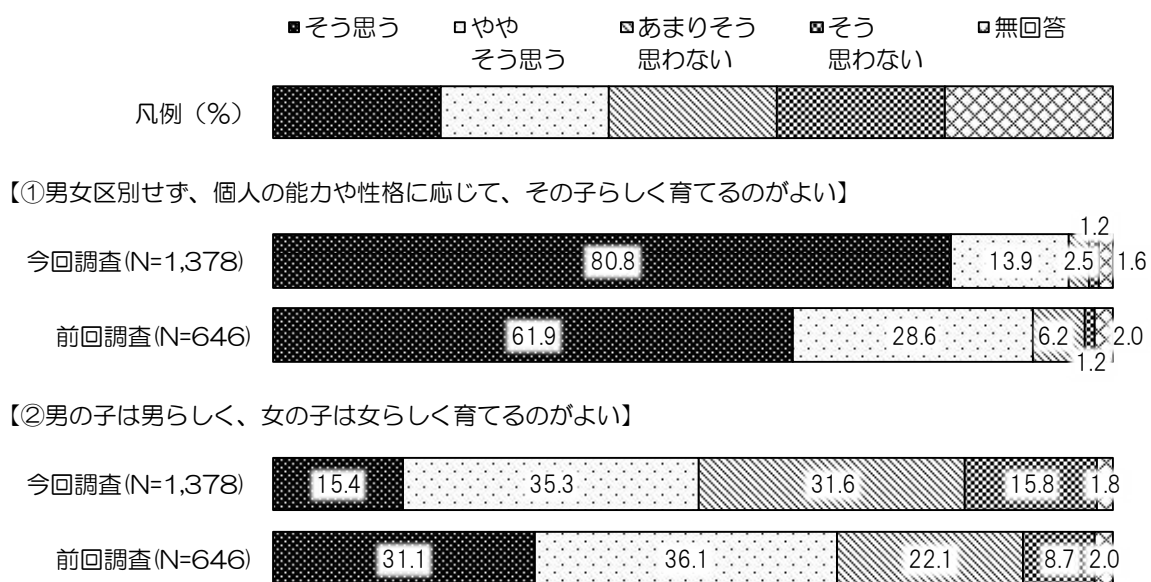
性・年齢別では、男性40歳代で「そう思う」の割合が特に高くなっています。

### ②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい(属性別)



### 参考／前回調査との比較

「①男女区別せず、個人の能力や性格に応じて、その子らしく育てるのがよい」については前回調査よりも「そう思う」が 18.9 ポイントと大幅に高くなっている一方で、「②男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」については「そう思う」が 15.7 ポイント低くなっています。

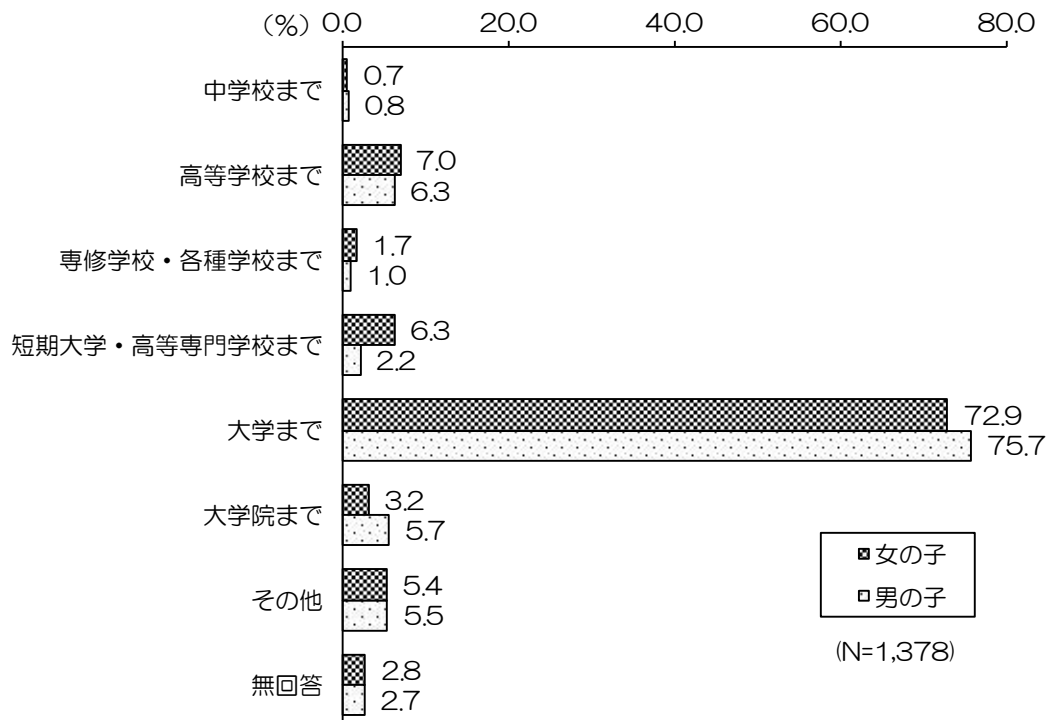




## 2 子どもの性別による教育機会の希望

問 15. もしあなたに子どもがいたら、子どもの教育はどこまでを期待しますか。女の子と男の子のそれぞれの場合について、お答えください。（〇はそれぞれ1つずつ）

子どもの性別による教育機会の希望については、子どもの性別にかかわらず「大学まで」が7割以上となっています。また、「女の子」で「短期大学・高等専門学校まで」の割合がやや高くなっています。



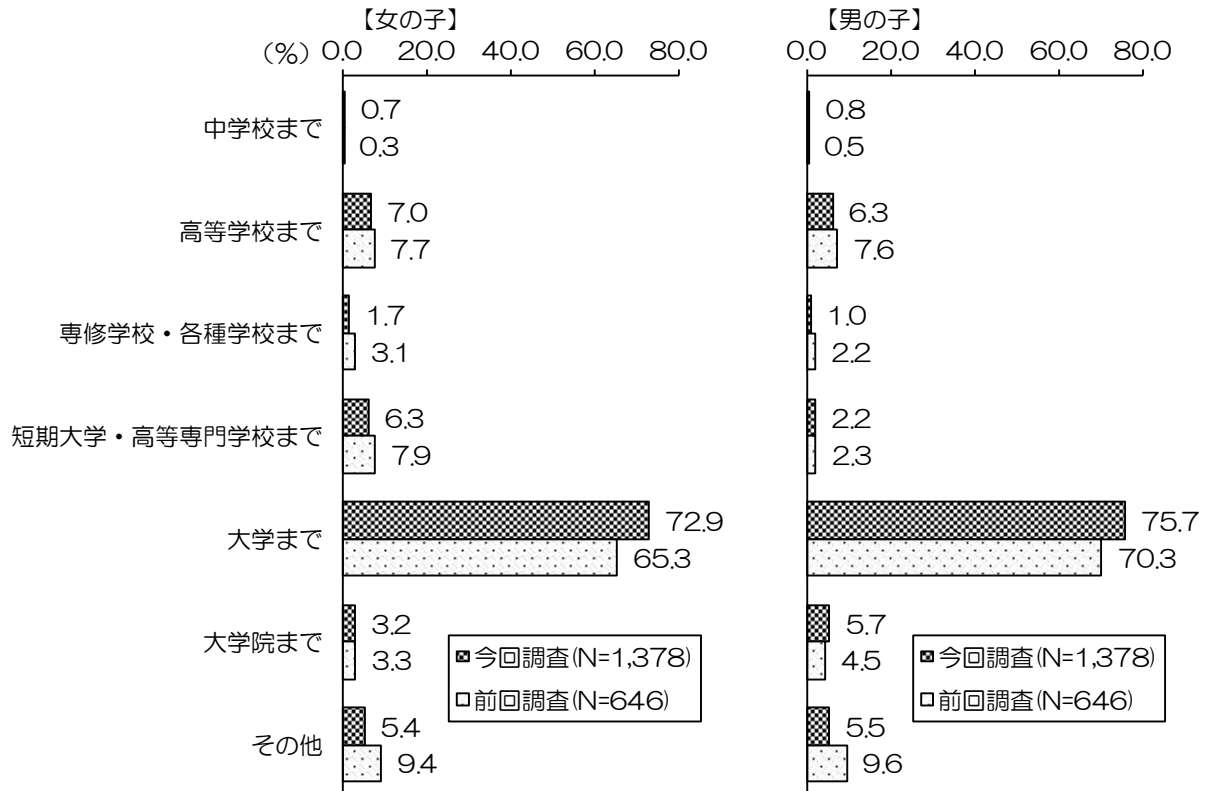
性・年齢別では、子どもの性別にかかわらず、男女とも 29 歳以下で「大学まで」、女性 60 歳以上で「大学院まで」の割合が他の層に比べておおむね高くなっています。

全体として、性別、子どもの有無別による差は目立ちません。

単位 (%)	サンプル数 (件)	①女の子							②男の子							
		中学校まで	高等学校まで	専修学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	中学校まで	高等学校まで	専修学校・各種学校まで	短期大学・高等専門学校まで	大学まで	大学院まで	その他	
全体	1,378	0.7	7.0	1.7	6.3	72.9	3.2	5.4	0.8	6.3	1.0	2.2	75.7	5.7	5.5	
【性別】																
女性	887	0.3	6.5	1.6	6.4	72.6	3.6	5.4	0.5	5.9	0.9	1.5	76.0	6.9	5.4	
男性	475	1.5	7.8	1.9	6.1	73.7	2.5	4.8	1.3	7.4	1.3	3.8	75.6	3.6	5.1	
【性・年齢別】																
女性	29歳以下	157	0.6	10.2	0.0	5.7	79.0	0.0	1.3	1.3	9.6	0.0	1.3	82.8	0.6	1.3
	30歳代	196	0.0	6.6	1.5	10.2	71.9	2.0	3.6	0.0	6.1	1.0	4.1	76.5	5.6	3.6
	40歳代	256	0.4	7.4	2.7	4.3	73.0	3.1	6.6	0.4	6.6	1.2	0.0	78.1	5.5	6.6
	50歳代	216	0.0	3.2	1.4	6.0	69.9	6.0	8.8	0.0	2.8	1.4	0.9	69.9	11.6	8.8
	60歳以上	59	1.7	5.1	1.7	6.8	69.5	11.9	3.4	1.7	3.4	0.0	1.7	72.9	16.9	3.4
男性	29歳以下	101	4.0	7.9	4.0	3.0	81.2	0.0	0.0	3.0	6.9	3.0	3.0	81.2	3.0	0.0
	30歳代	121	1.7	10.7	0.8	4.1	72.7	0.8	6.6	1.7	11.6	0.0	2.5	72.7	2.5	6.6
	40歳代	89	0.0	9.0	0.0	9.0	67.4	6.7	5.6	0.0	7.9	0.0	5.6	71.9	6.7	6.7
	50歳代	96	1.0	5.2	1.0	10.4	71.9	2.1	6.3	1.0	5.2	1.0	7.3	72.9	3.1	6.3
	60歳以上	66	0.0	3.0	4.5	4.5	77.3	3.0	6.1	0.0	1.5	3.0	0.0	83.3	1.5	6.1
【子どもの有無】																
子どもがいる	731	0.3	5.9	1.6	7.5	72.5	4.5	4.8	0.3	5.1	1.0	2.5	77.0	7.0	4.7	
子どもはいない	599	1.3	8.0	1.8	5.0	74.0	1.7	5.8	1.3	7.7	1.2	2.0	75.3	4.2	6.2	

参考／前回調査との比較

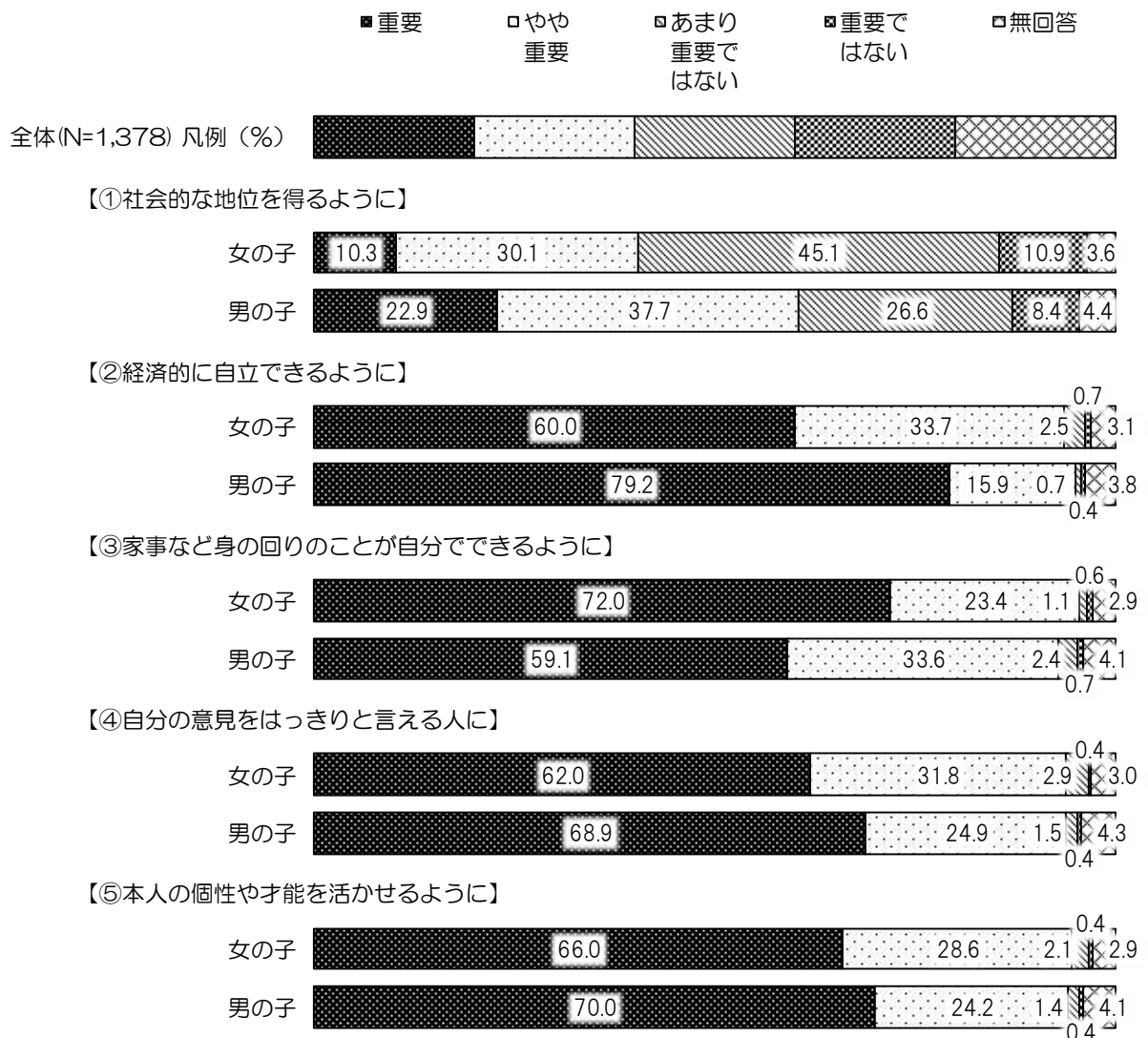
いずれの項目についても大きな変化はみられません。



### 3 子どもの性別による生き方の重要度

問 16. もしあなたに子どもがいたら、あなたは、子どもにはどのような生き方をしてほしいと思いますか。A女の子とB男の子それぞれの場合についてお答えください。  
(A, Bとも〇はそれぞれ1つずつ)

子どもの性別による生き方の重要度については、女の子は「①社会的な地位を得るように」は「あまり重要ではない」の割合が高く、「③家事等身の回りのことが自分のできるように」を「重要」とする割合が高くなっています。一方、男の子は「②経済的に自立できるように」を「重要」とする割合が高くなっています。



性別で見ると、男性に比べて女性で、女の子の「②経済的に自立できるように」の「重要」が高く、男の子の「③家事など身の回りのことが自分でできるように」「④自分の意見をはっきりと言える人に」を「重要」とする割合も高くなっています。

性・年齢別で見ると、「①社会的な地位を得るように」は、男の子の「重要」の割合が女性60歳以上で高い一方で、女の子の「あまり重要でない」の割合が男性50歳代で高くなっています。「④自分の意見をはっきりと言える人に」は、女の子の「重要」の割合が女性60歳以上で高く、女性はおおむね年齢が上がるほど男の子の「重要」の割合も高くなっています。「⑤本人の個性や才能を活かせるように」は、男の子の「重要」の割合が女性50歳代で他の層に比べて高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	①社会的な地位を得るように								②経済的に自立できるように								
		女の子				男の子				女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要でない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要でない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要でない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要でない	重要ではない	
全体	1,378	10.3	30.1	45.1	10.9	22.9	37.7	26.6	8.4	60.0	33.7	2.5	0.7	79.2	15.9	0.7	0.4	
【性別】																		
女性	887	9.7	32.5	44.1	9.6	24.6	39.2	24.0	7.1	64.1	30.3	1.4	0.5	81.5	13.2	0.5	0.3	
男性	475	11.2	26.1	46.5	13.5	19.8	35.2	30.9	10.9	52.2	40.4	4.4	0.8	74.9	20.8	1.1	0.6	
【性・年齢別】																		
女性	29歳以下	157	7.0	43.9	40.1	6.4	22.3	44.6	25.5	4.5	59.9	33.8	1.9	0.0	78.3	17.2	1.3	0.0
	30歳代	196	10.2	34.7	39.3	11.2	28.6	37.2	19.9	8.7	65.3	28.1	0.5	1.5	82.1	11.2	0.0	1.0
	40歳代	256	9.4	28.1	48.4	10.9	21.1	41.0	25.8	8.2	65.6	30.1	2.0	0.4	82.0	13.3	0.8	0.4
	50歳代	216	11.6	25.9	46.8	9.3	23.6	37.0	25.5	6.5	63.9	30.1	1.4	0.0	81.5	12.5	0.0	0.0
	60歳以上	59	10.2	39.0	40.7	8.5	37.3	33.9	20.3	6.8	66.1	32.2	0.0	0.0	88.1	11.9	0.0	0.0
男性	29歳以下	101	15.8	36.6	38.6	8.9	32.7	35.6	22.8	7.9	43.6	47.5	5.9	2.0	73.3	23.8	1.0	2.0
	30歳代	121	12.4	24.8	42.1	16.5	19.8	33.1	30.6	14.0	53.7	38.8	5.0	0.8	77.7	19.8	0.8	0.0
	40歳代	89	13.5	24.7	42.7	14.6	15.7	37.1	32.6	10.1	62.9	31.5	1.1	1.1	76.4	18.0	0.0	1.1
	50歳代	96	6.3	17.7	58.3	15.6	14.6	31.3	35.4	13.5	49.0	42.7	6.3	0.0	71.9	21.9	2.1	0.0
	60歳以上	66	6.1	25.8	54.5	10.6	13.6	40.9	34.8	7.6	53.0	40.9	3.0	0.0	74.2	21.2	1.5	0.0

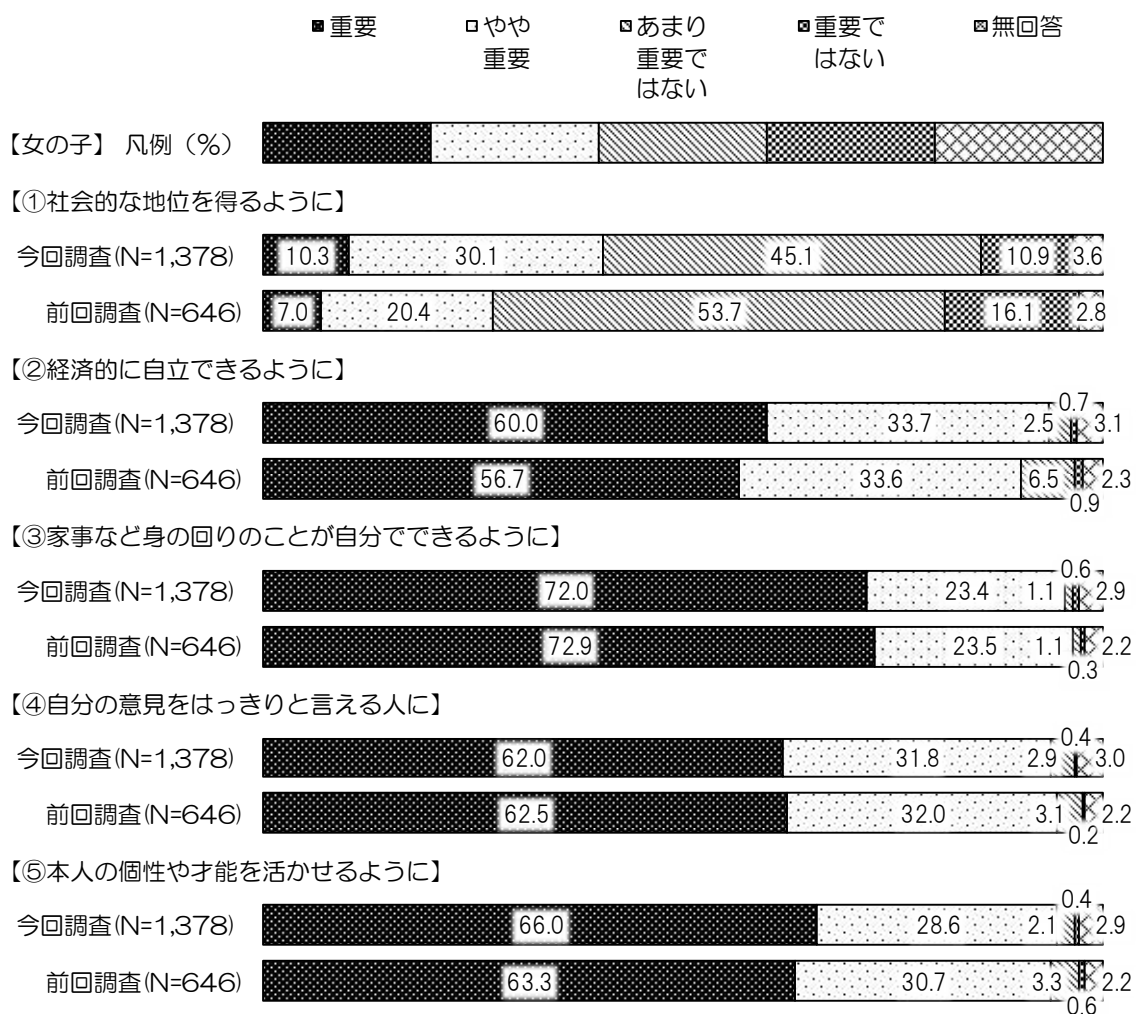
単位 (%)	サンプル数 (件)	③家事など身の回りのことが自分でできるように								④自分の意見をはっきりと言える人に								
		女の子				男の子				女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	
全体	1,378	72.0	23.4	1.1	0.6	59.1	33.6	2.4	0.7	62.0	31.8	2.9	0.4	68.9	24.9	1.5	0.4	
【性別】																		
女性	887	74.9	21.1	0.6	0.2	62.6	31.1	1.2	0.3	65.2	29.5	1.7	0.2	72.6	21.4	0.9	0.2	
男性	475	66.1	28.4	1.9	1.3	52.6	38.7	4.2	1.5	56.4	36.2	4.4	0.6	62.5	31.4	2.3	0.6	
【性・年齢別】																		
女性	29歳以下	157	74.5	22.3	0.6	0.0	59.9	35.7	1.3	0.0	66.2	28.7	2.5	0.0	68.8	26.8	1.3	0.0
	30歳代	196	75.5	20.4	0.5	0.0	62.2	29.6	2.0	0.5	60.2	34.2	1.0	0.5	68.4	25.5	0.0	0.5
	40歳代	256	73.8	23.0	0.4	0.4	62.5	32.0	0.8	0.4	60.5	33.6	2.7	0.4	70.3	23.4	1.6	0.4
	50歳代	216	75.9	18.1	0.9	0.5	66.7	26.9	0.5	0.5	70.4	24.1	0.9	0.0	79.2	13.9	0.9	0.0
	60歳以上	59	76.3	22.0	0.0	0.0	59.3	35.6	3.4	0.0	79.7	20.3	0.0	0.0	84.7	13.6	0.0	0.0
男性	29歳以下	101	72.3	24.8	1.0	2.0	49.5	43.6	5.0	2.0	55.4	38.6	4.0	2.0	64.4	30.7	2.0	2.0
	30歳代	121	66.1	29.8	0.8	1.7	53.7	38.8	3.3	1.7	60.3	31.4	5.0	0.8	65.3	28.1	3.3	0.8
	40歳代	89	68.5	22.5	2.2	2.2	58.4	27.0	5.6	3.4	57.3	29.2	9.0	0.0	61.8	28.1	4.5	0.0
	50歳代	96	62.5	31.3	4.2	0.0	51.0	39.6	5.2	0.0	52.1	43.8	2.1	0.0	58.3	36.5	1.0	0.0
	60歳以上	66	59.1	34.8	1.5	0.0	50.0	45.5	1.5	0.0	57.6	37.9	1.5	0.0	62.1	34.8	0.0	0.0

単位 (%)	サンプル数 (件)	⑤本人の個性や才能を活かせるように								
		女の子				男の子				
		重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	重要	やや重要	はあまり重要ではない	重要ではない	
全体	1,378	66.0	28.6	2.1	0.4	70.0	24.2	1.4	0.4	
【性別】										
女性	887	68.7	26.3	1.5	0.2	72.8	21.3	0.9	0.2	
男性	475	60.2	33.7	3.2	0.8	64.0	30.1	2.3	0.8	
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	157	68.8	27.4	1.3	0.0	69.4	26.8	0.6	0.0
	30歳代	196	67.3	26.5	1.0	0.5	70.9	22.4	0.5	0.5
	40歳代	256	62.5	32.8	2.0	0.4	68.8	25.0	1.6	0.4
	50歳代	216	75.5	18.5	1.4	0.0	81.5	11.6	0.9	0.0
	60歳以上	59	74.6	23.7	1.7	0.0	76.3	23.7	0.0	0.0
男性	29歳以下	101	60.4	35.6	2.0	2.0	65.3	30.7	2.0	2.0
	30歳代	121	68.6	26.4	1.7	1.7	71.1	24.8	0.8	1.7
	40歳代	89	60.7	30.3	4.5	0.0	61.8	28.1	4.5	0.0
	50歳代	96	55.2	37.5	5.2	0.0	58.3	34.4	3.1	0.0
	60歳以上	66	51.5	42.4	3.0	0.0	59.1	36.4	1.5	0.0

## 参考／前回調査との比較

子どもの性別にかかわらず、「①社会的な地位を得るように」が前回調査よりも「重要」の割合が高くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。

## A女の子

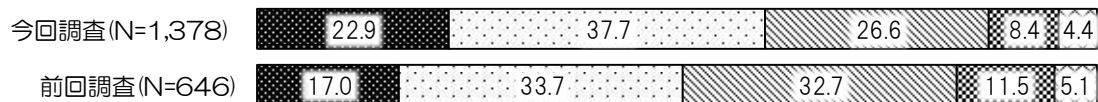


## B 男の子

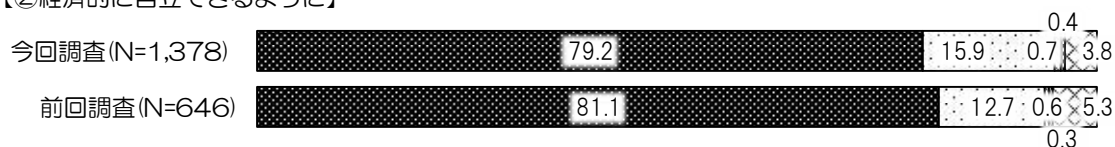
■重要      □やや重要      □あまり重要ではない      ■重要ではない      □無回答

【男の子】 凡例 (%)

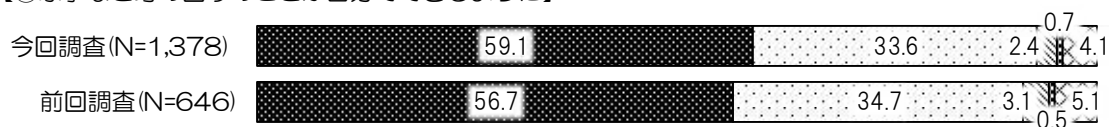
### 【①社会的な地位を得るように】



### 【②経済的に自立できるように】



### 【③家事など身の回りのことが自分でできるように】



### 【④自分の意見をはっきりと言える人に】



### 【⑤本人の個性や才能を活かせるように】





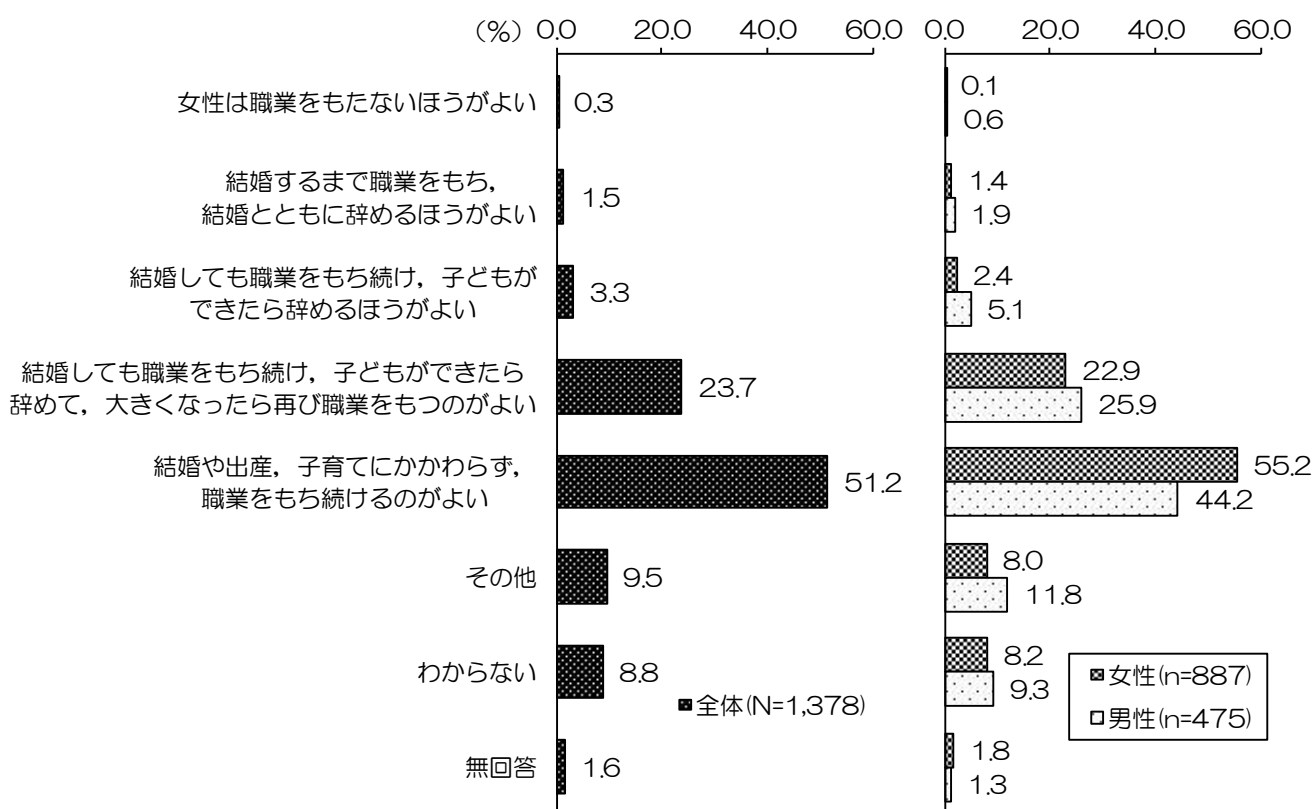
## 【4】職業生活について

### 1 女性が職業をもつことについて

問 17. 女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。（〇は1つ）

女性が職業をもつことについては、「結婚や出産，子育てにかかわらず，職業をもち続けるのがよい」の割合が 51.2%と最も高く，次いで「結婚しても職業をもち続け，子どもができたなら辞めて，大きくなったら再び職業をもつのがよい」（23.7%）の順となっています。

性別では，男性に比べて女性で「結婚や出産，子育てにかかわらず，職業をもち続けるのがよい」の割合が高くなっています。



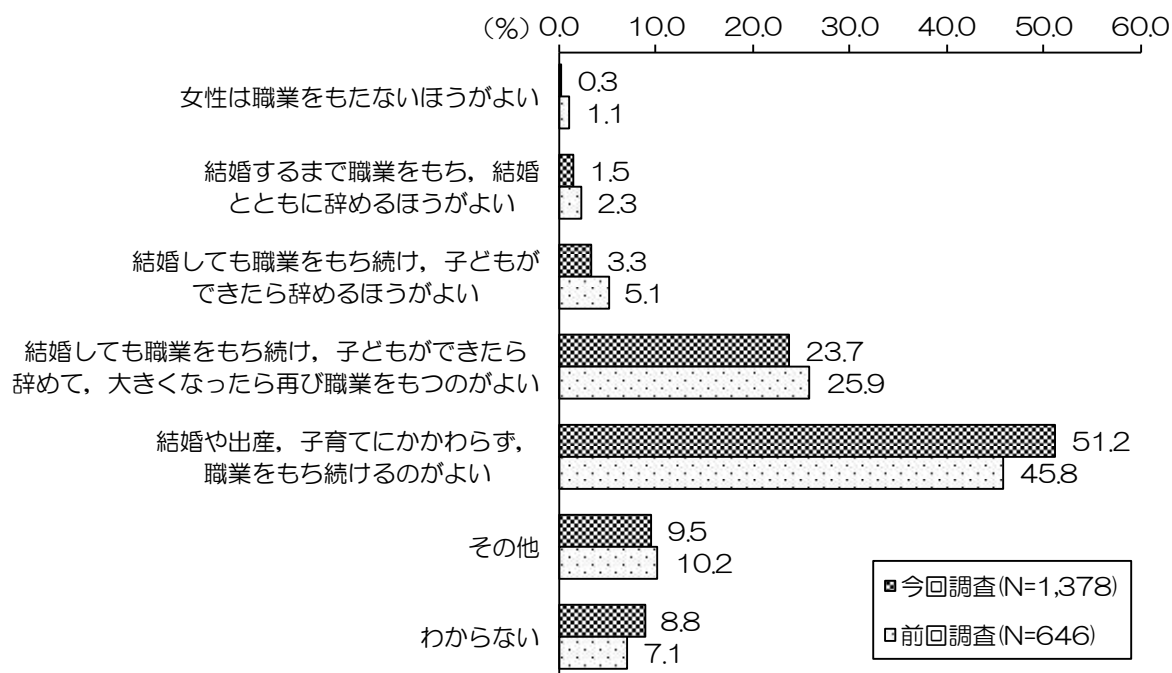
性・年齢別では、女性60歳以上で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」の割合が他の層に比べて高くなっています。

職位別では、副技能長・技能長で「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」、再任用職員と臨時的任用職員で「結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい」の割合が他の職位に比べてそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	女性は職業をもたないほうがよい	結婚するまで職業をもち、結婚とともに辞めるほうがよい	結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めるほうがよい	結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい	結婚しても職業をもち続け、子どもができたなら辞めて、大きくなったら再び職業をもつのがよい	結婚や出産も、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい	その他	わからない
全体	1,378	0.3	1.5	3.3	23.7	51.2	9.5	8.8	
【性・年齢別】									
女性	29歳以下	157	0.0	3.2	5.1	21.7	51.0	8.9	8.9
	30歳代	196	0.5	2.6	2.6	20.9	56.6	7.1	7.1
	40歳代	256	0.0	0.4	1.2	23.8	52.7	9.8	10.9
	50歳代	216	0.0	0.5	1.9	23.6	58.3	6.9	6.9
	60歳以上	59	0.0	0.0	1.7	27.1	64.4	1.7	3.4
男性	29歳以下	101	0.0	2.0	8.9	31.7	37.6	10.9	8.9
	30歳代	121	0.0	0.8	1.7	17.4	52.9	17.4	8.3
	40歳代	89	3.4	1.1	6.7	24.7	36.0	13.5	12.4
	50歳代	96	0.0	2.1	4.2	29.2	45.8	10.4	7.3
	60歳以上	66	0.0	4.5	4.5	30.3	45.5	3.0	10.6
【職位別】									
一般職員	532	0.6	1.9	3.4	19.0	51.5	12.0	10.2	
副技能長・技能長	17	0.0	0.0	5.9	5.9	76.5	5.9	5.9	
係長・課長補佐級	140	0.7	0.7	3.6	20.7	57.1	9.3	7.9	
課長・部長級	116	0.0	1.7	5.2	19.8	50.0	14.7	6.9	
再任用職員	57	0.0	1.8	1.8	31.6	54.4	0.0	8.8	
嘱託職員	144	0.0	1.4	2.1	19.4	62.5	6.3	6.9	
臨時的任用職員	348	0.0	1.4	2.9	35.3	43.7	6.0	8.0	

## 参考／前回調査との比較

「結婚や出産、子育てにかかわらず、職業をもち続けるのがよい」については前回調査よりも5.4ポイント高くなっていますが、その他の項目については大きな変化はみられません。

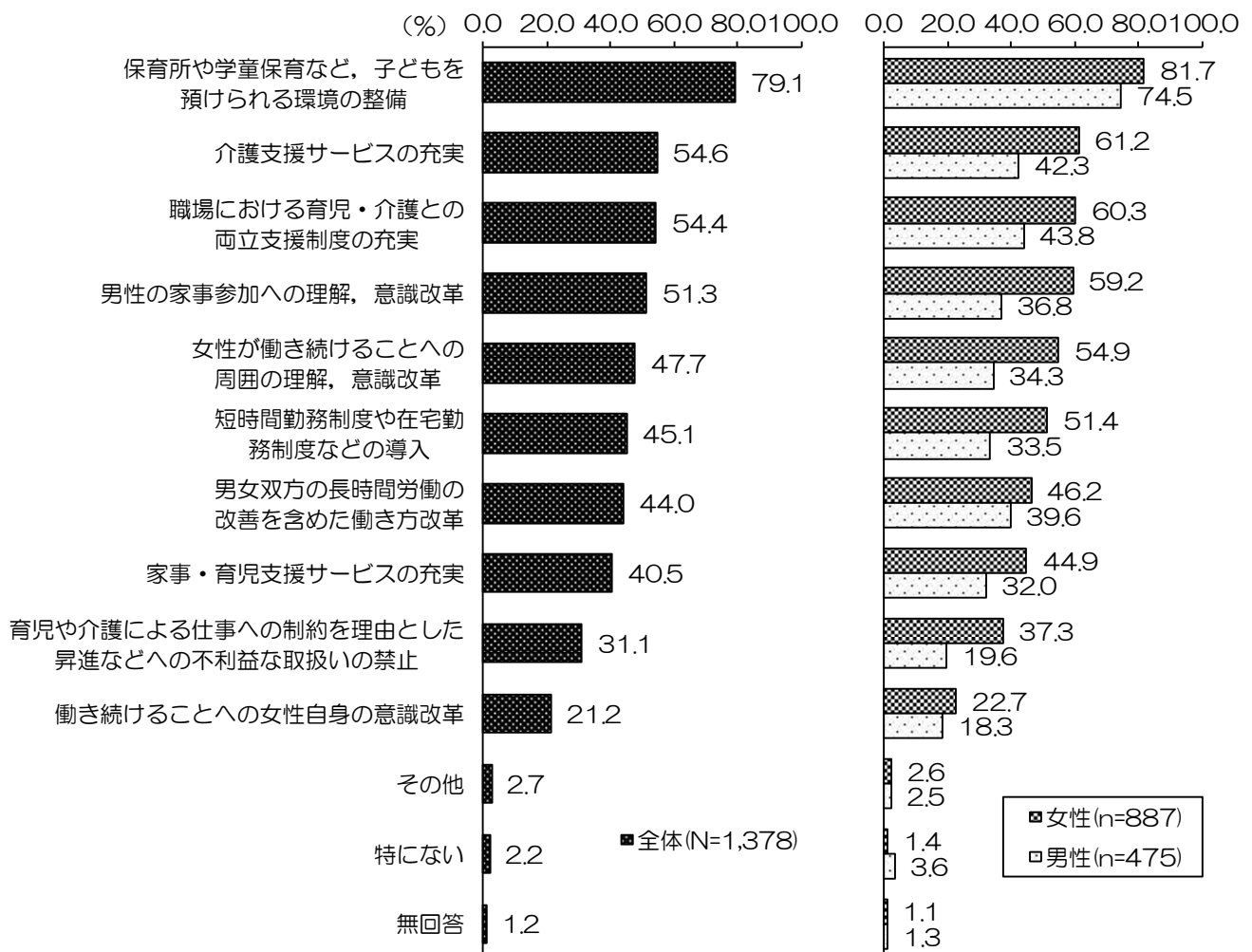


## 2 女性が働き続けるために必要なこと

問 18. あなたは、女性が出産や介護による離職をしないで同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

女性が働き続けるために必要なことについては、「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 79.1%と最も高く、次いで「介護支援サービスの充実」(54.6%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(54.4%)、「男性の家事参加への理解、意識改革」(51.3%)の順となっています。

性別では、「特にない」を除く全ての項目で、女性が男性を上回っています。



性・年齢別では、男女ともに50歳代で「介護支援サービスの充実」、60歳以上で「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」の割合が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。女性の29歳代以下で「短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入」(58.0%)、30歳代で「女性が働き続けることへの周囲の理解、意識改革」(60.7%)、50歳代で「介護支援サービスの充実」(69.0%)、60歳以上で「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(64.4%)、「男性の家事参加への理解、意識改革」(67.8%)、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」(57.6%)、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」(50.8%)が、他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

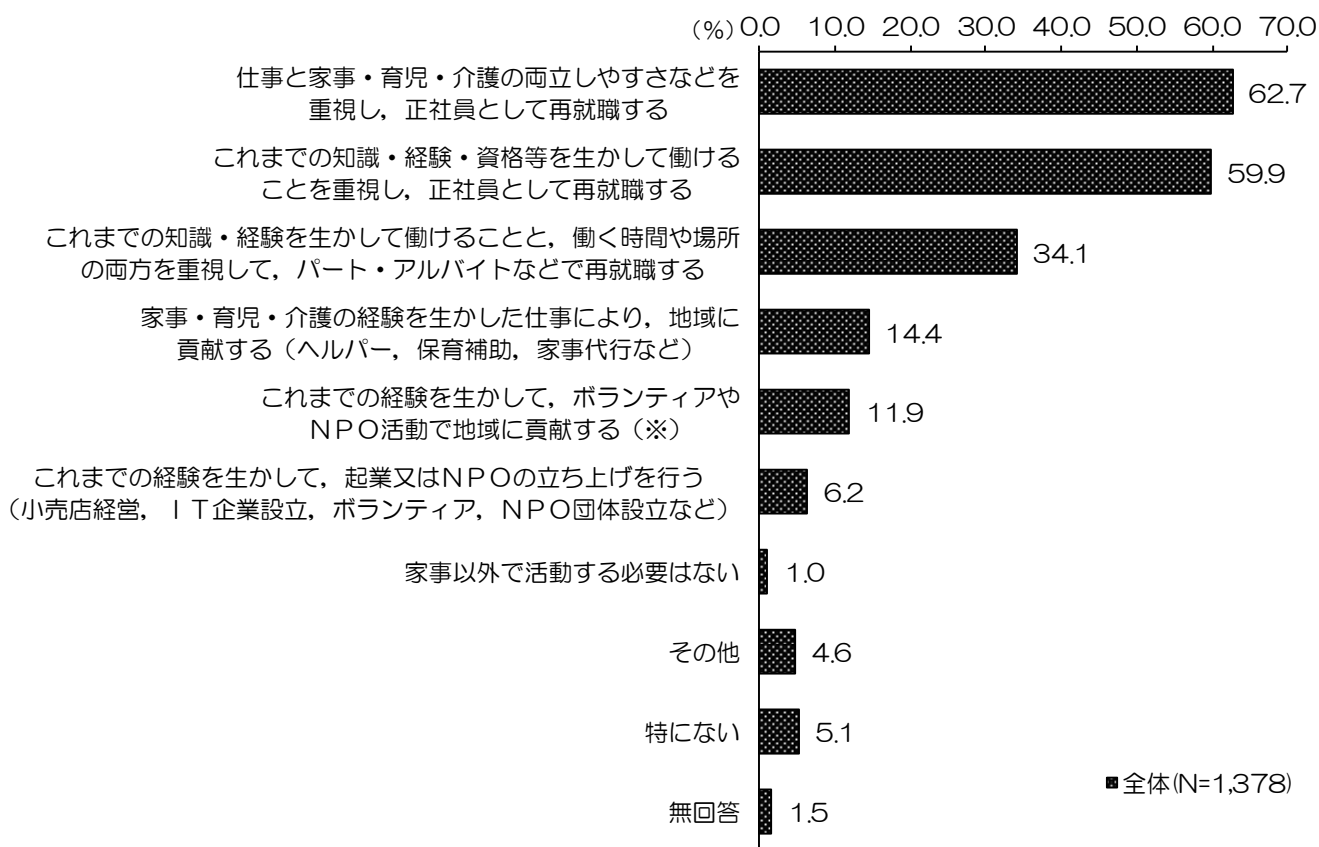
職位別では、副技能長・技能長で「介護支援サービスの充実」(76.5%)、「家事・育児支援サービスの充実」(52.9%)、再任用職員で「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」(91.2%)、嘱託職員で「男性の家事参加への理解、意識改革」(62.5%)、「女性が働き続けることへの周囲の理解、意識改革」(63.9%)、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」(43.8%)の割合が他の職位に比べてそれぞれ高くなっています。また、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合については、嘱託職員と臨時的任用職員で高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備	介護支援サービスの充実	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	男性の家事参加への理解、意識改革	女性が働き続けることへの周回の理解、意識改革	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革	家事・育児支援サービスの充実	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	働き続けることへの女性自身の意識改革	その他	特になし	
全体	1,378	79.1	54.6	54.4	51.3	47.7	45.1	44.0	40.5	31.1	21.2	2.7	2.2	
【性・年齢別】														
女性	29歳以下	157	80.3	55.4	59.9	61.1	50.3	58.0	40.8	41.4	40.8	15.3	1.9	3.2
	30歳代	196	86.2	61.7	60.2	61.2	60.7	55.6	50.5	46.9	38.8	26.0	2.6	0.5
	40歳代	256	80.9	59.8	60.9	54.7	54.3	49.6	41.4	44.5	32.4	21.1	3.1	0.4
	50歳代	216	78.7	69.0	59.3	58.8	54.2	46.3	49.5	46.3	36.1	25.5	3.2	1.4
	60歳以上	59	86.4	52.5	64.4	67.8	54.2	49.2	57.6	44.1	50.8	28.8	0.0	3.4
男性	29歳以下	101	70.3	32.7	38.6	33.7	30.7	28.7	34.7	26.7	16.8	14.9	0.0	6.9
	30歳代	121	76.0	38.8	43.0	41.3	39.7	37.2	51.2	33.1	22.3	24.8	5.0	2.5
	40歳代	89	70.8	43.8	44.9	32.6	25.8	33.7	37.1	29.2	16.9	13.5	6.7	6.7
	50歳代	96	72.9	54.2	50.0	40.6	39.6	36.5	36.5	41.7	22.9	18.8	0.0	0.0
	60歳以上	66	86.4	45.5	43.9	34.8	34.8	30.3	34.8	27.3	18.2	18.2	0.0	1.5
【職位別】														
一般職員	532	74.2	47.9	49.1	46.1	43.2	42.9	41.7	35.5	28.2	19.5	3.4	3.8	
副技能長・技能長	17	76.5	76.5	52.9	58.8	11.8	35.3	29.4	52.9	17.6	17.6	0.0	5.9	
係長・課長補佐級	140	82.1	50.7	50.7	47.9	42.1	40.7	49.3	42.9	21.4	17.9	3.6	0.7	
課長・部長級	116	77.6	59.5	52.6	46.6	39.7	44.8	51.7	41.4	23.3	24.1	4.3	0.9	
再任用職員	57	91.2	43.9	45.6	36.8	36.8	31.6	31.6	22.8	22.8	21.1	0.0	1.8	
嘱託職員	144	84.0	56.9	61.1	62.5	63.9	51.4	49.3	50.0	43.8	22.2	2.1	0.7	
臨時的任用職員	348	83.0	64.9	63.8	59.8	56.6	51.1	43.1	44.5	39.4	23.9	1.1	1.1	

### 3 離職した女性の社会復帰について

問 19. 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたが望ましいと思うものは何ですか。（〇はいくつでも）

離職した女性の社会復帰については、「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」の割合が 62.7%と最も高く、ほぼ並んで「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」(59.9%)が続いています。以下、「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」(34.1%)の順となっています。



※ 育児・介護ボランティア、PTA、防災・治安パトロール、環境を守る活動など

性別では、男性に比べて女性で「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が高くなっています。

職位別では、副技能長・技能長で「これまでの知識・経験・資格等を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」、臨時的任用職員で「これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する」が他の職位に比べてそれぞれ高くなっています。また、嘱託職員で「仕事と家事・育児・介護の両立しやすさなどを重視し、正社員として再就職する」が最も高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	とし仕事と家事・育児・介護の両立	しを、生かすことと、働く時間や場所の両方を重視する	ア所の働けることと、働く時間や場所の両方を重視する	代るた(ハル)に、育児・介護の経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視する	にラこれまでに経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視する	(※2)業これはNPOの立ち上げを行う	家事以外で活動する必要はない	その他	特にな
全体	1,378	62.7	59.9	34.1	14.4	11.9	6.2	1.0	4.6	5.1
【性別】										
女性	887	65.3	60.0	37.5	15.6	13.4	6.5	1.1	4.7	4.6
男性	475	58.1	60.0	27.2	11.4	8.4	5.1	0.6	4.2	5.9
【職位別】										
一般職員	532	59.4	57.3	28.4	9.8	8.8	3.9	0.9	5.8	6.4
副技能長・技能長	17	52.9	70.6	23.5	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
係長・課長補佐級	140	64.3	63.6	28.6	15.0	12.9	7.9	2.1	6.4	3.6
課長・部長級	116	67.2	64.7	27.6	21.6	19.0	13.8	0.9	6.9	4.3
再任用職員	57	61.4	66.7	22.8	17.5	5.3	1.8	0.0	0.0	5.3
嘱託職員	144	68.1	64.6	30.6	16.0	15.3	6.9	0.7	2.1	4.9
臨時的任用職員	348	64.9	58.3	50.0	16.7	13.2	6.6	0.9	2.9	4.0

※1 育児・介護ボランティア, PTA, 防災・治安パトロール, 環境を守る活動など

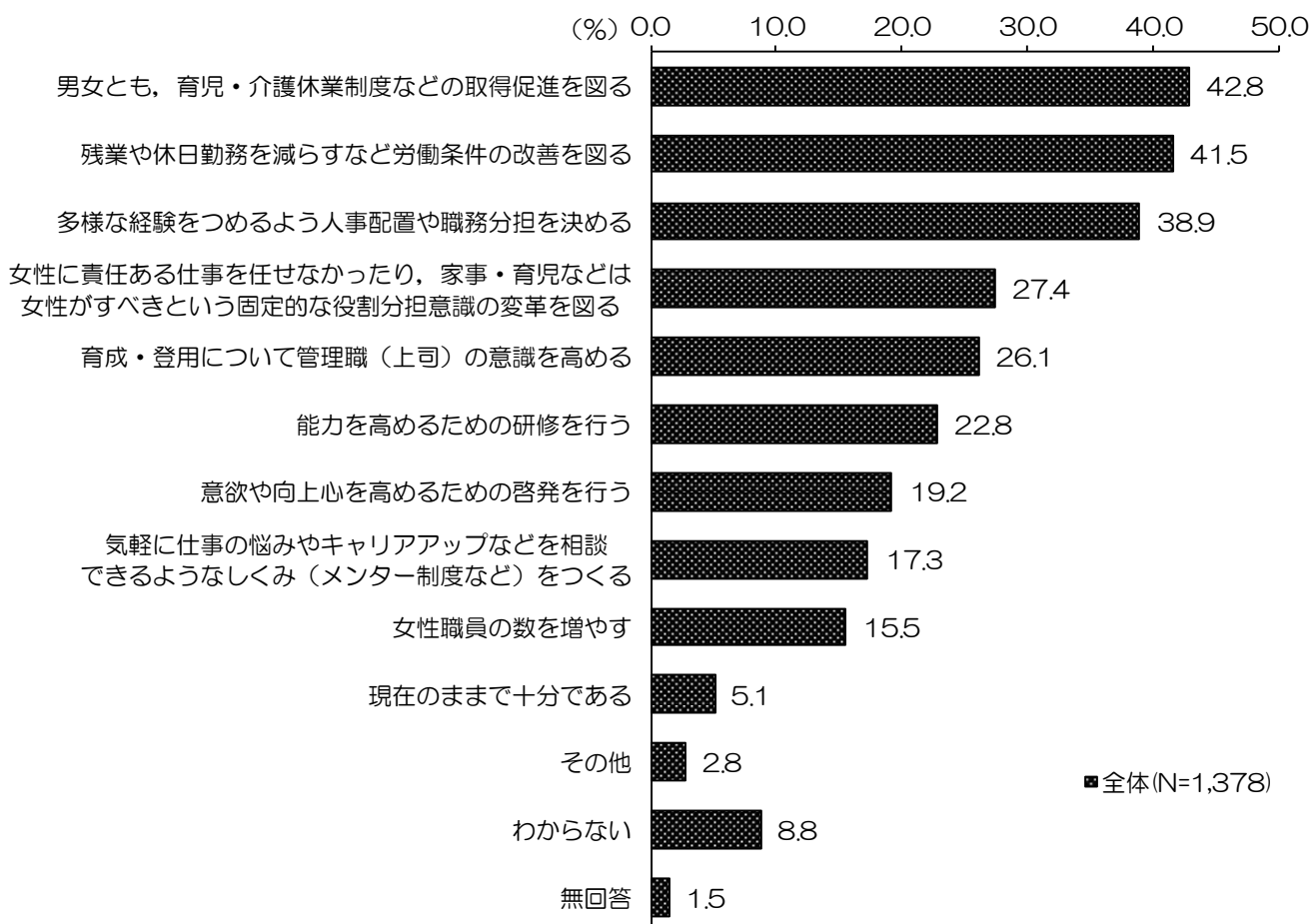
※2 小売店経営, IT企業設立, ボランティア, NPO団体設立など



#### 4 女性職員の職域拡大・登用推進に必要なこと

問 20. あなたは、本市において、女性職員の職域拡大・登用を進めるためにはどのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

女性職員の職域拡大・登用推進に必要なことについては、「男女とも、育児・介護休業制度などの取得促進を図る」が 42.8%と最も高く、次いで「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善を図る」（41.5%）、「多様な経験をつめるよう人事配置や職務分担を決める」（38.9%）の順となっています。



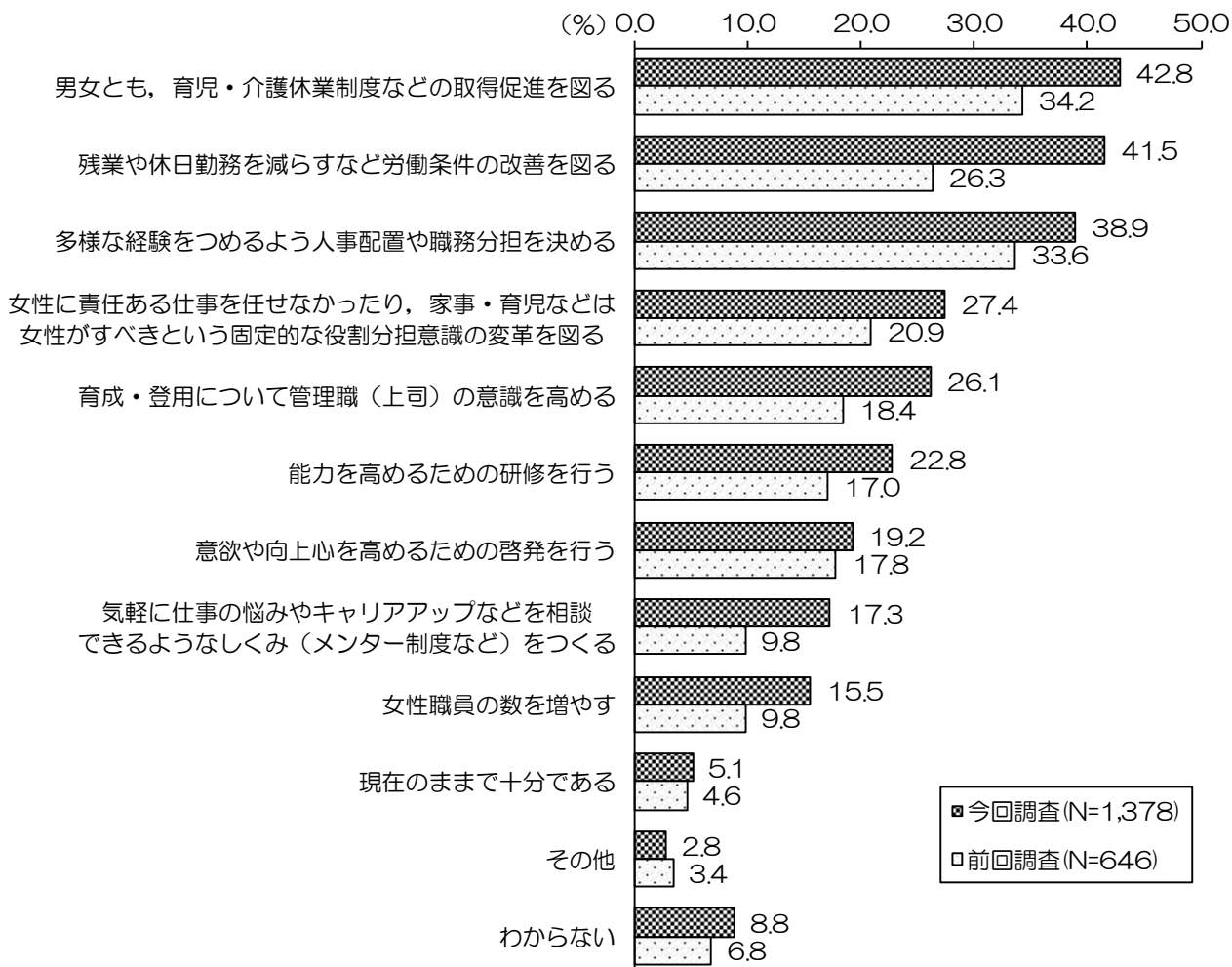
性別では、男性に比べて女性で「男女とも、育児・介護休業制度などの取得促進を図る」「女性に責任ある仕事を任せなかったり、家事・育児などは女性がすべきという固定的な役割分担意識の変革を図る」「能力を高めるための研修を行う」が高くなっています。

職位別では、副技能長・技能長や再任用職員で「多様な経験をつめるよう人事配置や職務分担を決める」、嘱託職員で「男女とも、育児・介護休業制度などの取得促進を図る」「育成・登用について管理職（上司）の意識を高める」などが他の職位に比べてそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	男女とも 育児・介護休業制度などの取 得促進を図る	残業や休日勤務を減らすなど労働条件の 改善を図る	多様な経験をつめるよう人事配置や職務 分担を決める	定期的な役割分担意識の変革を図る	家事・育児などは女性がすべきという固 定的な役割分担意識の変革を図る	女性に責任ある仕事を任せなかったり、 家事・育児などは女性がすべきという固 定的な役割分担意識の変革を図る	育成・登用について管理職（上司）の意 識を高める	能力を高めるための研修を行う	意欲や向上心を高めるための啓発を行う	度など）をつくる	を相談できるようなしくみ（メンター制 などを相談できるようなしくみ（メンター制 を相談できるようなしくみ（メンター制 を相談できるようなしくみ（メンター制	女性職員の数を増やす	現在のままで十分である	その他	わからない
全体	1,378	42.8	41.5	38.9	27.4	26.1	22.8	19.2	17.3	15.5	5.1	2.8	8.8			
【性別】																
女性	887	46.9	44.3	38.1	30.9	29.3	27.7	20.6	20.5	15.6	3.3	2.0	9.0			
男性	475	35.8	36.8	40.8	20.6	20.2	13.7	16.2	11.4	15.4	8.2	4.0	8.4			
【職位別】																
一般職員	532	45.7	46.1	35.9	23.3	22.7	16.9	17.1	14.3	15.4	5.8	3.0	8.5			
副技能長・技能長	17	35.3	5.9	52.9	29.4	5.9	11.8	23.5	11.8	17.6	5.9	5.9	0.0			
係長・課長補佐級	140	40.0	45.7	38.6	22.9	25.0	12.9	16.4	13.6	12.1	5.7	4.3	6.4			
課長・部長級	116	31.0	46.6	44.8	25.9	28.4	19.0	19.8	13.8	12.9	6.9	5.2	7.8			
再任用職員	57	29.8	42.1	56.1	26.3	24.6	19.3	17.5	15.8	12.3	10.5	0.0	3.5			
嘱託職員	144	56.3	43.8	41.7	30.6	36.1	36.8	27.8	26.4	18.8	2.1	0.7	6.9			
臨時的任用職員	348	41.4	33.0	38.2	34.5	27.6	32.5	19.5	21.6	17.2	2.9	1.7	12.9			

参考／前回調査との比較

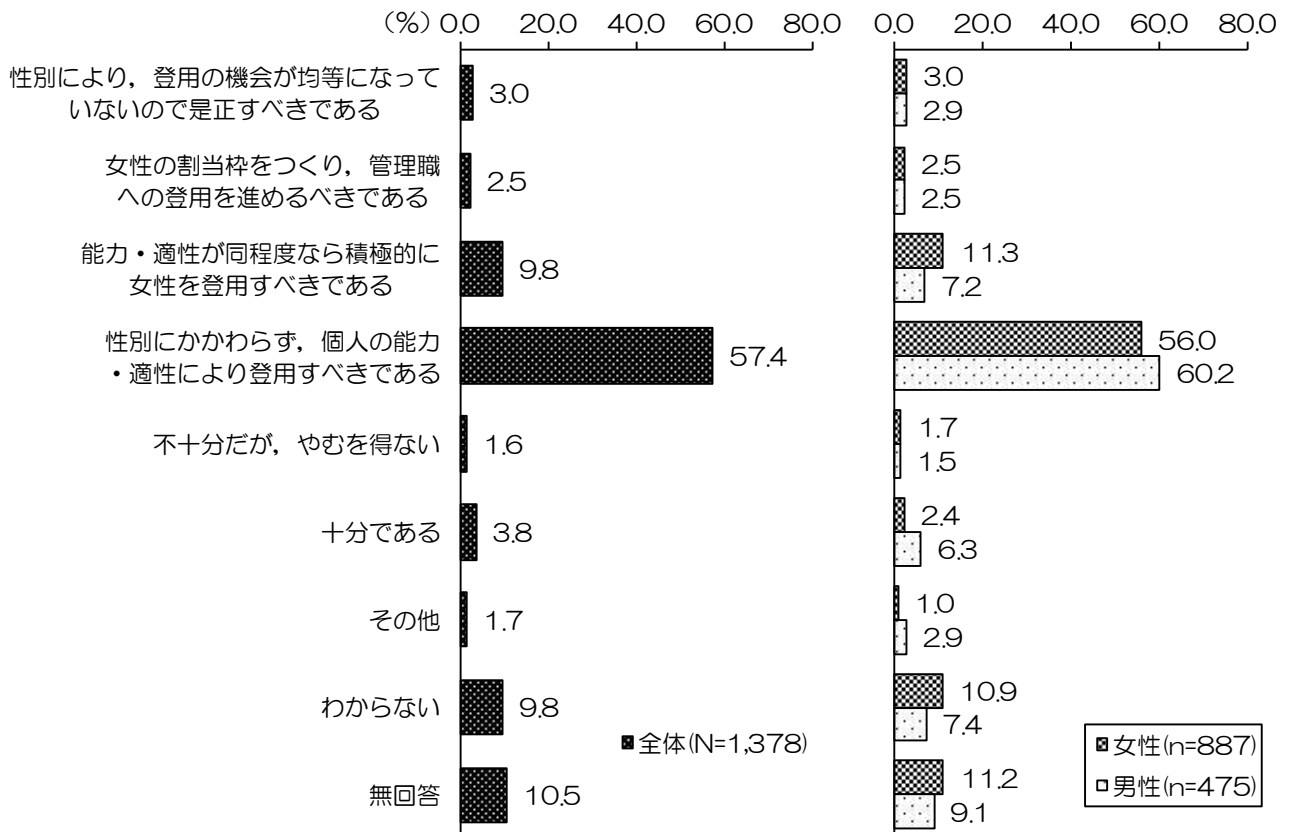
ほとんどの項目で前回よりも上回っており、特に「残業や休日勤務を減らすなど労働条件の改善を図る」が15.2ポイントと高くなっています。



## 5 女性管理職の割合について

問 21. 現在、本市において、課長級以上の管理職に占める女性の割合は 29.3%（平成 28 年 4 月 1 日現在）となっていますが、あなたは、このことについてどのように思いますか。（〇は1つ）

女性管理職の割合（29.3%）については、「性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである」が 57.4%と過半数を占め最も高く、性別による差は目立ちません。



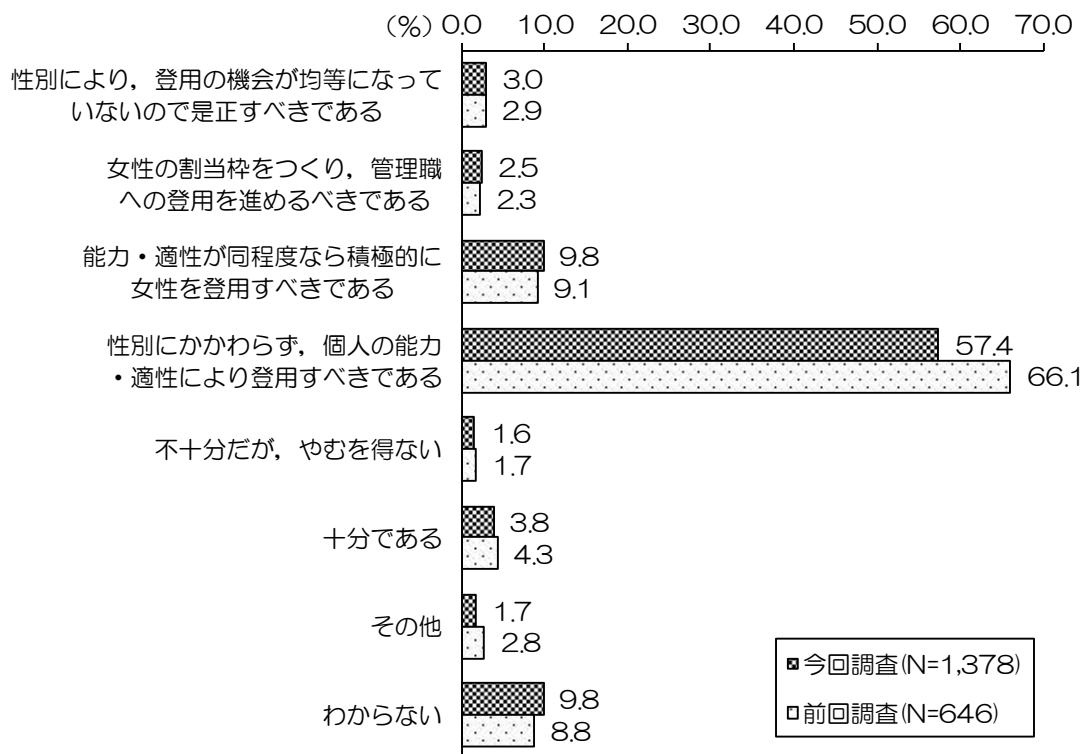
性・年齢別でみると、女性60歳以上で「性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである」の割合が他の層に比べて低くなっています。

職位別では、課長・部長級で「性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである」の割合が他の職位に比べて高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである	性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである
全体	1,378	3.0	2.5	9.8	57.4	1.6	3.8	1.7	9.8	
【性・年齢別】										
女性	29歳以下	157	1.9	1.9	9.6	62.4	2.5	3.2	1.3	10.2
	30歳代	196	2.6	2.6	12.2	55.1	2.0	3.6	1.0	10.2
	40歳代	256	2.7	2.7	12.5	51.6	1.6	3.1	2.0	12.9
	50歳代	216	4.2	1.4	9.3	62.0	1.4	0.5	0.0	9.7
	60歳以上	59	5.1	6.8	15.3	40.7	0.0	0.0	0.0	10.2
男性	29歳以下	101	2.0	2.0	5.0	59.4	2.0	9.9	3.0	8.9
	30歳代	121	3.3	2.5	9.9	57.9	0.8	4.1	6.6	9.1
	40歳代	89	3.4	3.4	4.5	60.7	1.1	9.0	2.2	6.7
	50歳代	96	3.1	2.1	8.3	62.5	1.0	5.2	0.0	6.3
	60歳以上	66	3.0	3.0	7.6	63.6	3.0	1.5	1.5	3.0
【職位別】										
一般職員	532	3.8	2.3	7.1	56.2	2.3	4.9	2.3	11.3	
副技能長・技能長	17	5.9	11.8	11.8	58.8	0.0	0.0	0.0	5.9	
係長・課長補佐級	140	2.1	2.1	9.3	62.9	0.7	6.4	5.0	5.0	
課長・部長級	116	1.7	1.7	7.8	70.7	0.0	4.3	1.7	4.3	
再任用職員	57	3.5	3.5	8.8	61.4	1.8	1.8	1.8	1.8	
嘱託職員	144	4.9	1.4	10.4	59.0	2.1	0.7	0.0	5.6	
臨時的任用職員	348	1.7	3.2	14.4	52.0	1.4	2.0	0.3	14.4	

### 参考／前回調査との比較

「性別にかかわらず、個人の能力・適性により登用すべきである」の割合が前回調査よりも8.7ポイント低くなっています。その他の項目については大きな変化はみられません。



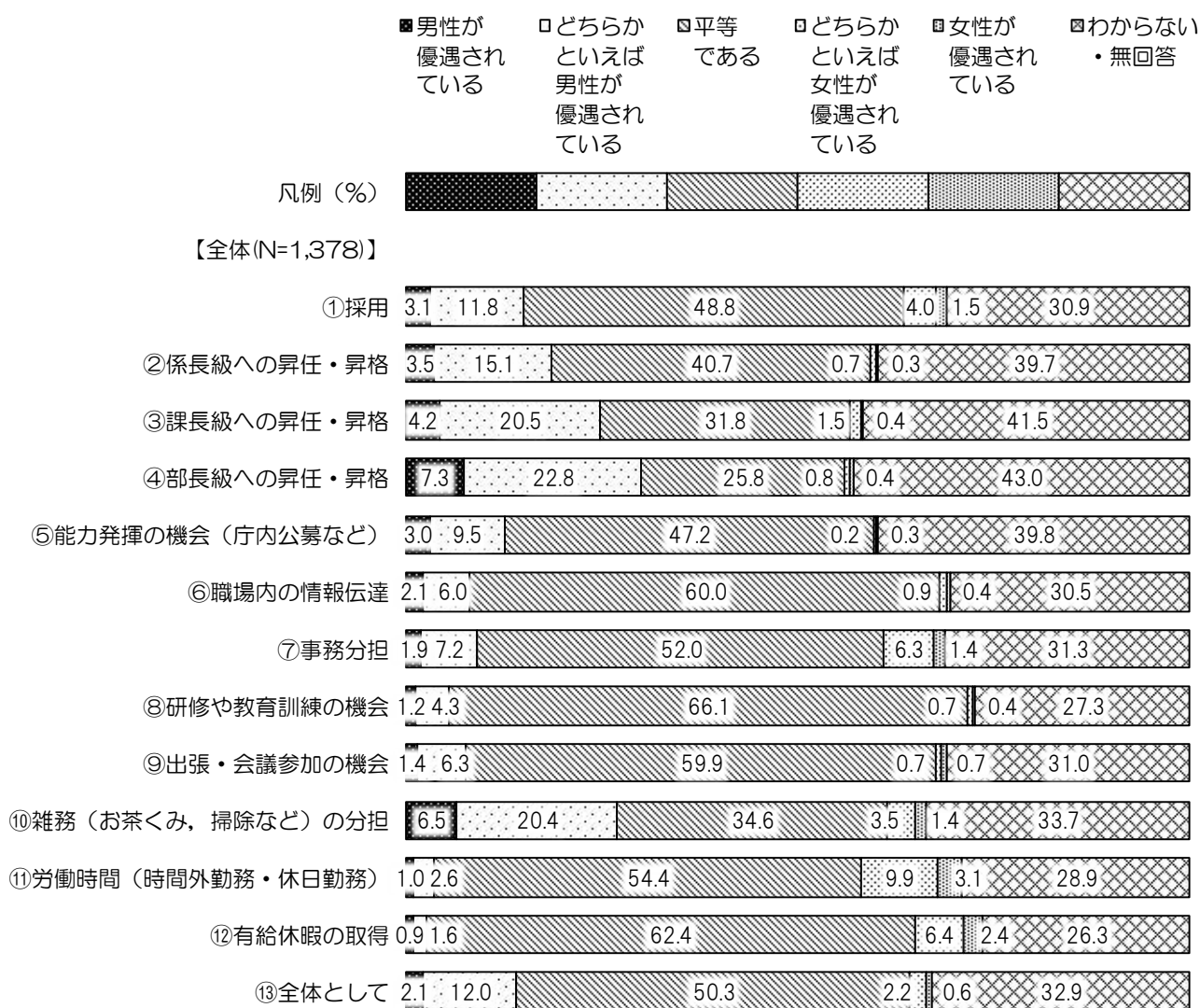
注 前回調査時点の課長級以上の管理職に占める女性の割合は 21.2%

## 6 就労状況の男女差について

問 22. あなたは、本市の職場において次の各項目で男女の差はどのようになっていると思いますか。あなたの職場や周りなどで感じたまま、技能職員や嘱託職員、臨時的任用職員を含め、全員が〇をつけてください。（〇はそれぞれ1つずつ）

就労状況の男女差に関するすべての分野について、『男性優遇\*』意識が高い順に、「④部長級への昇任・昇格」(30.1%)、「⑩雑務（お茶くみ、掃除など）の分担」(26.9%)、「③課長級への昇任・昇格」(24.7%)となっており、『女性優遇\*』意識は「⑪労働時間（時間外勤務・休日勤務）」(13.0%)でやや高くなっています。

一方、「平等になっている」割合が高い項目としては、「⑧研修や教育訓練の機会」(66.1%)、「⑫有給休暇の取得」(62.4%)、「⑥職場内の情報伝達」(60.0%)、「⑨出張・会議参加の機会」(59.9%)などがあげられます。



\*「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせて『女性優遇』としています。

加重平均値\*による属性別傾向をみると、性別では、女性で「③課長級への昇任・昇格」「④部長級への昇任・昇格」の『男性優遇』意識が高くなっています。

性・年齢別でみると、「②係長級への昇任・昇格」「③課長級への昇任・昇格」「④部長級への昇任・昇格」「⑤能力発揮の機会（庁内公募など）」について、女性は年齢が上がるほど『男性優遇』意識が高くなる傾向にあり、「③課長級への昇任・昇格」「④部長級への昇任・昇格」は男性 60 歳以上も『男性優遇』意識が高くなっています。また、「⑪労働時間（時間外勤務・休日勤務）」は男性 30 歳代で『女性優遇』意識が他の層に比べて高くなっています。

職位別にみると、嘱託職員と臨時的任用職員で「②係長級への昇任・昇格」「③課長級への昇任・昇格」「④部長級への昇任・昇格」の『男性優遇』意識が他の職位に比べてそれぞれ高く、係長・課長補佐級や課長・部長級との差が大きくなっています。



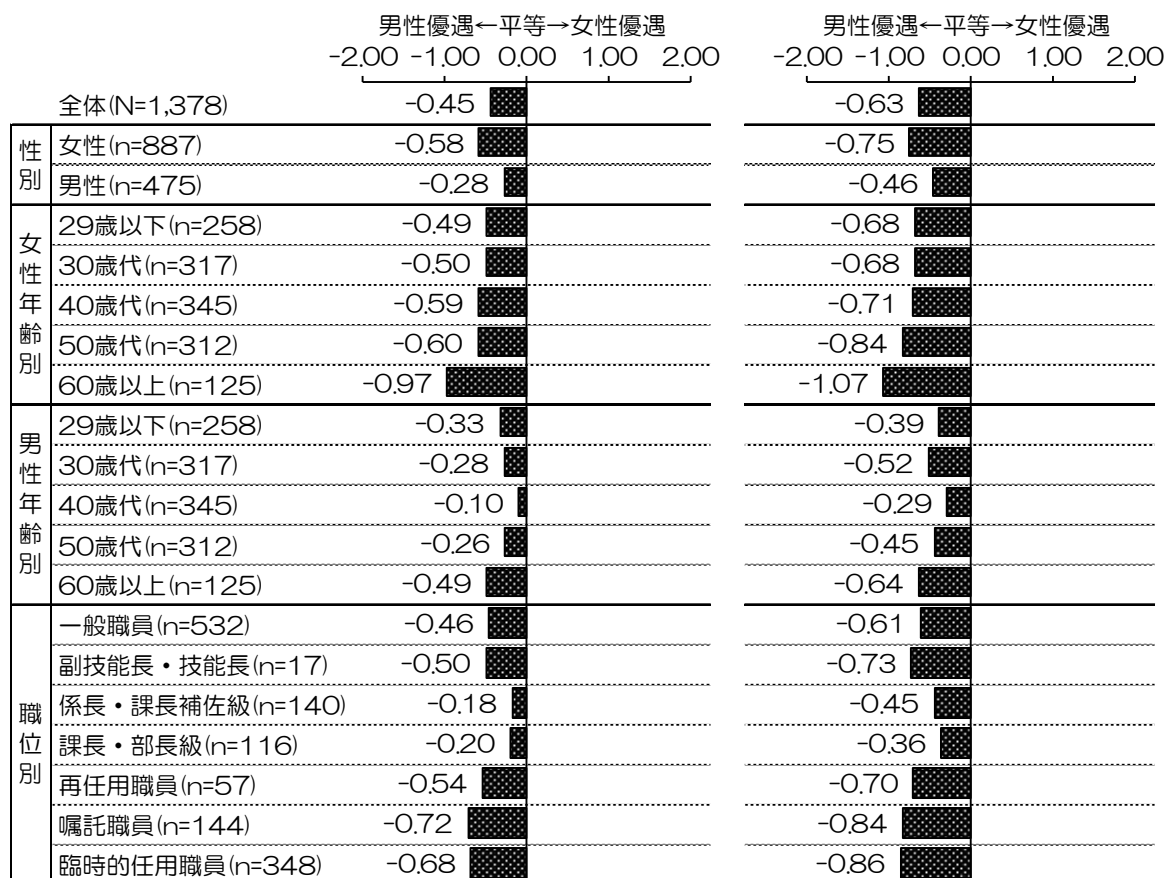
※加重平均値による属性別傾向

加重平均値とは、「男性が優遇されている」に-2点、「どちらかといえば男性が優遇されている」に-1点、「平等である」に0点、「どちらかといえば女性が優遇されている」に+1点、「女性が優遇されている」に+2点の係数を、それぞれの回答件数に乘以、加重平均して算出した値で、-2点に近いほど男性優遇、+2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標です。また、この数値はあくまでも「統計上の指標」であり、マイナス、プラスによって男女の優劣を判定するものではありません。



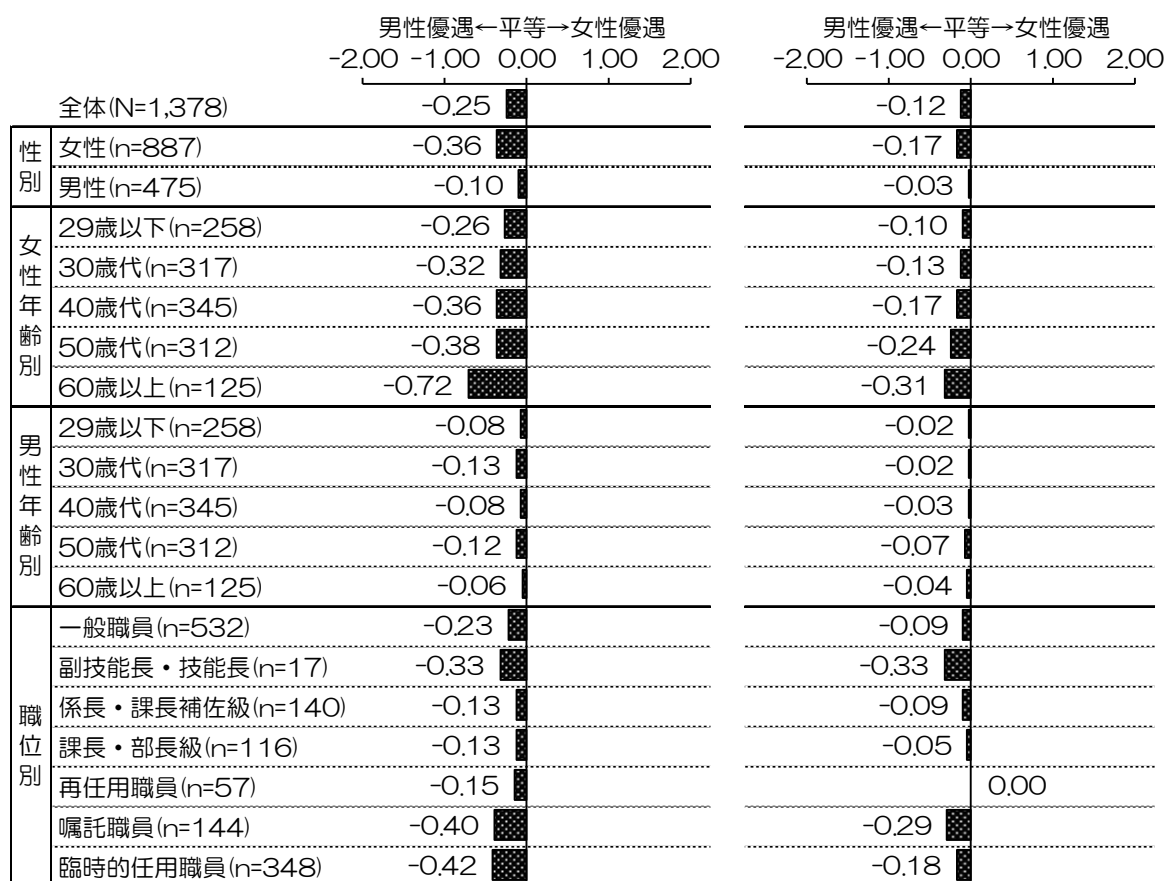
③課長級への昇任・昇格

④部長級への昇任・昇格

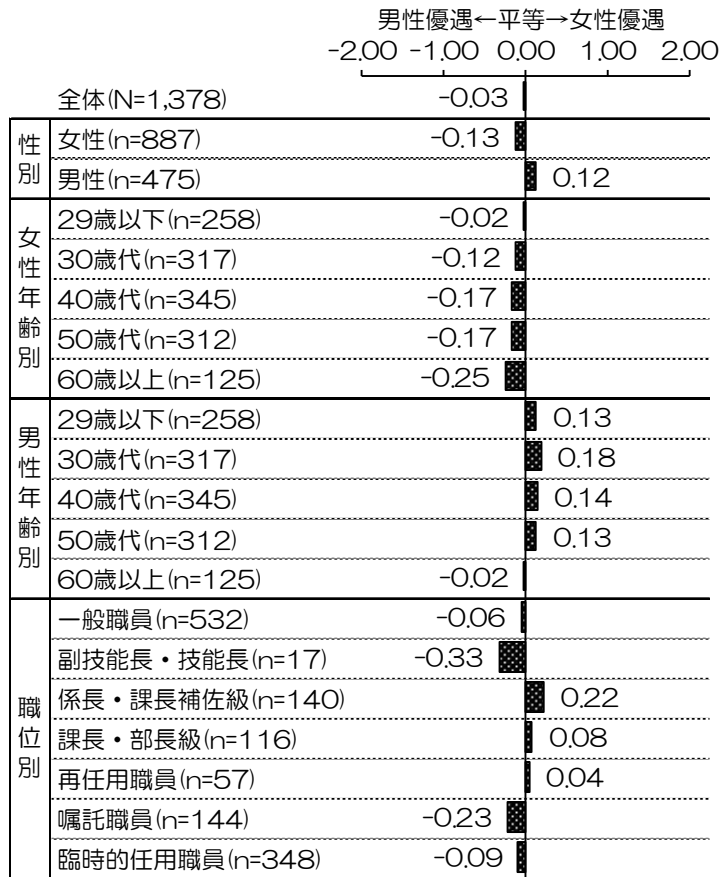


⑤能力発揮の機会  
(庁内公募など)

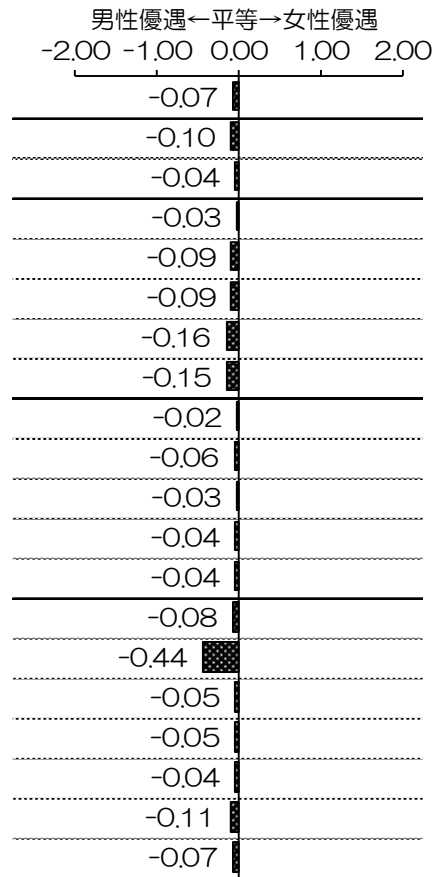
⑥職場内の情報伝達



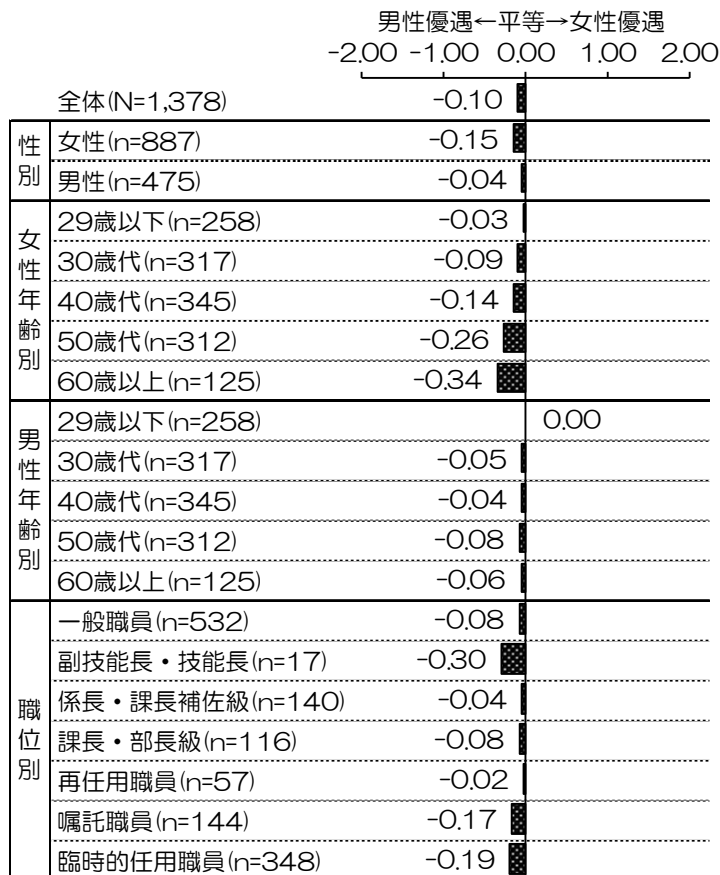
⑦事務分担



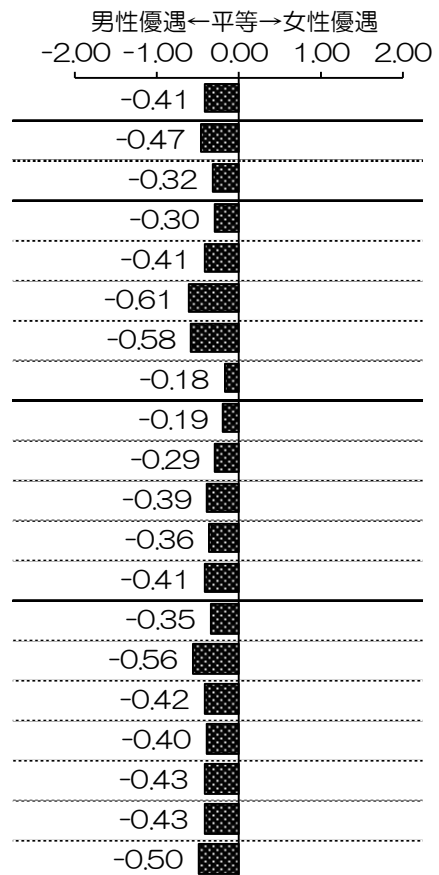
⑧研修や教育訓練の機会



⑨出張・会議参加の機会



⑩雑務（お茶くみ、掃除など）の分担



⑪労働時間（時間外勤務・休日勤務）

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00

全体(N=1,378)		0.16
性別	女性(n=887)	0.07
	男性(n=475)	0.30
女性年齢別	29歳以下(n=258)	0.10
	30歳代(n=317)	0.09
	40歳代(n=345)	0.10
	50歳代(n=312)	0.00
	60歳以上(n=125)	0.03
男性年齢別	29歳以下(n=258)	0.23
	30歳代(n=317)	0.40
	40歳代(n=345)	0.33
	50歳代(n=312)	0.25
	60歳以上(n=125)	0.23
職位別	一般職員(n=532)	0.12
	副技能長・技能長(n=17)	0.30
	係長・課長補佐級(n=140)	0.33
	課長・部長級(n=116)	0.25
	再任用職員(n=57)	0.18
	嘱託職員(n=144)	0.07
	臨時的任用職員(n=348)	0.11

⑫有給休暇の取得

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00

全体(N=1,378)		0.10
性別	女性(n=887)	0.03
	男性(n=475)	0.21
女性年齢別	29歳以下(n=258)	0.02
	30歳代(n=317)	0.06
	40歳代(n=345)	0.05
	50歳代(n=312)	0.01
	60歳以上(n=125)	-0.03
男性年齢別	29歳以下(n=258)	0.22
	30歳代(n=317)	0.26
	40歳代(n=345)	0.19
	50歳代(n=312)	0.20
	60歳以上(n=125)	0.16
職位別	一般職員(n=532)	0.09
	副技能長・技能長(n=17)	0.42
	係長・課長補佐級(n=140)	0.14
	課長・部長級(n=116)	0.17
	再任用職員(n=57)	0.13
	嘱託職員(n=144)	0.08
	臨時的任用職員(n=348)	0.06

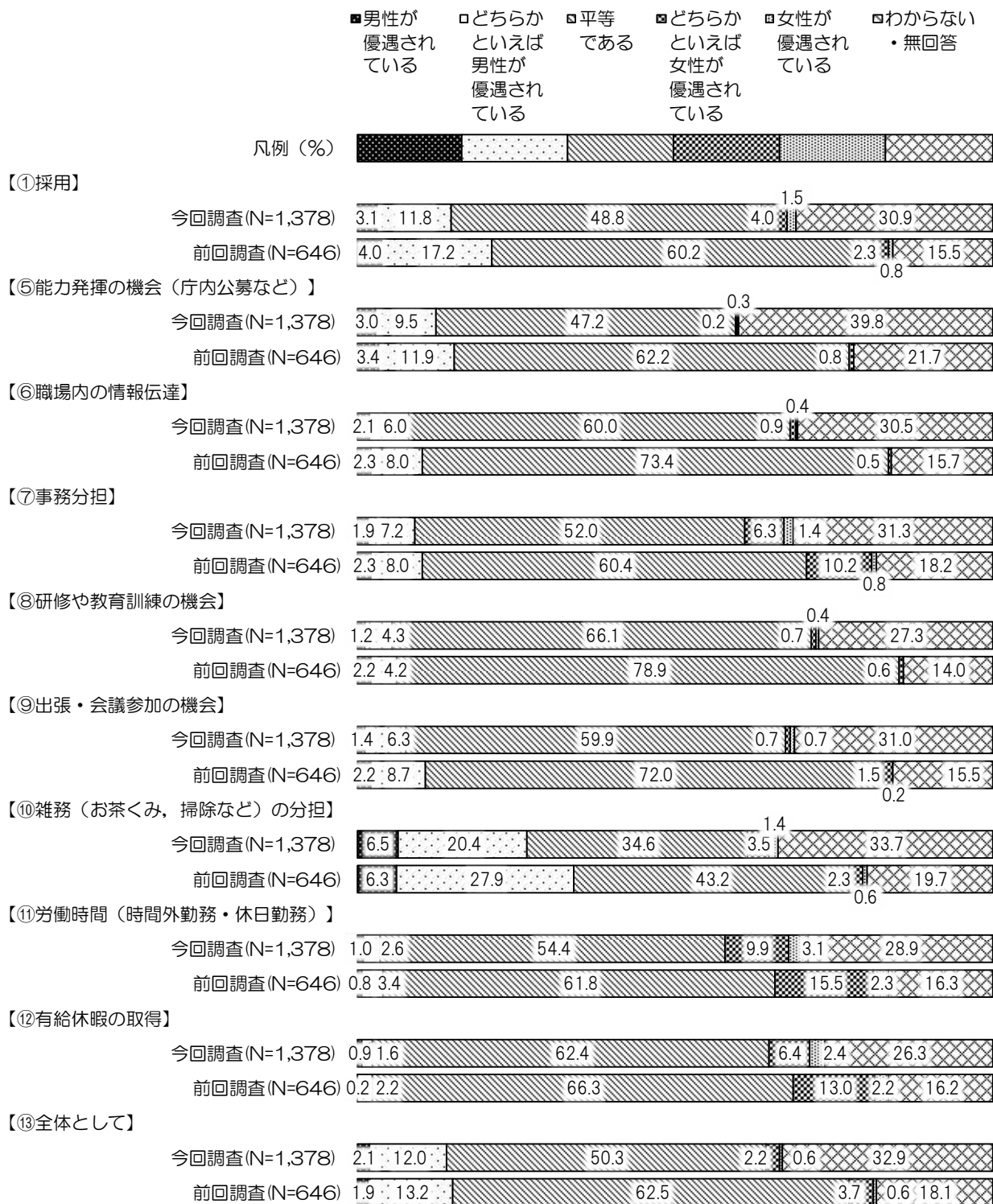
⑬全体として

男性優遇←平等→女性優遇  
-2.00 -1.00 0.00 1.00 2.00

全体(N=1,378)		-0.19
性別	女性(n=887)	-0.29
	男性(n=475)	-0.05
女性年齢別	29歳以下(n=258)	-0.20
	30歳代(n=317)	-0.26
	40歳代(n=345)	-0.34
	50歳代(n=312)	-0.28
	60歳以上(n=125)	-0.50
男性年齢別	29歳以下(n=258)	0.02
	30歳代(n=317)	-0.08
	40歳代(n=345)	-0.03
	50歳代(n=312)	-0.05
	60歳以上(n=125)	-0.12
職位別	一般職員(n=532)	-0.17
	副技能長・技能長(n=17)	-0.09
	係長・課長補佐級(n=140)	-0.10
	課長・部長級(n=116)	-0.06
	再任用職員(n=57)	-0.11
	嘱託職員(n=144)	-0.33
	臨時的任用職員(n=348)	-0.34

## 参考／前回調査との比較

「⑩雑務（お茶くみ，掃除など）の分担」については前回調査よりも『男性優遇』意識の割合が7.3ポイント低くなっています。その他の項目については大きな変化はみられません。



## 7 役職への昇任意向・昇任を望まない理由（正規職員のみ回答）

### （1）役職への昇任の意向

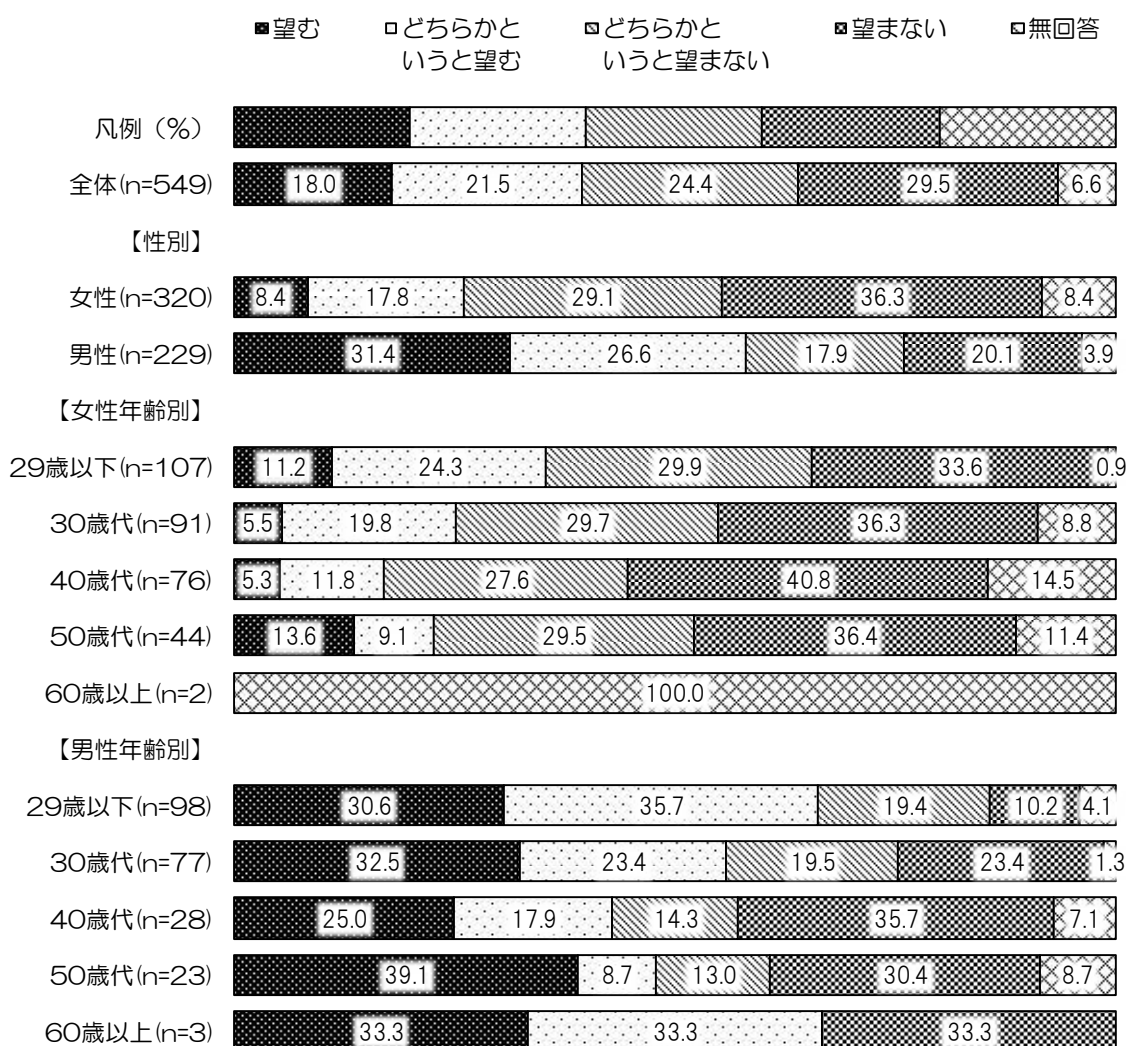
問 23.（正規職員の方におたずねします）あなたは、次の役職（技能職員の方は副技能長・技能長）につくことを望みますか。

①係長級・副技能長・技能長への昇任について（一般職員・副技能長・技能長のみ回答。技能長は技能長になる前にどう思っていたか）

係長級・副技能長・技能長への昇任については、「望まない」の割合が29.5%と最も高く、「どちらかという望まない」（24.4%）を合わせた『希望しない』の割合が過半数（53.9%）を占めます。一方、「望む」（18.0%）、「どちらかという望む」（21.5%）を合わせると、約4割（39.5%）が『希望する』と回答しています。

性別では、女性で『希望しない』、男性で『希望する』の割合がそれぞれ高くなっています。

性・年齢別では、女性29歳以下で『希望する』の割合がやや高いものの、女性は各年代とも6割以上が『希望しない』と回答しています。一方、男性は60歳以上を除くと若い年齢層ほど『希望する』がおおむね高くなっています。



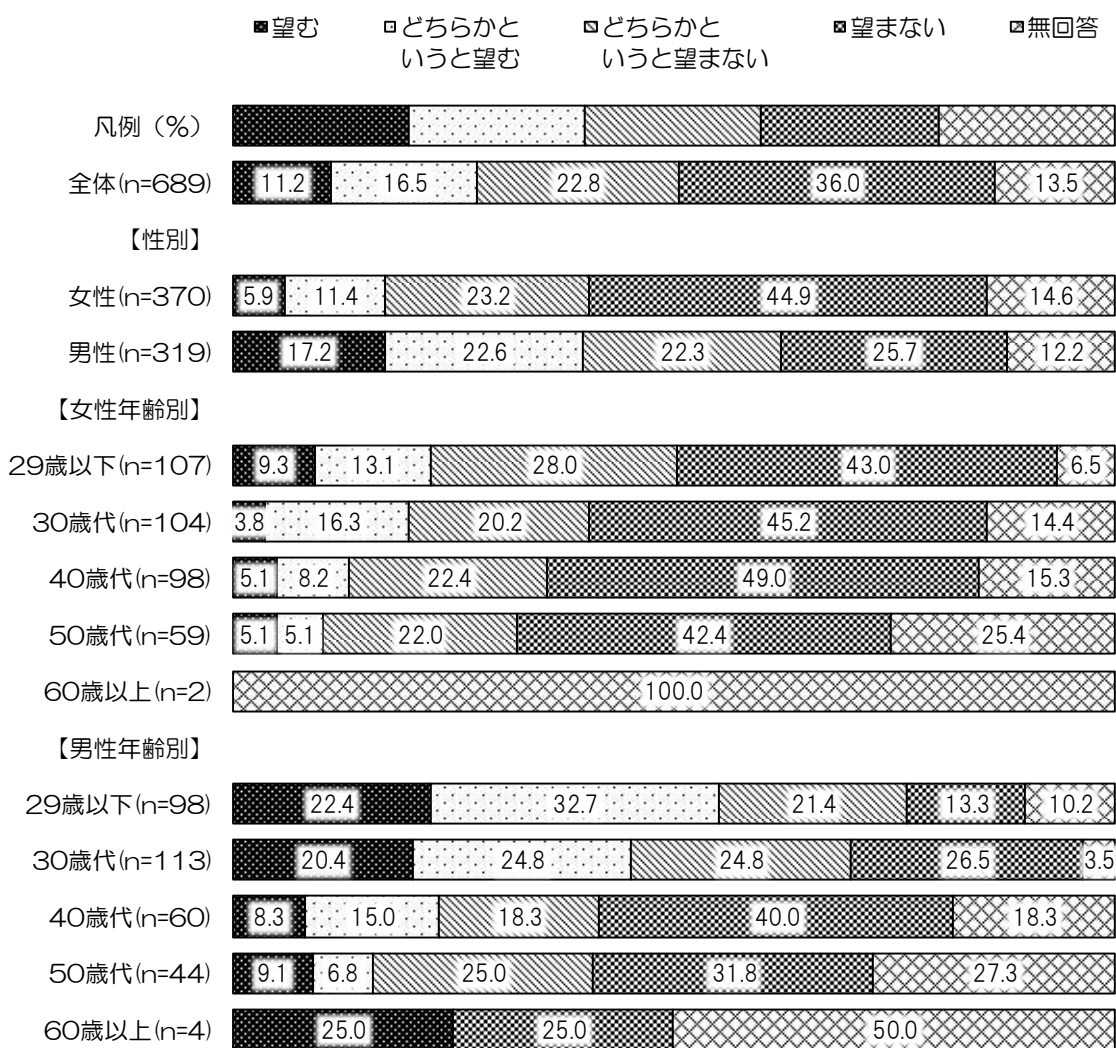
※ 該当件数(n)が10未満の項目については参考値として参照。(本報告書においては、以下同様)

②課長級への昇任について(課長補佐級以下の職員のみ回答)

課長級への昇任については、「望まない」の割合が36.0%と最も高く、「どちらかという望まない」(22.8%)を合わせると、『希望しない』が6割近く(58.8%)を占めます。一方、「望む」(11.2%),「どちらかという望む」(16.5%)を合わせると、27.7%が『希望する』と回答しています。

性別では、男性に比べて女性で『希望しない』の割合が高くなっていますが、男性においても『希望しない』の割合が高くなっています。

性・年齢別では、男性60歳以上を除くと男女とも若い年齢層ほど『希望する』の割合が高くなる傾向にあります。

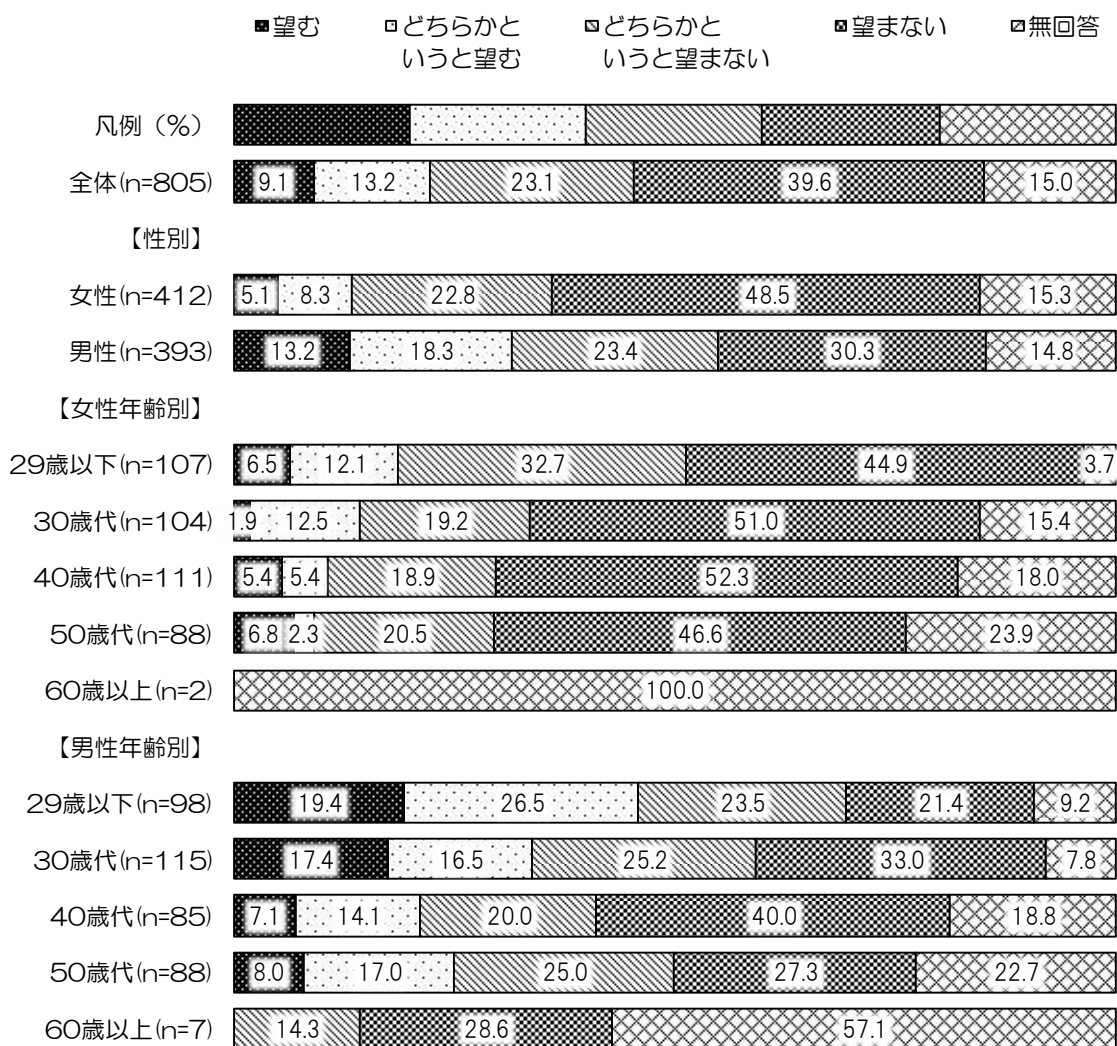


③部長級への昇任について(全員回答。部長級は昇任前にどう思っていたか)

部長級への昇任については、「望まない」の割合が39.6%と最も高く、「どちらかという望まない」(23.1%)を合わせると、『希望しない』が6割以上(62.7%)を占めます。一方、「望む」(9.1%),「どちらかという望む」(13.2%)を合わせると、約2割(22.3%)が『希望する』と回答しています。

性別では、男性に比べて女性で『希望しない』の割合が高くなっています。(男性:53.7%, 女性:71.3%)

性・年齢別では、女性は若い年齢層ほど『希望しない』が高くなる傾向にあり、女性29歳以下の77.6%が『希望しない』と回答しています。一方で、男性は若い年齢層ほど『希望する』が高くなる傾向にあるものの、男性40歳代で『希望しない』は6割を占めます。

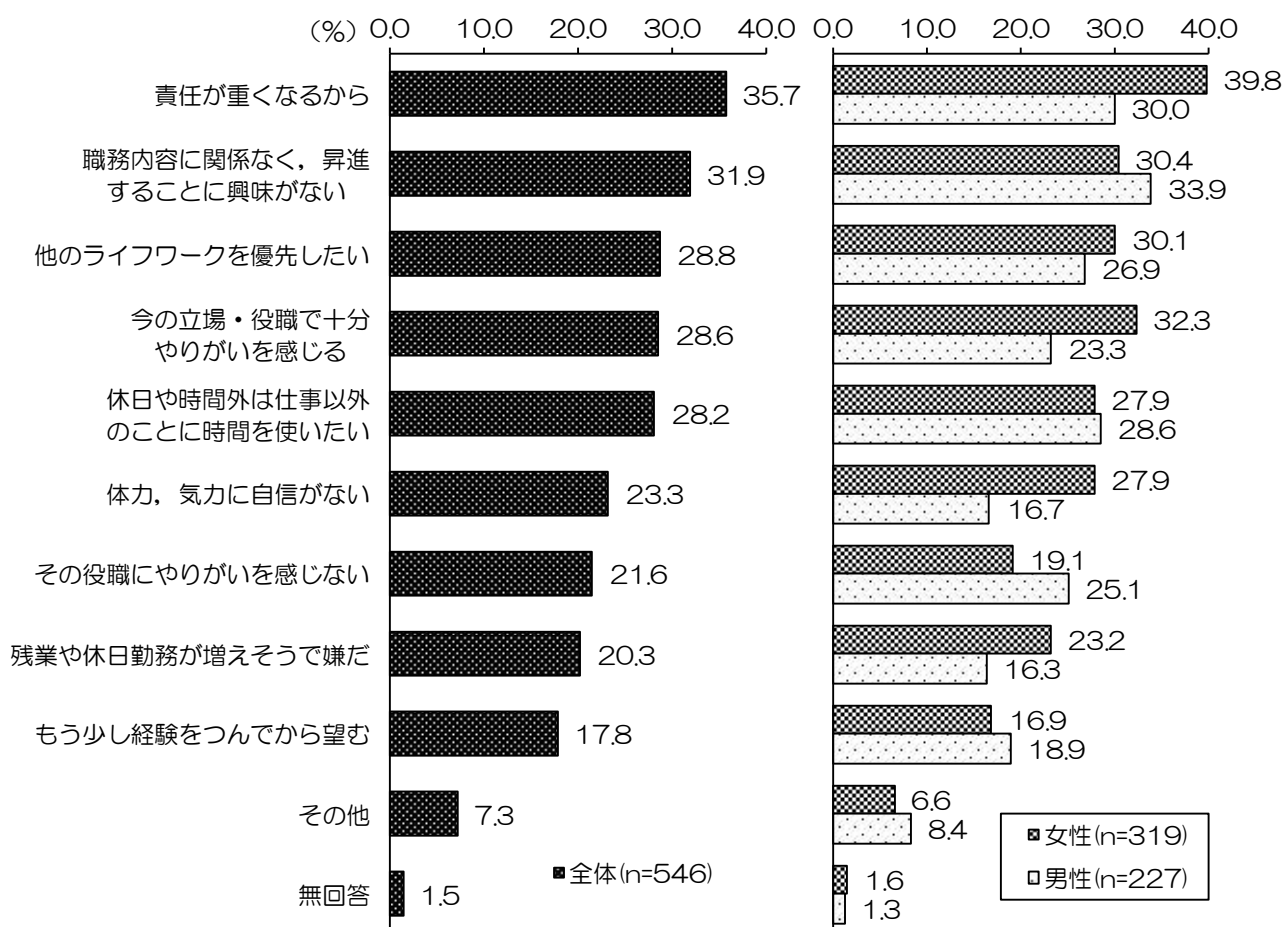


## (2) 役職への昇任を望まない理由

問 23-1. (問 23. で、「3 どちらかという望まない」又は「4 望まない」と答えた方におたずねします) それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

役職への昇任を望まない理由については、「責任が重くなるから」が35.7%と最も高く、次いで「職務内容に関係なく、昇進することに興味がない」(31.9%)、「他のライフワークを優先したい」(28.8%)、「今の立場・役職で十分やりがいを感じる」(28.6%)、「休日や時間外は仕事以外のことに時間を使いたい」(28.2%)の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「体力、気力に自信がない」「責任が重くなるから」「今の立場・役職で十分やりがいを感じる」の順にそれぞれ高くなっています。



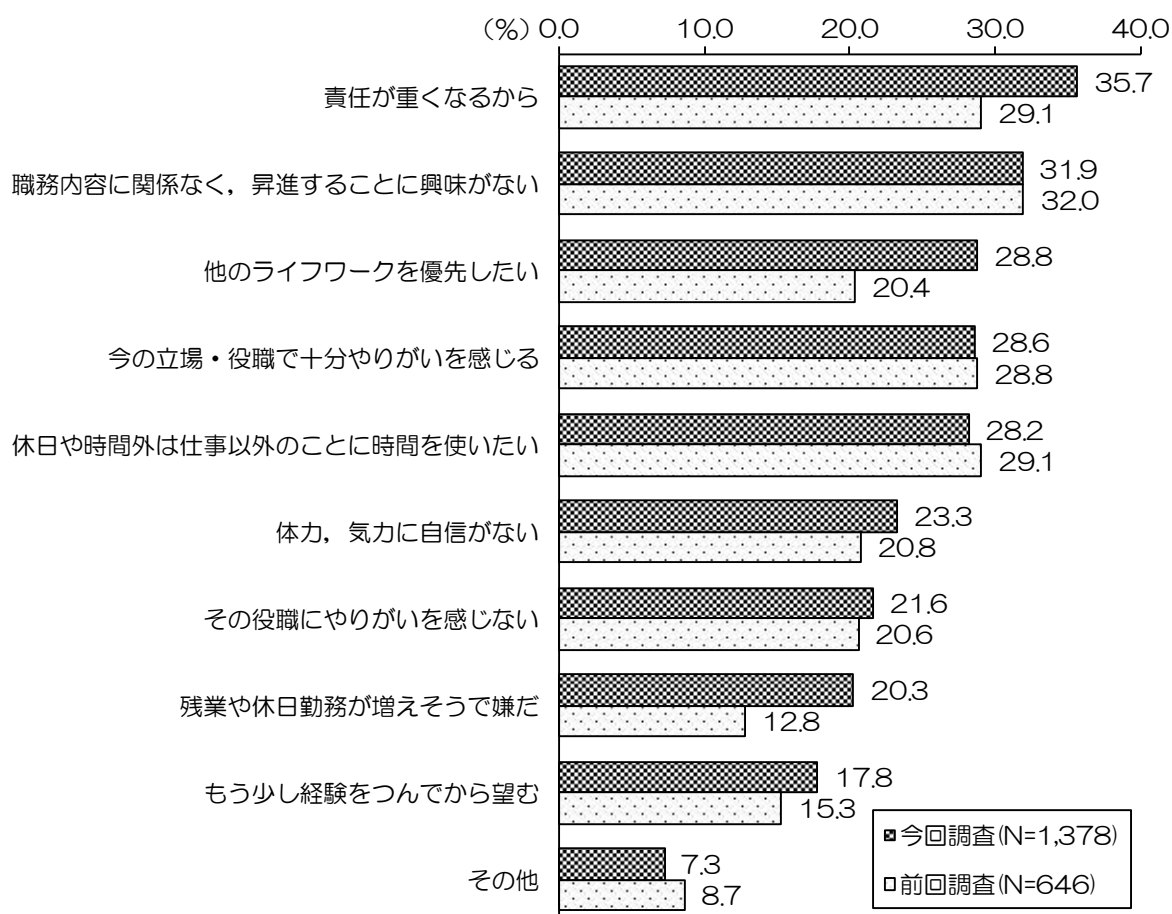


性・年齢別では、男女とも年齢が上がるほど「体力、気力に自信がない」がおおむね高く、若い年齢層ほど「もう少し経験をつんでから望む」が高くなる傾向にあります。また、男女とも30歳代で「他のライフワークを優先したい」、40歳代で「その役職にやりがいを感じない」が共通して高くなっています。さらに、女性30～40歳代で「残業や休日勤務が増えそうで嫌だ」、男性50歳代で「職務内容に関係なく、昇進することに興味がない」が他の層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位 (%)	サンプル数 (件)	責任が重くなるから	職務内容に興味がなく、昇進	他のライフワークを優先	今の立場・役職で十分	休日や時間を外は仕事以外の	体力、気力に自信がない	その役職にやりがいを感じない	残業や休日勤務が増えそうで嫌だ	もう少し経験をつんでから望む	その他	
全体	546	35.7	31.9	28.8	28.6	28.2	23.3	21.6	20.3	17.8	7.3	
【性・年齢別】												
女性	29歳以下	85	34.1	27.1	35.3	30.6	29.4	21.2	11.8	18.8	35.3	3.5
	30歳代	79	38.0	38.0	36.7	35.4	31.6	22.8	17.7	29.1	20.3	6.3
	40歳代	88	43.2	31.8	29.5	27.3	34.1	33.0	33.0	5.7	10.2	
	50歳代	67	44.8	23.9	16.4	37.3	13.4	35.8	11.9	9.0	4.5	6.0
	60歳以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
男性	29歳以下	48	29.2	18.8	16.7	16.7	29.2	10.4	16.7	12.5	39.6	0.0
	30歳代	73	35.6	39.7	34.2	19.2	34.2	15.1	30.1	24.7	27.4	8.2
	40歳代	52	26.9	26.9	28.8	25.0	34.6	19.2	32.7	19.2	7.7	15.4
	50歳代	51	27.5	49.0	25.5	35.3	15.7	21.6	17.6	5.9	0.0	7.8
	60歳以上	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3

### 参考／前回調査との比較

前回調査よりも、「責任が重くなるから」は6.6ポイント、「他のライフワークを優先したい」は8.4ポイント、「残業や休日勤務が増えそうで嫌だ」は7.5ポイントそれぞれ高くなっています。



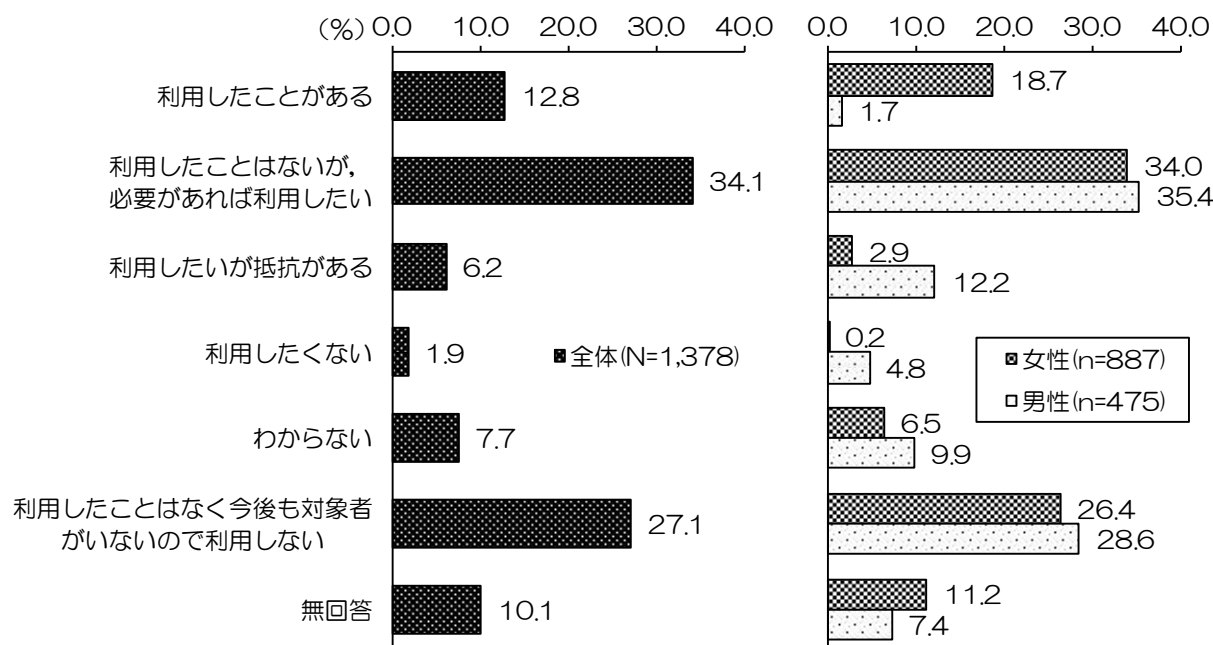
## 8 育児休業・介護休業の利用状況

問 24. あなたは、育児や介護を行うために、これまでに育児休業・介護休業制度を利用したことがありますか。また、利用したことのない人は今後利用したいと思いますか。（〇はそれぞれ1つずつ）

### （1）育児休業の利用状況

育児休業の利用状況については、「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が34.1%、「利用したことはなく今後も対象者がいないので利用しない」が27.1%となっており、育児休業を「使用したことがある」割合は12.8%であった。

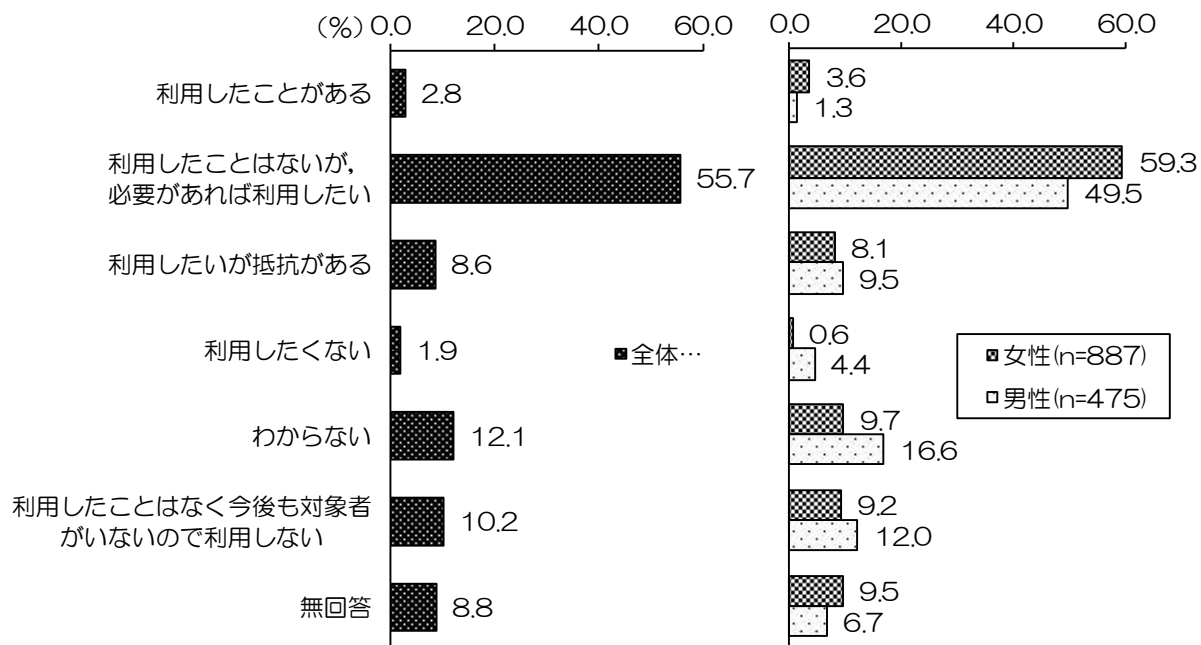
性別では、女性の育児休業取得率が約2割を占めており、男性は「利用したいが抵抗がある」が高くなっています。



## (2) 介護休業の利用状況

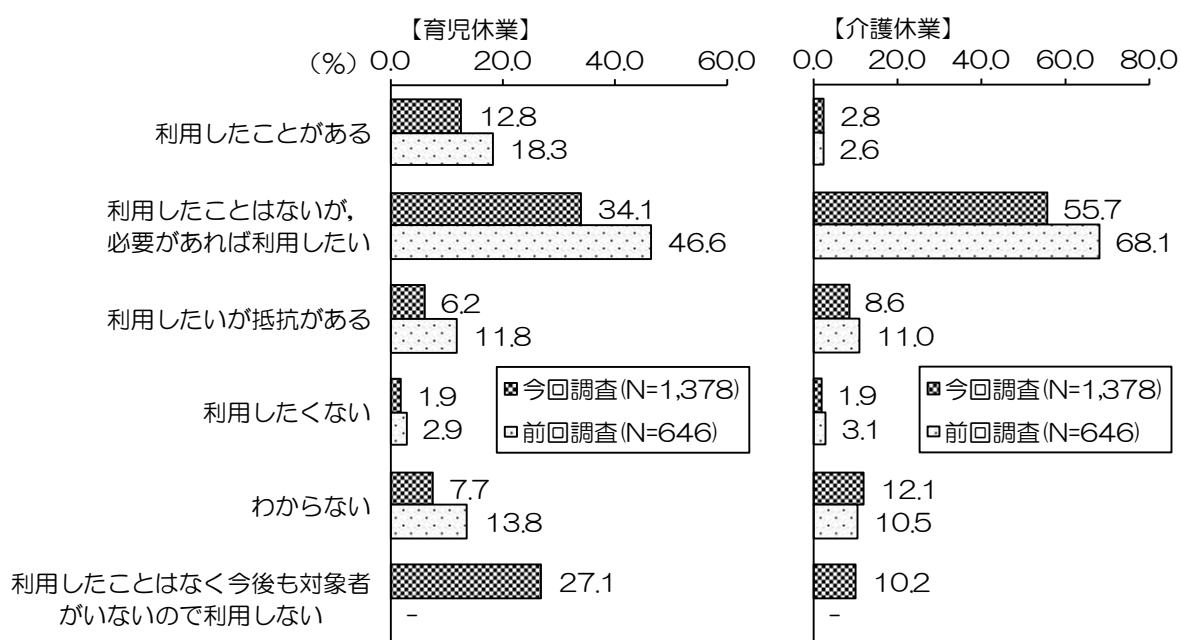
介護休業の利用状況については、過半数（55.7%）が「利用したことはないが、必要があれば利用したい」と回答する一方で、介護休業を「利用したことがある」割合は2.8%に留まっています。

性別では、男性に比べて女性で「利用したことはないが、必要があれば利用したい」が高くなっています。



## 参考／前回調査との比較

育児休業を「利用したことがある」の割合は、前回調査よりも5.5ポイント低くなっており、また育児休業、介護休業とも、前回調査に比べて「利用したことはないが、必要があれば利用したい」の割合が低くなっています。

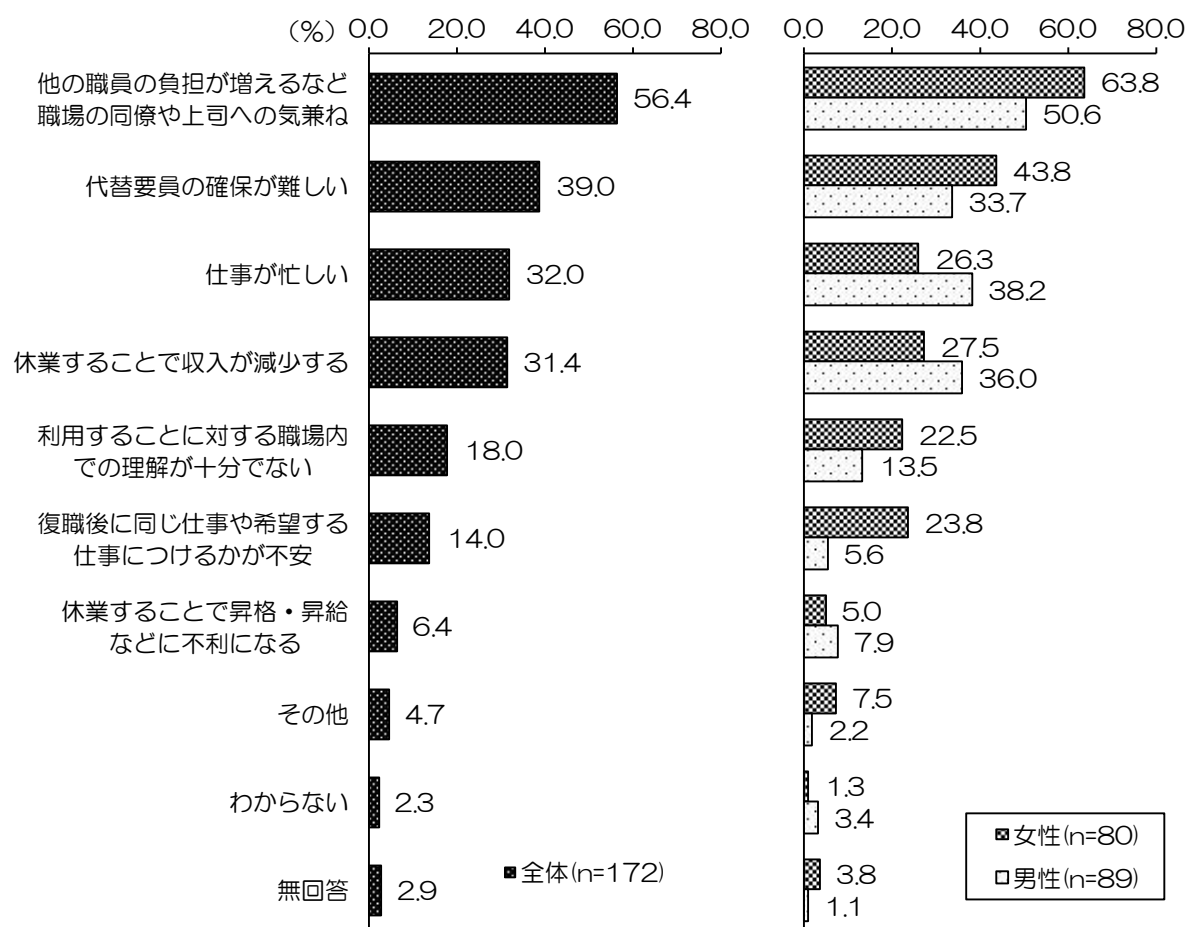


### (3) 育児休業・介護休業の利用に消極的な理由

問 24-1. (ひとつでも「3利用したいが抵抗がある」又は「4 利用したくない」と答えた方におたずねします) それはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

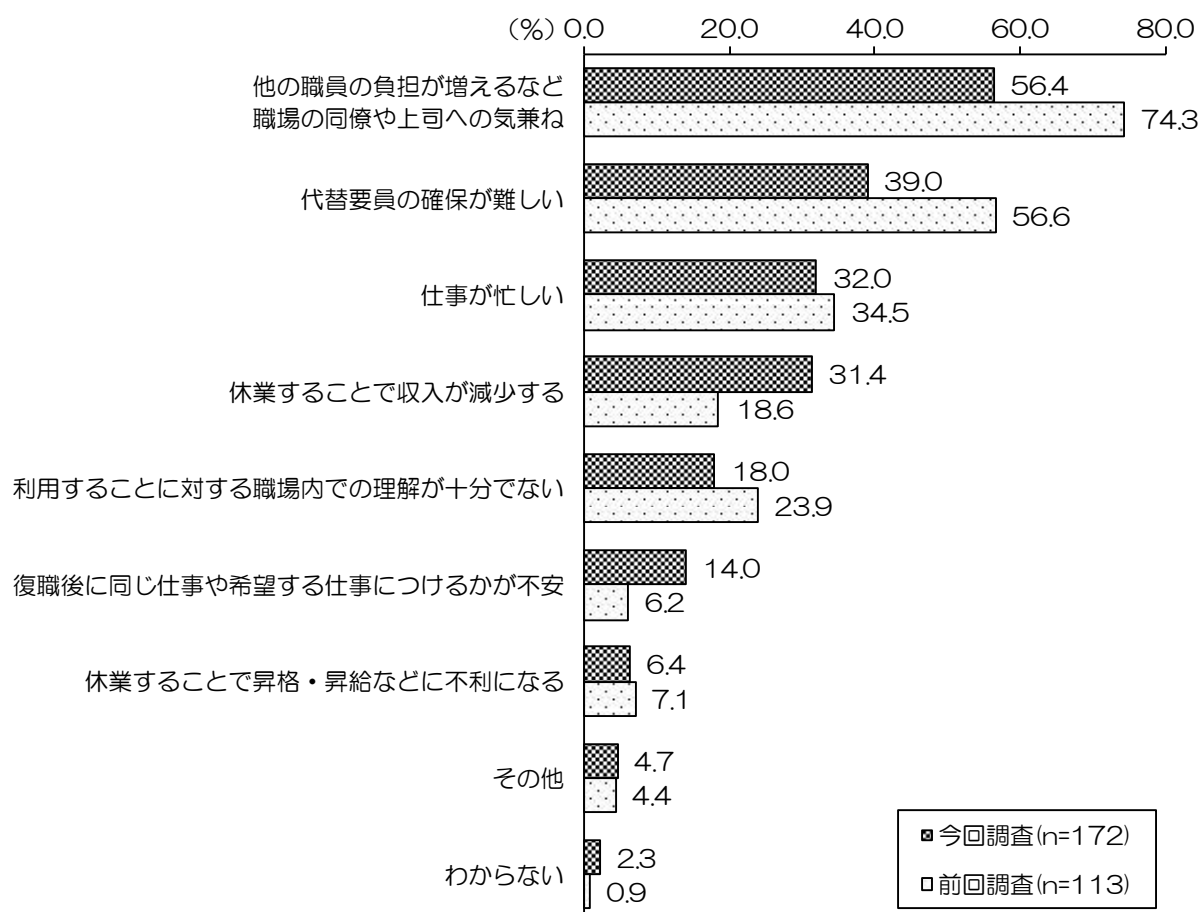
育児休業・介護休業の利用に消極的な理由については、「他の職員の負担が増えるなど職場の同僚や上司への気兼ね」が56.4%と最も高く、次いで「代替要員の確保が難しい」(39.0%)、「仕事が忙しい」(32.0%)、「休業することで収入が減少する」(31.4%)の順となっています。

性別では、女性で「他の職員の負担が増えるなど職場の同僚や上司への気兼ね」「復職後に同じ仕事や希望する仕事につけるかが不安」、男性で「仕事が忙しい」「休業することで収入が減少する」の割合の差がそれぞれ大きくなっています。



### 参考／前回調査との比較

前回調査よりも「他の職員の負担が増えるなど職場の同僚や上司への気兼ね」は 17.9 ポイント、「代替要員の確保が難しい」は 17.6 ポイントと大幅に低くなっています。また、「休業することで収入が減少する」は 12.8 ポイント、「復職後に同じ仕事や希望する仕事につけるかが不安」は 7.8 ポイントそれぞれ高くなっています。



## 【5】配偶者や交際相手からの暴力等について

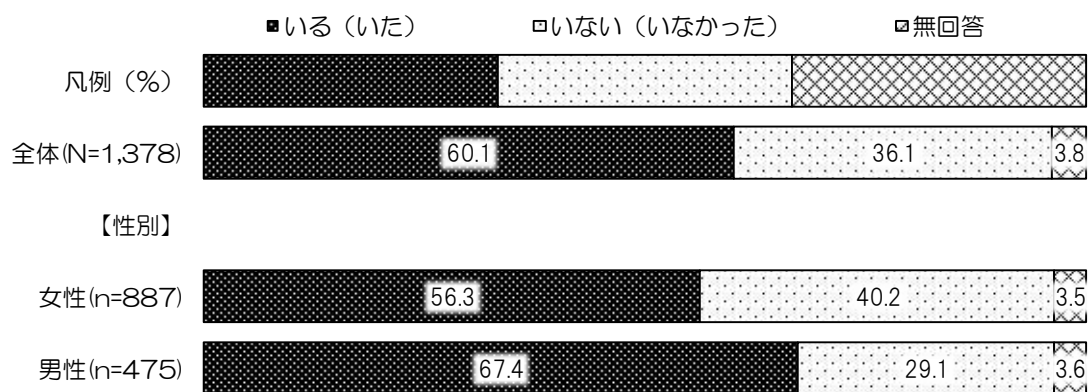
### 1 配偶者からのドメスティック・バイオレンス

#### (1) 過去5年間における配偶者の有無

問 25. あなたは過去5年間に、配偶者がいましたか。(○は1つ)

配偶者には婚姻届を出していない事実婚や同性婚，別居中の夫婦，元配偶者（離婚・死別した相手，事実婚・同性婚を解消した相手）も含まれます。

過去5年間における配偶者の有無については、「いる（いた）」が60.1%、「いない（いなかった）」が36.1%となっており，性別では，女性に比べて男性で「いる（いた）」割合が高くなっています。

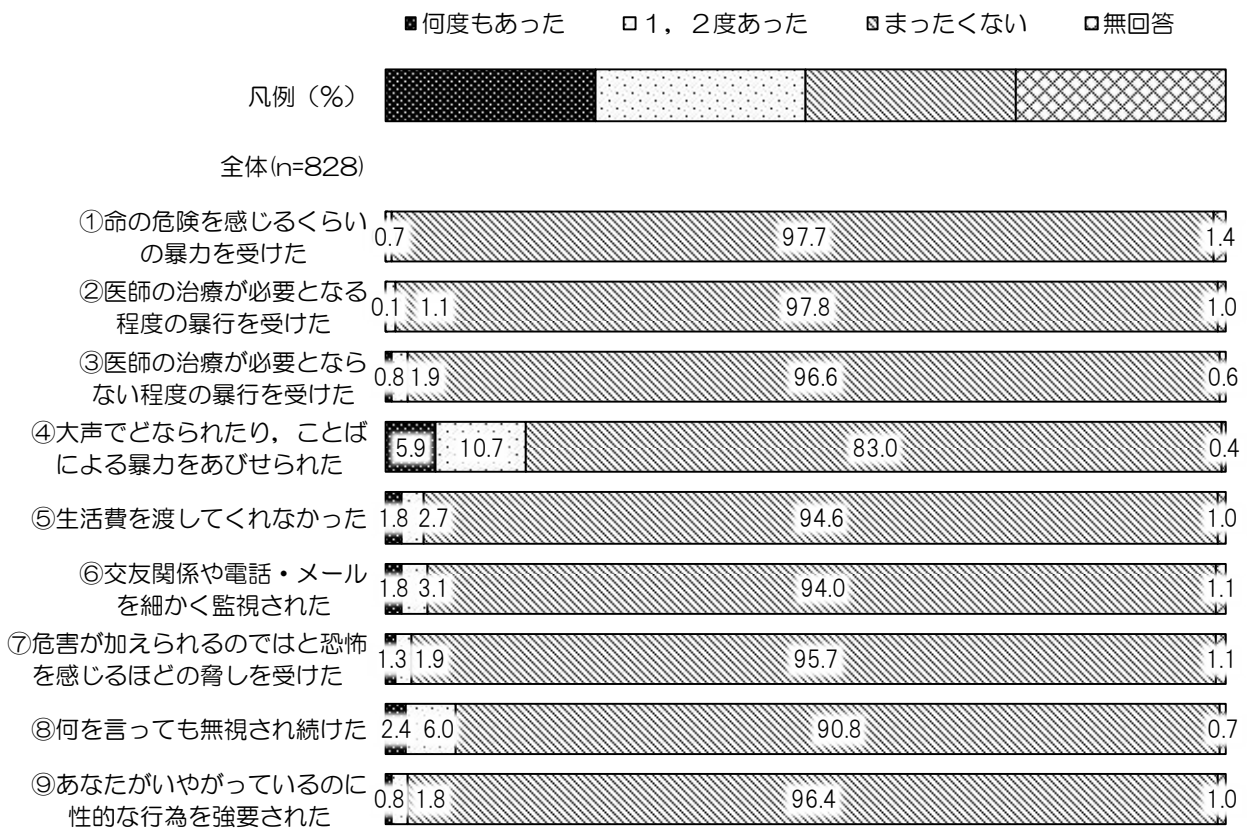




(2) 配偶者からのDV経験について

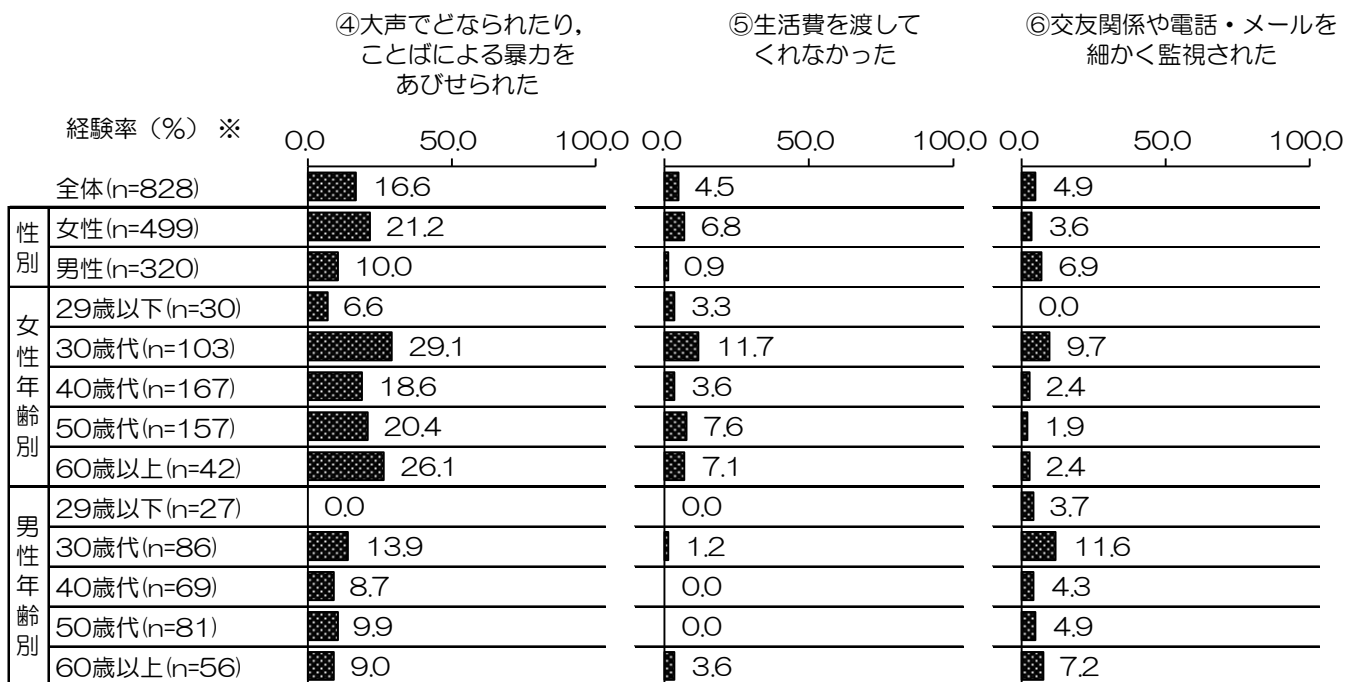
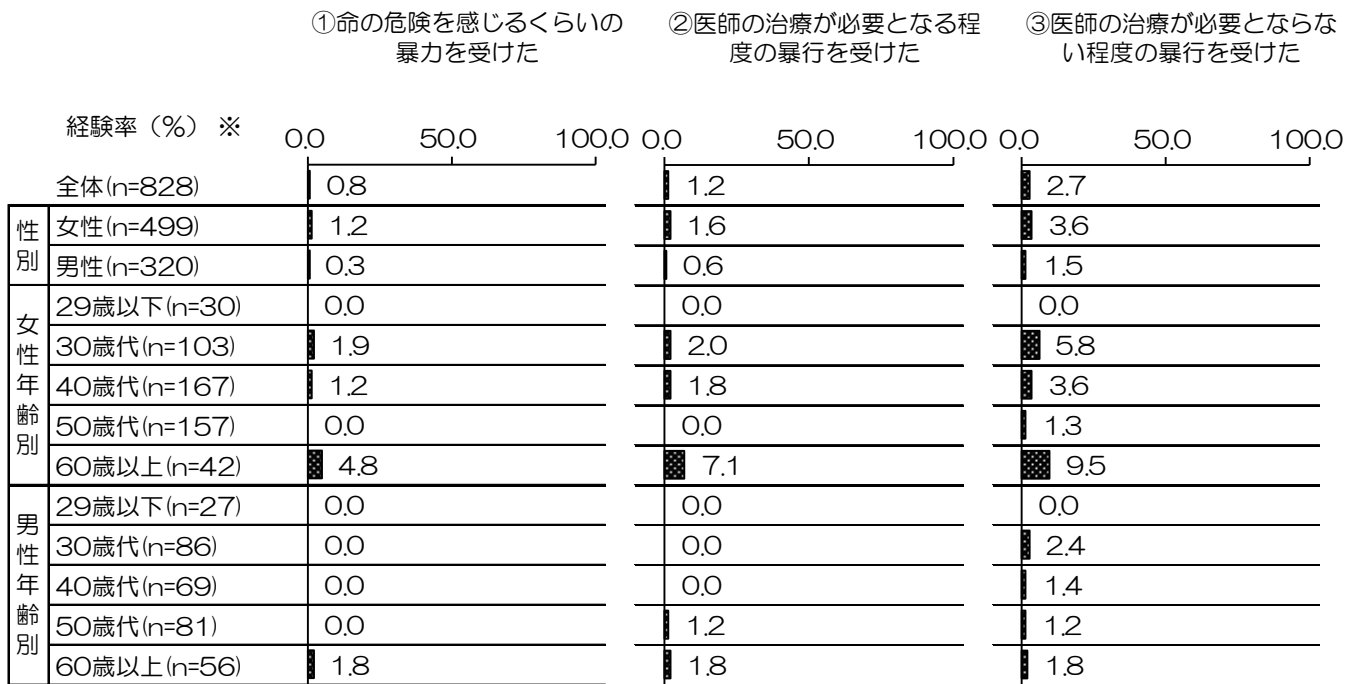
問 25-1. (「1.いる(いた)」と答えた方におたずねします) あなたは過去5年間に、あなたの配偶者から次のようなことをされたことはありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

配偶者からのDV経験については、「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあびせられた」で「1, 2度あった」が10.7%と高く、「何度もあった」(5.9%)を合わせると16.6%が経験したことがあると回答しています。



配偶者からのDV経験について属性別で見ると、性別では、男性に比べて女性で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた」の『経験率※』が高くなっています。

性・年齢別では、女性30歳代で「④大声でどなられたり、ことばによる暴力をあげられた」の『経験率』が3割近くを占めており、他の層に比べて高くなっています。



※ 『経験率』は「何度もあった」と「1, 2度あった」の合計値。以下同様。

